

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	心理学		
担当教員	高瀬 弘樹		
配当年次	1年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>心理学の“心の研究・学問”としての歴史は浅く、古くは実験と観察を通じて始まり、近年では、生活の場における人間の理解を深めて、臨床の場でそれを生かしていこうといった試みも増えている。</p> <p>本講義では、①心理学の入門編として様々な心理学の知見を概観、②心理学の視点や考え方を理解することを目的とする。臨床の話も織り交ぜながら、学生と共に考えていく講義とする。</p>			

学習目標(行動目標)
<p>1. 心理学の歴史やその成果に関して幅広く理解できる。</p> <p>2. 科学としての心理学における諸理論、研究法を説明できる。</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/9	現代心理学の成立	高瀬 弘樹
2	4/16	心の進化	〃
3	4/23	心の発達	〃
4	4/30	動機づけ	〃
5	5/7	情動	〃
6	5/14	身体化認知	〃
7	5/21	性格	〃
8	5/28	知能	〃
9	6/4	メンタルヘルス	〃
10	6/11	心理療法	〃
11	6/25	感覚	〃
12	7/2	知覚	〃
13	7/9	思考・言語	〃
14	7/16	心と社会	〃
15	7/23	まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：資料を配布。 参考書：鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編 「心理学 第4版」 東京大学出版会
成績・評価の方法	期末試験70%，小レポート30%
その他(履修上の留意点)	事前配布資料をよく読んで授業に参加してください。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	倫理学		
担当教員	早坂 俊廣		
配当年次	1年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>「倫理学」とは、人はいかに生きる(生存/生活する)べきか、現実に対してどのように振る舞うことが「正しい/善い」ことなのかを考える学問である。</p> <p>この授業では、人の「からだ」や「いのち」を巡る諸問題を取りあげ、それらに対する様々な考え方を学びながら、倫理学の実践技法を身につけることを目指す。授業は教科書を使いながら講義方式で行うが、自分なりに考えをまとめ、それを表現することや、他者と討論することも実施する。</p>			

学習目標(行動目標)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「倫理学」の基礎を理解し、その実践技法を身につける。 2. 「からだ」や「いのち」を巡る諸問題について思索し、自分なりの考えをまとめられるようになる。 3. 自分なりの考えを他者と表明し合い、ともに討議する姿勢を身につける。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/10	ガイダンス 「倫理学」「生命倫理」とは？	早坂 俊廣
2	4/17	第1章 「生殖医療」	〃
3	4/24	第2章 「インフォームド・コンセント」	〃
4	5/1	第3章 「中絶と胎児の権利」	〃
5	5/8	第4章 「能力・肉体の改造」	〃
6	5/15	第5章 「終末期医療と安楽死」	〃
7	5/22	第6章 「生体臓器移植」	〃
8	5/29	第7章 「クローン技術」	〃
9	6/5	第8章 「ES細胞とiPS細胞」	〃
10	6/19	第9章 「寿命と永遠の命」	〃
11	6/26	第10章 「脳死と臓器移植」	〃
12	7/3	総括(1) テーマを設定し、考えをまとめる。	〃
13	7/10	総括(2) 自分の考えを他者に表明する。	〃
14	7/17	総括(3) 他者と討議を交わして、考えを深める。	〃
15	7/24	最終総括	〃

テキスト・参考図書	テキスト：児玉聡・なつたか『マンガで学ぶ生命倫理－わたしたちに課せられた「いのち」の宿題』 化学同人 参考書：テキストで紹介されている。
成績・評価の方法	授業時のコメント50%、レポート50%
その他(履修上の留意点)	意見を書いたり述べたりしてもらい機会を適宜設けるので、早めにテキスト全体に目を通しておくこと。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	社会福祉学		
担当教員	熊本 圭吾		
配当年次	1年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>リハビリテーションは、高齢者、障害児・者、病者、児童などの社会的弱者を対象とし、社会への適応・再適応や社会参加を促すことを目指すものである。そのためリハビリテーションに従事する者は、社会福祉についての理解と、福祉専門職と連携して支援を行うことが望まれる。</p> <p>本講義では、主としてわが国の社会福祉の政策、制度・サービスについて学び、リハビリテーションの実践と、生活者として自らの住む社会における福祉の概略を知ること为目标とする。</p>			

学習目標(行動目標)
<ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の社会福祉制度の概略を把握する 2. 社会福祉に関する概念・理念について理解する 3. リハビリテーションに関連する社会福祉制度の概略について説明できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/7	社会福祉の基礎概念	熊本 圭吾
2	4/14	日本の社会福祉をとりまく状況・歴史と展開	〃
3	4/21	日本の社会福祉を運営する仕組み	〃
4	4/28	日本の社会福祉に携わる機関	〃
5	5/12	社会福祉の援助と方法	〃
6	5/19	日本の社会保障と公的扶助	〃
7	5/26	子どもの福祉・家庭の福祉(1)	〃
8	6/9	子どもの福祉・家庭の福祉(2)	〃
9	6/16	高齢者福祉	〃
10	6/23	障害者福祉(1)	〃
11	6/30	障害者福祉(2)	〃
12	7/7	地域福祉	〃
13	7/14	社会福祉これからの課題	〃
14	7/21	社会福祉専門職	〃
15	7/23	リハビリテーションと福祉	〃

テキスト・参考図書	テキスト：山縣文治 岡田忠克 編：よくわかる社会福祉 [第10版]，ミネルヴァ書房 参考書：平岡公一，杉野昭博，所 道彦，鎮目 真人：社会福祉学 (New Liberal Arts Selection)，有斐閣
成績・評価の方法	期末試験100%
その他(履修上の留意点)	テキストの該当する章は、少なくとも事前に読了しておくこと

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	教育学		
担当教員	高柳 充利		
配当年次	1年次	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

本科目では、教育社会的な視点を取り入れ、以下の三点を軸に「生涯教育」と「教育的コミュニケーション」について実際的なプランと技法を習得することを目的とする。1. 技術の進歩の著しい現代社会にあって、専門職として活躍する上で必要となる、生涯に渡る自己教育の意義と見通し。2. 成熟社会における一般市民にとっての学びの意義と可能性。3. 医療の現場に携わる専門職に必要な「伝える」「共感する」「習慣を再構築する」ためのアプローチ。以上を学生による発表やディスカッションを適宜取り入れながら講義形式で学ぶ。

学習目標(行動目標)

1. 専門職にとっての生涯にわたる自己教育の意義を自分なりに説明できる。
2. 一般市民にとっての学びの意義について自分なりにイメージをもつことができる。
3. 医療の現場における教育的コミュニケーションについて自分なりの実践の見通しをもつことができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/24	導入 授業の概要、評価の方針等についての説明	高柳 充利
2	10/1	生成と発達 人間が変化するとはどのようなことかについての説明	〃
3	10/8	変容と成長 人間の変化の二つの容態を具体的な事例から検討	〃
4	10/15	ケースの検討 事例検討を通して教育を考える	〃
5	10/22	コラージュの作成 コラージュ作成の体験	〃
6	10/29	コラージュの作成 作成したコラージュの発表と討議	〃
7	11/5	オリジナル・ケースの作成 教育について独自のケースの作成に取り組む	〃
8	11/12	オリジナル・ケースの検討 作成した独自のケースを検討する	〃
9	11/19	教育と文化 教育の課題について文化的作品を通して考える	〃
10	11/26	人生の課題と教育 教育に関わる人生の課題について触れる	〃
11	12/3	人生の前半と後半 人生の前半と後半の対比から教育を考える	〃
12	12/10	人生の段階 人生の各段階の課題を考える	〃
13	12/17	困り感の予想 将来の現場でどのような困り感に直面するかを検討	〃
14	1/7	困り感への対応 将来の職場で直面する可能性のある困り感への対応を検討	〃
15	1/14	まとめ 授業の総括等	〃

テキスト・参考図書	特になし
成績・評価の方法	期末試験60%、平常点(授業中の活動への参加度、提出物等)40%
その他(履修上の留意点)	授業の末尾で、次回までの課題を示すので、留意すること。 (課題は、その回の復習と次の回の予習という性質をもちます。)

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	社会学		
担当教員	山崎 浩司		
配当年次	1年次	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>社会学は、人と人が関わりあうことで形作られ変化していく社会現象を、読み解こうとする学問である。</p> <p>本講義では、特に健康、病気、老い、死、医療、ケア、家族、コミュニティ、制度、格差等をキーワードに、社会学の成果や問いについて学ぶ。</p> <p>授業は講義、視聴覚教材の活用、グループワークや小テストの実施により進めていく。受講生には、社会的なものを見方を身につけ、自分の日常生活や臨床実践を捉えなおす力を養ってほしい。</p>			

学習目標(行動目標)
<p>1. 社会学の基本的な考え方を理解する。</p> <p>2. 特に医療・健康・生老病死に関する現象を理解するうえで、どのように社会学が役立つかを知る。</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/29	イントロ/社会学とは 授業概要の説明、社会学の定義・意義(特に医療社会学)	山崎 浩司
2	10/6	病气行動 受療行動、患者になることの権利と義務	〃
3	10/13	病气と社会 生物医学モデル、社会統合、社会支援、社会関係資本	〃
4	10/20	ラベリング/スティグマ ラベリング/スティグマと逸脱の考え方、精神疾患のとりえ方	〃
5	10/27	社会保障制度1 保健・医療・福祉制度の編制(社会保険)	〃
6	11/10	社会保障制度2 保健・医療・福祉制度の編制(生活保護・福祉制度)	〃
7	11/17	加齢と社会階層 病気の社会的要因としての年齢と社会階層	〃
8	11/24	健康と格差 健康を左右する様々な社会的格差、社会疫学の考え方	〃
9	12/1	ケア/医療 インフォーマルケア、フォーマルケア	〃
10	12/8	死と死別 終生期における相互作用、死別反応	〃
11	12/15	地域/コミュニティ コミュニティの定義、地域づくりの一例	〃
12	12/22	家族 家族の定義、婚姻・家族をめぐる多様な展開	〃
13	1/ 5	ジェンダー/セクシュアリティ ジェンダー/セクシュアリティの定義、多様な性、脱構築	〃
14	1/12	マスメディア/情報化社会 マスメディアの定義、情報化社会の様相	〃
15	1/19	まとめ	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト：宇都宮京子編『よくわかる社会学 第2版』ミネルヴァ書房</p> <p>参考書：中川輝彦・黒田浩一郎編『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ書房</p> <p style="text-align: center;">野村一夫『子犬に語る社会学』洋泉社</p>
成績・評価の方法	リアクションペーパー30%、小テスト20%、期末レポート50%
その他(履修上の留意点)	毎授業後に配布資料を読み返し、テキストや参考書の該当部分を読んで、復習してください。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	物理学		
担当教員	神原 浩		
配当年次	1年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>医療現場や介護現場でも必要となる物理学の基礎を学ぶ。特に力学を中心に、物体に働く力や物体の運動、エネルギーの概念を通して、物理現象の見方や考え方を理解することを目標にする。</p> <p>基本的な問題を解くことで、物理法則の適用法を身につけてもらいたい。また、熱力学や電磁気学の基礎についても触れる。</p>			

学習目標(行動目標)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 力学の基本概念(運動, 運動と力の関係, 力学的エネルギー, 運動量など)を習得する。 2. 熱や波の基本的な性質を理解する。 3. 電磁気学の基本概念(電場, 電位, 電流, 磁場など)を習得する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/6	イントロダクション 物理で使う数学や単位について	神原 浩
2	4/13	物体の運動① 運動の表し方, 等速直線運動, 等加速度直線運動	//
3	4/20	物体の運動② 自由落下, 水平投射, 斜方投射の運動	//
4	4/27	運動と力の関係 物体に働く力の表し方, 力のつり合い, 運動の3法則, 運動方程式	//
5	5/11	剛体のつり合い 重心と力のモーメント	//
6	5/18	圧力と浮力 圧力(大気圧, 水圧)と浮力の考え方	//
7	5/25	仕事とエネルギー 仕事, 力学的エネルギー(運動エネルギー, 位置エネルギー)保存の法則	//
8	6/1	運動量と力積 力積と運動量の変化, 運動量保存の法則	//
9	6/8	熱 熱エネルギー, 熱容量と比熱	//
10	6/15	波動 波の基本的な性質, 音と光	//
11	6/22	静電気 静電気力と電場, 電位	//
12	6/29	電流と電力 電気回路と電流(オームの法則), 電力, コンデンサー	//
13	7/6	電流と磁場 電流のつくる磁場, 磁場中で電流が受ける力, モーター	//
14	7/13	電磁誘導と発電 電磁誘導と発電の仕組み, 交流	//
15	7/27	まとめ これまでのまとめと復習	//

テキスト・参考図書	テキスト: 桑子 研 「まるわかり!基礎物理」 南山堂 参考書: 大野秀樹 他 「基礎物理 上・下」 森北出版
成績・評価の方法	期末試験 100%
その他(履修上の留意点)	復習として, 教科書の章末問題を解くこと。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	統計学		
担当教員	熊本 圭吾		
配当年次	1年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>近年リハビリテーションの分野においても、実証的なデータに基づいたエビデンスを示すことが求められるようになってきている。</p> <p>本講義では、データに基づき仮説を検証する上で、また、データにより現象を示す上で、有力な方法である統計的手法について、その基礎を身に付けることを目標とする。実際にデータを扱い、基礎統計量、統計的推定、統計的検定や相関・回帰分析について、理解・習得する。</p>			

学習目標(行動目標)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎統計量、基礎的な統計的推定について理解する 2. 統計的検定、相関、回帰分析の基礎を理解する 3. 基本的な統計処理や統計解析ができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/28	身近な統計, リハビリテーションにおける統計	熊本 圭吾
2	10/5	度数分布とヒストグラム	〃
3	10/19	代表値(平均値、中央値、最頻値)	〃
4	10/26	尺度、散布度(分散、標準偏差)	〃
5	11/2	確率分布	〃
6	11/9	標本と推定	〃
7	11/16	検定の基礎	〃
8	11/23	統計的検定(1)	〃
9	11/30	統計的検定(2)	〃
10	12/7	統計的検定(3)	〃
11	12/14	独立性の検定、ノンパラメトリック検定 1	〃
12	12/21	ノンパラメトリック検定 2	〃
13	1/4	相関	〃
14	1/18	回帰分析	〃
15	1/21	多変量解析概観	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト：栗原伸一：入門 統計学 -検定から多変量解析・実験計画法まで、オーム社</p> <p>参考書：神田善伸：初心者でもすぐにできるフリー統計ソフトEZR(Easy R)で誰でも簡単統計解析, 南江堂</p> <p>石井俊全：まずはこの一冊から 意味がわかる統計学 (BERET SCIENCE), ベレ出版</p> <p>大上 丈彦(著)メダカ カレッジ(監修)：マンガでわかる統計学 素朴な疑問からゆる〜く解説 (サイエンス・アイ新書), ソフトバンククリエイティブ</p>
成績・評価の方法	期末試験100%
その他(履修上の留意点)	ExcelとEZRを使用し、データ処理の演習を交えて進める

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	生物学		
担当教員	坂口 雅彦		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>高校理科選択制による生物学の知識・理解力の差を補償するとともに、専門医療技術に必要な高度な生物学の理解の前提である基礎的な生物学を理解させることを目標とする。</p> <p>講義内容は、1) 生体を構成する物質, 2) 細胞の構造と機能, 3) 人体を構成する組織・器官, 4) 発生と遺伝, 5) 生命の進化, 6) 多様な生命の存在とその意義等を順次解説する。</p>			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
<p>1. 高校での生物基礎、生物を未履修・理解不足な状態からでも、基礎的な生物学の内容を理解できるレベルに到達する。</p> <p>2. 生化学の授業を理解する上で必要な基礎を理解できる。</p> <p>3. 専門医療技術に必要な高度な生物学の理解の前提である基礎的な生物学を理解できる。</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/25	生物学を学ぶ意義 総論	坂口 雅彦
2	10/2	生体を構成する物質 原子、分子、イオン結合、共有結合の基礎的理解	〃
3	10/9	生体を構成する物質 炭水化物、脂質、タンパク質、核酸等の概説	〃
4	10/16	細胞の構造と機能 細胞内小器官の概説、浸透圧・物質の局在と移動の解説	〃
5	10/23	人体を構成する組織・器官 各内臓の役割の解説	〃
6	10/30	人体を構成する組織・器官 骨格系、筋系、神経系、感覚、記憶学習の解説	〃
7	11/6	発生と遺伝 受精と胚発生、細胞の分化の解説	〃
8	11/13	発生と遺伝 体細胞分裂・減数分裂と染色体の分配の解説	〃
9	11/20	発生と遺伝 メンデルの遺伝の法則、連鎖と組換え解説	〃
10	11/27	発生と遺伝 さまざまな遺伝病とゲノムプロジェクト解説	〃
11	12/4	生命の進化 藍藻による好氣的環境の出現、ミトコンドリア共生説解説	〃
12	12/11	多様な生命の存在とその意義 多種多様な生物の紹介と分類の解説 (動物を中心に)	〃
13	12/18	多様な生命の存在とその意義 多種多様な生物の紹介と分類の解説 (植物を中心に)	〃
14	1/8	多様な生命の存在とその意義 物質循環での各役割、薬剤開発素材としての役割等の解説	〃
15	1/15	まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：Mader 著 坂井・岡田監訳 「ヒューマンバイオロジー」 医学書院
成績・評価の方法	期末試験70%、レポート30%
その他 (履修上の留意点)	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	生化学		
担当教員	帯刀 益夫		
配当年次	2年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>生化学は、化学的手段によって生命現象を生体内の種々の分子の働きとして解明する学問である。本講義では、私達の身体がどのような物質から成り立ち、それらの物質がどのように生体機能を維持しているかを説明する。</p> <p>また、特に遺伝子の働きから、細胞、組織などの生体システムがどのような機構で生命の維持に働いているか、さらには、医学全般の基礎を分子レベルで究明する学問となっていることを説明する。</p>			

学習目標(行動目標)
<ul style="list-style-type: none"> ・私達の身体を作っている化学物質がどのように生体機能を維持しているかを理解できる。 ・個別の代謝経路などの意味を理解できる。 ・遺伝子の働きの原理を理解できる。 ・体の生理的な活動と生化学的な反応や遺伝子の働きを結び付けて理解できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		人体の仕組み 組織レベルと細胞レベル	帯刀 益夫
2		人体の仕組み 分子レベル 生化学とは	〃
3		タンパク質の構造とはたらき	〃
4		糖質の構造とはたらき	〃
5		脂質の構造とはたらき	〃
6		核酸の構造とはたらき	〃
7		酵素の性質とはたらき	〃
8		ビタミンの種類とはたらき	〃
9		水・無機質のはたらき	〃
10		栄養素の消化・吸収	〃
11		エネルギーの消費と供給	〃
12		生体の恒常性を保つシステム	〃
13		遺伝子のはたらき	〃
14		遺伝子のはたらきと人体の仕組み	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：適宜、プリント等を渡す。
成績・評価の方法	期末試験 60% レポート40%
その他(履修上の留意点)	<p>細部の知識と全体像を合わせて理解すること。</p> <p>判らないことがあったらいつでも質問すること。</p> <p>疑問を感じたことを具体的な質問の形にまとめてみる習慣を身につけること。</p>

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	情報処理演習		
担当教員	熊本 圭吾		
配当年次	1年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	演習

授業科目の概要(一般目標)

パーソナルコンピュータは、リハビリテーションの現場においても、臨床や研究を進める上で、今や必須の道具である。
 本講義では、パーソナルコンピュータを利用する頻度が極めて高い、文書作成、表計算、プレゼンテーションの基礎について、事実上の業界標準となっているソフトウェアMicrosoft社のWord, Excel, Power Pointの使い方を中心に、実習形式で学習する。また、コンピュータやインターネットを利用する上で必要となる基礎的な知識についても学習し、日常的なコンピュータの利用が、主体的かつ安全にできるようにすることを目的とする。

学習目標(行動目標)

1. パーソナルコンピュータを用いレポートなどの基礎的な文書作成ができる
2. 表計算ソフトウェアを使い基礎的な集計やグラフ作成ができる
3. パーソナルコンピュータを用い基礎的なプレゼンテーションの作成ができる
4. コンピュータやネットワークを利用する上での基本的な注意事項が理解できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/9	コンピュータとネットワーク, インターネットの基礎知識	熊本 圭吾
2	4/16	情報安全管理, 情報検索	〃
3	4/23	文書作成(1) Wordの基本操作	〃
4	4/30	文書作成(2) 書式設定, レイアウト	〃
5	5/7	文書作成(3) 文書の作成	〃
6	5/14	プレゼンテーション作成(1) PowerPointの基本操作	〃
7	5/21	プレゼンテーション作成(2) スライドの作成	〃
8	5/23	プレゼンテーション作成(3) プレゼンテーションの準備	〃
9	6/4	表計算(1) Excelの基本操作	〃
10	6/11	表計算(2) 数式, 関数	〃
11	6/25	表計算(3) グラフ作成	〃
12	7/2	表計算(4) 集計	〃
13	7/9	表計算(5) 基本統計量	〃
14	7/16	表計算(6) 解析の基礎	〃
15	7/23	ソフト間の連携	〃

テキスト・参考図書	テキスト：宮脇典彦、小沢和浩、坂本憲昭、安藤富貴子、新村隆英：実践コンピューターリテラシー入門，実教出版 参考書：世界思想社編集部：大学生 学びのハンドブック〔改訂版〕，世界思想社
成績・評価の方法	演習課題60%、期末試験40%
その他(履修上の留意点)	単なるパソコン操作練習ではなく、ネットやコンピュータに関する社会常識を身に着けること、レポート作成、集計作業、プレゼンテーションについて、基本的な考え方や方法を理解できることを重視する。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	体育実技		
担当教員	福田 敬介		
配当年次	1年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授業科目の概要(一般目標)			
<p>全人的な人間形成に必要な身体運動に関する科学的な知識と、筋・心肺機能についての特性を理解し、それぞれの機能の維持や向上を図るための基本的な知識を身につけ、実技を行う。</p>			

学習目標(行動目標)
<p>1. 自らの心身の健康を維持・向上させるためのプログラムを立案し、実践できるようにする 2. チームスポーツを通してチーム医療につながるコミュニケーション能力を養う</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/9	オリエンテーション・授業の進め方、注意事項について	福田 敬介
2	4/16	屋外実技 1. ソフトボール	〃
3	4/23	2. サッカー	〃
4	4/30	3. ランニングなど	〃
5	5/7	屋内実技 1. ソフトバレーボール	〃
6	5/14	2. バドミントン	〃
7	5/21	3. 卓球	〃
8	5/28	講義演習 1. 心肺機能維持向上	〃
9	6/4	2. 筋機能維持向上	〃
10	6/11	についてのトレーニング方法の講義、並びに自ら被検者	〃
11	6/25	となつての演習.	〃
12	7/2	上記を組み合わせながら実施するが、天候に左右されるので、	〃
13	7/9	時々に応じてメニューを決定する.	〃
14	7/16		〃
15	7/23		〃

テキスト・参考図書	テキスト： 参考書：
成績・評価の方法	期末試験100%
その他（履修上の留意点）	学生の中から係を決め、係を通じて当日詳細を連絡する。 運動ができる服装の準備をすること。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	体育学		
担当教員	田邊 愛子		
配当年次	1年次	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>ヒトの身体がどのような過程を経て大人へと成長していくかを理解することは重要なことである。ここでは単に遺伝的な素質が変容する過程としての変化ではなく、どのように才能を開花させるか、といった視点による発育発達理解が重要となる。</p> <p>そこで本講義では、基本的な運動生理学を学習したうえで、成人以降の老化と体力や運動能力などの関連を理解するとともに、体力と遺伝的要因や運動の実践の有無など後天的要因との関連についても学習する。</p>			

学習目標(行動目標)	
<p>健康と運動についての基礎的知識を学び、ヒトの発育発達および加齢における身体変化に応じて幅広い視点からの確かな指導ができるようになることを目的とする。</p>	

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/29	運動基準・指針 日本の健康づくりのための運動基準と指針	田邊 愛子
2	10/6	発育発達における運動 発育発達における各段階での運動処方について	〃
3	10/13	トレーニング原則 トレーニング原則と原理	〃
4	10/20	ウォーミングアップ ウォーミングアップとストレッチングの基礎理論	〃
5	10/27	加齢と体力(1) 生活習慣病予防と運動処方	〃
6	11/10	加齢と体力(2) ロコモティブシンドロームと運動処方	〃
7	11/17	加齢とトレーニング(1) 効果的なトレーニングとは有酸素運動と無酸素運動	〃
8	11/24	加齢とトレーニング(2) レジスタンストレーニングの基礎理論	〃
9	12/1	加齢とトレーニング(3) ウォーキングの理論と実践	〃
10	12/8	エネルギー消費量 エネルギー消費と基礎代謝	〃
11	12/15	運動と性別 運動処方における性差	〃
12	12/22	運動と水分補給 運動時と水分補給	〃
13	1/ 5	遺伝的要因 体力と遺伝的要因	〃
14	1/12	障害予防と運動 障害予防のためのコンディショニング概論	〃
15	1/19	講義全体のまとめ まとめ	〃

テキスト・参考図書	特になし
成績・評価の方法	試験85%、レポート15%
その他(履修上の留意点)	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	英語 I		
担当教員	伊原 巧		
配当年次	1 年	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
<p>諸外国の保健・医療の専門職と交流、協力できる人材を育成する上で不可欠な能力である、英語の受信・発信力と異文化対応力を育成するために、英文を読む力と書く力を培うと共に、比較文化的視点から自文化と異文化への気づきを高めることによって、国際的マインドを培う。</p> <p>この目標を達成するために、日本人とアメリカ人が政治、経済、文化、健康、人生等をどのように理解しているか、各分野における違いについて書かれた英文を読ませ、英文読解力を高める。次に、各分野で理解した日米の違いに対する対応法を自分の立場から英語で書かせ、英作文力と異文化対応力を高める。</p>			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
国際交流するのに必要な、英文読解力と英作文力並びに異文化対応力が高まる。

回	PT 開講日	OT 開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/10	4/7	本授業の目標と概要、使用するテキスト、授業の進め方、課題、成績・評価等に関する解説を行う。	伊原 巧
2	4/17	4/14	Lesson 1: Apologiesを読み、謝罪に対する日米の捉え方の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200語以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
3	4/24	4/21	Lesson 2: Politenessを読み、例日に対する日米の捉え方の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200語以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
4	5/1	4/28	Lesson 3: Friendshipを読み、友情に対する日米の捉え方の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200語以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
5	5/8	5/12	Lesson 5: Honestyを読み、誠実さに対する日米の捉え方の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200語以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
6	5/15	5/19	Lesson 5: Business Goalsを読み、ビジネス目標に対する日米の捉え方の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200語以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
7	5/22	5/26	Lesson 6: The Work Ethicを読み、労働倫理に対する日米の捉え方の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200語以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
8	5/29	6/9	Lesson 7: The Japan-U.S. Allianceを読み、日米同盟に対する日米の捉え方の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200語以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
9	6/5	6/16	Lesson 8: Aging Populationsを読み、高齢化人口に対する日米の捉え方の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200語以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
10	6/19	6/23	Lesson 9: Health Careを読み、健康に対する日米の捉え方の違いを明確にする。違いに対する対応法を200語以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
11	6/26	6/30	Lesson 10: Marriageを読み、結婚に対する日米の捉え方の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200語以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
12	7/3	7/7	Lesson 11: Deathを読み、死に対する対応法を200語以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
13	7/10	7/14	Lesson 12: National Characterを読み、国民性に対する日米の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200語以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
14	7/17	7/21	Lesson 13: Lifestylesを読み、生き方に対する日米の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200語以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
15	7/24	7/28	Lesson 14: Rights and Responsibilitiesを読み、権利と義務に対する日米の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200語以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃

テキスト・参考図書	テキスト：『Japan and America: How They are Different』 Paul McLean著 (朝日出版)
成績・評価の方法	期末筆記試験(30%)とレポート提出(70%)：成績は60点以上を合格とする。
その他 (履修上の留意点)	英語のレポートを毎回確実に提出して下さい。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	英語Ⅱ		
担当教員	伊原 巧		
配当年次	1年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

保健・医療系の大学でコメディカルを目指す学生が、専門的な医療英語への橋渡しとなる基礎的な医療英語を、実際の保健・医療現場や諸外国の専門職との国際交流や協力の場で使えるように、生きた医療英語の総合的なコミュニケーション能力を培う。

この目標を達成するために、リハビリテーションに焦点をあて、“Physical Therapy”や“Occupational Therapy”などの医療系特有のトピックを扱った英文を読ませると共に、それらの英文を用いて口頭でのコミュニケーションができるようにリスニング力とスピーキング力を高める。

学習目標(行動目標)

リハビリテーションを扱った英文が読めるようになると共に、患者さんとの簡単なコミュニケーションを英語でできるようになる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/25	本授業の目標と概要、使用するテキスト、授業の進め方、課題、成績・評価等に関する解説を行う。	伊原 巧
2	10/2	Chapter 1 Higher Brain Dysfunction: Warm-up, Reading, Dialogを行う。宿題を出す。	〃
3	10/9	宿題の解答を行い、Chapter 2 Parkinson's Disease: Warm-up, Reading, Dialogを行う。宿題を出す。	〃
4	10/16	宿題の解答を行い、Chapter 3 Osteoporosis: Warm-up, Reading, Dialogを行う。宿題を出す。	〃
5	10/23	宿題の解答を行い、Chapter 4 Cerebral Apoplexy(Stroke): Warm-up, Reading, Dialogを行う。宿題を出す。	〃
6	10/30	宿題の解答を行い、Chapter 5 Cardiovascular Disease: Warm-up, Reading, Dialogを行う。宿題を出す。	〃
7	11/6	宿題の解答を行い、Chapter 6 Diabetes Mellitus(DM): Warm-up, Reading, Dialogを行う。宿題を出す。	〃
8	11/13	Chapter 1~6のまとめ	〃
9	11/20	宿題の解答を行い、Chapter 7 Respiratory Disease: Warm-up, Reading, Dialogを行う。宿題を出す。	〃
10	11/27	宿題の解答を行い、Chapter 8 Chronic Rheumatoid Arthritis: Warm-up, Reading, Dialogを行う。宿題を出す。	〃
11	12/4	宿題の解答を行い、Chapter 9 Femoral Neck Fracture: Warm-up, Reading, Dialogを行う。宿題を出す。	〃
12	12/11	宿題の解答を行い、Chapter 10 Spinal Cord Injury: Warm-up, Reading, Dialogを行う。宿題を出す。	〃
13	12/18	宿題の解答を行い、Chapter 11 Cerebral Palsy: Warm-up, Reading, Dialogを行う。宿題を出す。	〃
14	1/8	宿題の解答を行い、Chapter 12 Case Study: Case Study Reportを読み、患者プロフィールに要点を記入し、Conferenceを行う。	〃
15	1/15	Chapter 7~12のまとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：『The Art of Healing』 荒金房子他著 南雲堂
成績・評価の方法	期末筆記試験(80%)、まとめの作業(20%)
その他(履修上の留意点)	しっかりと宿題を行ってこること。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	医学英語 I		
担当教員	伊原 巧		
配当年次	2年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

初めて医学英語に接する医学・医療技術系の大学生が、専門的な医学英語への橋渡しとなる基礎的な医学英語を理解する力を培う。

この目標を達成するために、医学・医療の基本である人体の主要な組織や器官や機能について解説した専門図書を読むことによって、その内容、及びそれぞれの医学用語を理解すると共に、日常英語とは異なる医学英語の特徴、特にほとんどがギリシャ語、ラテン語からの借入である医学用語特有の構成パターンを学び、医学英語に慣れることを目指す。

学習目標(行動目標)

医学用語が理解できると共に、基礎的な医学英語が読めるようになる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		本授業の目標と概要、使用するテキスト、授業の進め方、まとめ、成績・評価等に関する解説を行う。	伊原 巧
2		CHAPTER 1 The Human Body	〃
3		前時のまとめと、CHAPTER 2 The Skeletal System	〃
4		前時のまとめと、CHAPTER 3 The Muscular System	〃
5		前時のまとめと、CHAPTER 4 The Circulatory System	〃
6		前時のまとめと、CHAPTER 5 The Lymphatic System	〃
7		前時のまとめと、CHAPTER 6 The Respiratory System	〃
8		前時のまとめと、CHAPTER 7 The Digestive System	〃
9		前時のまとめと、CHAPTER 8 The Urinary System	〃
10		前時のまとめと、CHAPTER 9 The Nervous System	〃
11		前時のまとめと、CHAPTER 10 The Sense Organs	〃
12		前時のまとめと、CHAPTER 11 Endocrine/Exocrine System	〃
13		前時のまとめと、CHAPTER 12 The Reproductive System	〃
14		前時のまとめと、CHAPTER 13 Aging and the end of life	〃
15		前時のまとめと、全体のまとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：「医療従事者のための医学英語入門」 清水雅子著 講談社
成績・評価の方法	期末筆記試験(35%)、まとめの作業(65%)
その他(履修上の留意点)	まとめの準備を必ず行うと共に、「医学英語の常識」を読んでくること。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	医学英語Ⅱ		
担当教員	伊原 巧		
配当年次	2年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

障害に関する国際情勢、海外協力の在り方を理解させる上で不可欠な、リハビリテーションに関わるWHO発行の英語文献を、英語での議論を交えて精読させ、その内容を理解させると共に、医学英語の読解力と英語運用力の向上を目指す。

この目標を達成するために、WHOが2010年に発表した「CBR(地域に根ざしたリハビリテーション) ガイドライン」の英語版を、英語での議論を時折交えながら深く読んでいくことで、障害に関する国際情勢、海外協力の在り方に対する理解を深める。

学習目標(行動目標)

英語で書かれた専門的な文献が深く読めるようになると共に、簡単な英語で専門的な議論ができるようになる。また、障害とリハビリテーションに関する国際情勢と、海外協力の在り方に対する理解が深まる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーションを行い、文献のIntroductionを読む。	伊原 巧
2		BOX23 KenyaのForging public-private partnershipsを英語を交えながら読む。	〃
3		BOX23 KenyaのKey concepts: Rehabilitation, Rehabilitation interventionsを英語を交えながら読む。	〃
4		Box23 KenyaのKey concepts: Rehabilitaion servicesを英語を交えながら読む。	〃
5		BOX24 China: Li's journey to independenceを英語を交えながら読む。	〃
6		BOX24 China: Suggested activitiesを英語を交えながら読む。	〃
7		BOX24 China: Suggested activitiesを英語を交えながら読む。	〃
8		これまで理解したことを英語で発表し、議論する。	〃
9		BOX25 Iranを英語を交えながら読む。	〃
10		BOX26 Egyptを英語を交えながら読む。	〃
11		BOX27 Guyanaを英語を交えながら読む。	〃
12		BOX28 Viet Namを英語を交えながら読む。	〃
13		BOX29 Indiaを英語を交えながら読む。	〃
14		BOX30 Viet Namを英語を交えながら読む。	〃
15		これまで理解したことを英語で発表し、議論する。	〃

テキスト・参考図書	テキスト：プリント配布
成績・評価の方法	期末筆記試験(80%)、発表(20%)
その他(履修上の留意点)	かなり専門的な内容なのでしっかり予習をしてくること。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	ハングル		
担当教員	高橋 比紗子		
配当年次	1年次	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

ハングルは朝鮮半島を中心に話されている言葉で、文法や単語など日本語と共通する部分の多い言語である。そのため日本人にとって最も簡単で学びやすい外国語と言われている。ハングルの文字や仕組みや発音、基礎的な文法を習得した上で、最終的には日常的な会話が可能になるレベルを目指す。多くの学生に発言する機会を与え、対話形式で進めていくことで、積極的に授業に参加できる環境づくりを目指す。基本的に教科書に準じて指導する。多くの学生に発言する機会を与えつつ、対話形式で進めていくことで、積極的に授業に参加できる環境づくりを目指す。また、韓国のドラマや映画などを取り入れ、直接韓国文化に触れる機会を作る。

学習目標(行動目標)

基礎的な韓国語を理解し、テレビドラマや映画を楽しむことができる。
 現地を訪れても、簡単なコミュニケーションができ、楽しむことができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/29	韓国語について・文字の構成と発音・簡単な挨拶	高橋 比紗子
2	10/6	ハングルの母音	〃
3	10/13	ハングルの子音	〃
4	10/20	パッチム	〃
5	10/27	読み書きの復習	〃
6	11/10	発音の変化	〃
7	11/17	自己紹介・助詞「は」	〃
8	11/24	肯定文・疑問文・「が」	〃
9	12/1	否定文・助詞「も」	〃
10	12/8	用言の丁寧形・습니다体	〃
11	12/15	用言の丁寧形・요体	〃
12	12/22	丁寧形の復習	〃
13	1/ 5	疑問詞	〃
14	1/12	復習	〃
15	1/19	総復習	〃

テキスト・参考図書	テキスト：未定、第一講義時に指示する。 第一項は資料を配布し授業を行う。 参考書：
成績・評価の方法	平常評価30%、中間レポート30%、期末試験40%
その他(履修上の留意点)	事前学習：事項の範囲に目を通してくること。 事後学習：反芻し、習得させておくこと。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	中国語		
担当教員	張 勇		
配当年次	1年次	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>中国語では、国際化しつつある地域の特性を踏まえ、異文化を理解しつつ医療現場に対応するために中国語の基礎を学ぶ。</p> <p>目標：①中国語の基礎を理解できる。②中国語による簡単な会話ができる。③異文化に触れ、国際社会に関心を寄せることができる。</p> <p>講義内容は、発音の話、辞書の引き方を解説し、基本的な中国語文を覚えることを中心に、基本文法の理解を学ぶ。また、中国語表現に関する日本と中国の違いや文化の違い等をビデオ等を利用しつつ映像などととも紹介する。</p>			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
<p>1. 異文化を理解する。</p> <p>2. 中国語の基礎を学ぶことができる。</p> <p>3. 自己紹介、ご挨拶、基本文法を学ぶことができる。</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/29	オリエンテーション 異文化理解について	張 勇
2	10/6	現代中国の基礎知識 東西健康観・身体観、中国事情について	〃
3	10/13	名前とあいさつ 自己紹介	〃
4	10/20	中国語の基礎を学ぶ 中国語とは 中国語の歴史、文字改革	〃
5	10/27	.. 発音、ピンイン、声調(四声)	〃
6	11/10	.. 発音、ピンイン、声調(四声)	〃
7	11/17	.. 発音、ピンイン、声調(四声)	〃
8	11/24	.. 漢詩の朗読	〃
9	12/1	.. 季節、生活用語	〃
10	12/8	.. 身体部位、医療の用語	〃
11	12/15	.. 基礎文法、作文など	〃
12	12/22	中国語の基礎を学ぶ 旅行、買い物などの会話実践	〃
13	1/ 5	中国の医療事情 漢方薬とは? 按摩・推拿について	〃
14	1/12	テスト 模擬テスト	〃
15	1/19	まとめ 模擬テストと解答	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト：立石昌広、張勇編「漢語学習-やさしい中国-」ほずき書籍、2014年4月</p> <p>参考書：</p>
成績・評価の方法	試験80%、授業態度など20%
その他(履修上の留意点)	事前配布資料をよく学習して授業に参加してください。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	解剖学（総合）		
担当教員	森泉 哲次、川岸 久太郎、福島 菜奈恵		
配当年次	1年次	配当学期	通年
年間授業回数	30回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

神経系に重点を置きつつ、解剖学全般を講義する（骨・関節・骨格筋の各論は除く）。解剖学は「暗記」の学問ではなく、「人体の構造」を「理解」することが大切である。無論、人体は非常に複雑であり、初学者はそれなりに苦労するであろうが、一歩ずつ前進できるように、講義の内容を工夫したいと考えている。

学習目標（行動目標）

1. 基礎的な人体の正常構造を説明できる。 2. 末梢神経・中枢神経の構造と機能を説明できる。

	回	開講日	講義および実習の内容	担当
前 期	1	4/7	運動器・感覚器・感覚神経系Ⅰ	森泉哲次
	2	4/14	〃	〃
	3	4/21	感覚器・感覚神経系Ⅱ	〃
	4	4/28	〃	〃
	5	5/12	まとめ	〃
	6	5/19	脈管Ⅰ（総論） 脈管Ⅱ（心臓）	川岸久太郎
	7	5/26	〃	〃
	8	6/9	脈管Ⅲ（動脈・静脈） 脈管Ⅳ（リンパ）	〃
	9	6/16	〃	〃
	10	6/23	呼吸器Ⅰ・Ⅱ	〃
	11	6/30	〃	〃
	12	7/7	消化器・内分泌	〃
	13	7/14	〃	〃
	14	7/21	泌尿器・生殖器	〃
	15	7/28	まとめ	〃
後 期	1	9/29	末梢神経Ⅰ	森泉哲次
	2	10/6	〃	〃
	3	10/13	末梢神経Ⅱ	〃
	4	10/20	〃	〃
	5	10/27	末梢神経Ⅲ	〃
	6	11/10	〃	〃
	7	11/17	まとめ	〃
	8	11/24	中枢神経Ⅰ	福島菜奈恵
	9	12/1	〃	〃
	10	12/8	中枢神経Ⅱ	〃
	11	12/15	〃	〃
	12	12/22	中枢神経Ⅲ	〃
	13	1/5	〃	〃
	14	1/12	中枢神経Ⅳ	〃
	15	1/19	まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：「ネッター解剖学アトラス 原著第5版」南江堂 「標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第3版」医学書院
成績・評価の方法	筆記試験（中間試験＋期末試験）100%
その他（履修上の留意点）	予習・復習を十分行うこと。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	解剖学実習（人体解剖観察）		
担当教員	森泉 哲次、川岸 久太郎、福島 菜奈恵		
配当年次	1年次	配当学期	後期
年間授業回数		単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>1年を通じて学習してきた解剖学のまとめとして、運動器・神経系（脳を含む）を中心に人体解剖実習（観察）を行う。人体の正常構造を理解するとともに、ご遺体を通して生命の尊厳・医の倫理を学ぶ。実習室に設けられたご遺体ごとに解剖の進行度が異なっている。テーブルを順にまわって観察する。</p> <p>A：内臓（全身） B：内臓摘出標本 C：中枢神経（概観） D：中枢神経（内部構造・断面） E：浅層筋 腹側 F：浅層筋 背側 G・H・I：深層筋・末梢神経・脈管系 J：関節</p> <p>事前オリエンテーション 1日目 オリエンテーション・観察実習1 2日目 観察実習2 ・ 観察実習3 3日目 口頭試問</p>			

学 習 目 標（行 動 目 標）
1. 基礎的な人体の正常構造を説明できる。2. 実習を通して、生命の尊厳・医の倫理について学ぶ。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	2/17	オリエンテーション・観察実習1	森泉 哲次 他
2			//
3			//
4			//
5			//
6	2/18	観察実習2・観察実習3	//
7			//
8			//
9			//
10			//
11	2/19	口頭試問	//
12			//
13			//
14			//
15			//

テキスト・参考図書	テキスト： 参考書：
成績・評価の方法	口頭試問100%
その他（履修上の留意点）	献体の意義を理解し、真摯な態度で実習に参加すること。事前配布資料を参考に、しっかりと予習してくること。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	生理学		
担当教員	三井 由香		
配当年次	1年次	配当学期	通年
年間授業回数	30回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

人体の正常な機能がどのような仕組み(機序)のもとでとり行われているかを学び、生理学的な思考方法を身につける。授業内容は細胞レベルから統合機能までを含み、次の部分から構成される。

1. 生命の恒常性を維持するための呼吸、血液・循環、消化吸收、代謝、排泄機能と、それらの調節を担う内分泌系と自律神経系の機能(植物性機能)
2. 外界の環境変化を受け入れる感覚機能、それに反応するための筋肉系による運動機能、それらを制御・処理する中枢神経系の機能(動物性機能)

学習目標(行動目標)

1. 生命維持に重要な循環・呼吸・消化・排泄・内分泌などの生理機能を学び、それら機能が関連して、生体の内部環境が維持されていることを理解する。
2. 神経・筋肉の特徴、神経系、感覚系を学び、神経により運動機能や感覚機能が調節されることを理解する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/8	細胞生理学	三井 由香
2	4/15	細胞膜の生理学	//
3	4/22	血液Ⅰ	//
4	5/13	血液Ⅱ	//
5	5/20	心臓・循環Ⅰ	//
6	5/27	心臓・循環Ⅱ	//
7	6/3	呼吸Ⅰ	//
8	6/10	呼吸Ⅱ	//
9	6/17	消化・吸収Ⅰ	//
10	6/24	消化・吸収Ⅱ	//
11	7/1	消化・吸収Ⅲ	//
12	7/8	代謝・体温	//
13	7/15	体液・排泄Ⅰ	//
14	7/22	体液・排泄Ⅱ	//
15	7/29	前期のまとめ	//
16	9/30	内分泌Ⅰ	//
17	10/7	内分泌Ⅱ	//
18	10/14	興奮の発生と伝導	//
19	10/21	骨格筋の収縮	//
20	10/28	シナプス伝達	//
21	11/4	神経系Ⅰ	//
22	11/11	神経系Ⅱ	//
23	11/18	神経系Ⅲ	//
24	11/25	運動系Ⅰ	//
25	12/2	運動系Ⅱ	//
26	12/9	運動系Ⅲ	//
27	12/16	感覚系Ⅰ	//
28	1/6	感覚系Ⅱ	//
29	1/13	感覚系Ⅲ	//
30	1/20	後期のまとめ	//

テキスト・参考図書	テキスト：「生理学テキスト 第6版 文光堂 2010」大地陸男 参考書：「シンプル生理学 改訂第6版 南江堂 2010」貴邑富久子 根来英雄 「好きになる生理学ミニノート 講談社 2010」田中越郎
成績・評価の方法	試験70%、小テスト30%
その他(履修上の留意点)	生理学の内容は積み上げ型です。前に講義した内容に新しい内容が積み上がっていきます。疑問点を放置することなく、調べる、聞きに来るなどして解決し、次に進んでください。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	生理学実習		
担当教員	三井 由香, 福谷 保, 大町 かおり, 下坂 充, 下田 浩一, 阿部 裕一		
配当年次	2年次	配当学期	前期
年間授業回数	25回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習

授業科目の概要(一般目標)

生理学で確立されている機序や理論はいずれも実験や観察に基づいて得られたものである。生理学実習では学生自らがいくつかの実験に携わり、生物の法則がどのようにして得られるか、また生き物や実験装置の取り扱いにはいかに留意すべきかなどの多くを体験する。血圧、感覚、呼吸、末梢神経、骨格筋の各実験で得られた現象を自らの眼で確認し、生理学の講義で習得した知識についてさらに理解を深め、実験の考察を通して生理学的な思考方法を学ぶ。また講義では、恒常性の破綻としての疾病のいくつかを重点的に取り上げ、恒常性維持の重要性に対する理解を深める。

学習目標(行動目標)

1, カエルの坐骨神経を用いて、活動電位の伝導機序と特徴を理解する。 2, カエルの腓腹筋を用いて、筋収縮機序と特徴を理解する。 3, 呼吸機能測定を通じ、肺気量の区分と、換気障害について理解する。 4, 血圧測定を習得し、体位変換や運動時における血圧の変化、調節について理解する。 5, 2点弁別の実習を通じ、感覚受容の機序を理解する。 6, 浮腫、黄疸、酸塩基平衡異常など、恒常性の破綻による疾患について理解する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		入門1 実習オリエンテーション	三井 由香
2		〃 〃	三井 由香
3		入門2 実習デモンストレーション	全員
4		〃 〃	全員
5		実習1回目 神経束の活動電位 I	全員
6		〃 〃	全員
7		講義 微小循環, 膠質浸透圧とその異常	三井 由香
8		実習2回目 神経束の活動電位 II	全員
9		〃 〃	全員
10		講義 浮腫	三井 由香
11		実習3回目 骨格筋の収縮	全員
12		〃 〃	全員
13		講義 ビリルビン代謝とその異常, 黄疸	三井 由香
14		実習4回目 呼吸運動	全員
15		〃 〃	全員
16		講義 酸塩基平衡	三井 由香
17		実習5回目 感覚(2点弁別)	全員
18		〃 〃	全員
19		講義 酸塩基平衡異常	三井 由香
20		実習6回目 血圧の測定	全員
21		〃 〃	全員
22		講義 実習の統括 I	三井 由香
23		講義 実習の統括 II	三井 由香
24		実習発表会 各実習項目の発表	全員
25		〃 〃	全員

テキスト・参考図書	テキスト：「生理学実習マニュアル」(長野保健医療大学版) 大地陸男：生理学テキスト 第6版 文光堂, 2010 参考書：真島英信：生理学(18版), 文光堂, 1986 貴邑富久子, 根来英雄：シンプル生理学 改訂第6版, 南江堂, 2010
成績・評価の方法	レポート70%, 試験30%
その他(履修上の留意点)	本実習では実験動物を扱う。生命に対する敬意と感謝をもって真摯に実習に臨んでほしい。生理学で学んだことがベースとなるので、生理学の該当箇所での復習をしておく。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	運動学Ⅱ（反射・感覚・代謝）		
担当教員	赤羽 勝司		
配当年次	2年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

様々な運動が可能となる基本的な生理的機序と障害の概略について、臨床的な科目と関連付けられるよう理解して習得する。

1. 基本的な反射の機序・脊髄反射・狭義の姿勢反射・立ち直り反応・平行反応・随意運動の機序。2. 換気運動を中心とした呼吸の生理的機序および運動との関係、基本的な換気障害の機序。3. 血圧・心拍などの循環の生理的機序および運動との関係。4. 栄養とエネルギー代謝の生理的機序と運動との関係。5. 体温調節の生理的機序と運動との関係。

学習目標（行動目標）

神経系の運動神経生理学に基づく運動学について、呼吸・循環・代謝などの生理学に基づく運動学について習得することを目的とする。

生理学で習得した内容を、運動との関係を整理し理解を深めることを目的とする。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション, 運動の中枢神経機構 (1)	赤羽 勝司
2		運動の中枢神経機構 (2)	〃
3		運動の中枢神経機構 (3)	〃
4		感覚器の構造と機能 (1)	〃
5		感覚器の構造と機能 (2)	〃
6		感覚器の構造と機能 (3)	〃
7		呼吸と運動 (1)	〃
8		呼吸と運動 (2)	〃
9		循環と運動 (1)	〃
10		循環と運動 (2)	〃
11		運動と体温調整	〃
12		運動と腎機能	〃
13		運動とエネルギー代謝 (1)	〃
14		運動とエネルギー代謝 (2)	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：中村隆一，齋藤 宏：基礎運動学 第6版補訂，医歯薬出版，2007 参考書：真島英信：生理学（18版），文光堂，1986 貴邑富久子，根来英雄：シンプル生理学 改訂第6版，南江堂，2010 大地陸男：生理学テキスト 第7版，文光堂，2013
成績・評価の方法	授業態度10%，小テスト10%，期末試験80%
その他（履修上の留意点）	基礎的生理学を整理した上で、身体運動に関係する生理学的知識を習得します。1年生で修得する「生理学」を必ず整理しておきましょう。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	運動学Ⅲ（動作分析・運動実習）		
担当教員	赤羽 勝司		
配当年次	2年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

運動学Ⅰ・Ⅱで習得した知識を基に、人間の姿勢やバランス能力および歩行について、正常な反応、作用について理解を深め、今後、運動学的・運動力学的に分析して行くための基礎となる知識を習得する。また、運動処方や運動制御および運動学習についての基礎を学び、運動療法を実施していくための基礎知識を習得する。

学習目標（行動目標）

人間が姿勢を保持することや動作（歩行や立ち上がりなど）を分析するための基礎的な運動学を理解し、習得することを目的とする。
人間がどのように動作を獲得していくのか、運動学的に理解することを目的とする。
運動学Ⅰ・Ⅱで習得した内容を、運動との関係を整理し理解を深めることを目的とする。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション、運動と動作分析（1）	赤羽 勝司
2		運動と動作分析（2）	〃
3		姿勢とバランス（1）	〃
4		姿勢とバランス（2）	〃
5		姿勢とバランス（3）	〃
6		歩行の分析（1）	〃
7		歩行の分析（2）	〃
8		歩行の分析（3）	〃
9		異常歩行の分析（1）	〃
10		異常歩行の分析（2）	〃
11		体力と運動処方（1）	〃
12		体力と運動処方（2）	〃
13		運動学習（1）	〃
14		運動学習（2）	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：中村隆一，齋藤 宏：基礎運動学 第6版補訂，医歯薬出版，2012 嶋田智明・他監訳：筋骨格系のキネシオロジー 第2版，医歯薬出版，2012 参考書：中村隆一編：臨床運動学 第3版，医歯薬出版，2002 黒川幸雄，高橋正明・他：運動分析，理学療法MOOK6，三輪書店，2000 高橋正明編：臨床動作分析，医学書院，2001
成績・評価の方法	授業態度10%，小テスト10%，期末試験80%
その他（履修上の留意点）	運動学Ⅰで修得した内容を基に授業を展開します。運動学Ⅰを整理した上で授業に参加して下さい。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	人間発達学 I (心身の発達と老化)		
担当教員	福田 恵美子		
配当年次	1 年	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
<p>人間の正常発達を理解し、乳幼児期から老年期における発達課題を理解する。具体的には、正常な子の運動機能の発達、言語機能の発達、情緒機能の発達、社会性の発達を具体的に学ぶ。また、青年期、成人期、老年期における発達課題について、自分自身の課題として捉えるとともに、家族やリハビリテーション対象者の発達課題として捉える力を養う。</p>			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
<p>1. 人間発達について、先人達の理論から発達の概要を把握することができる。 2. 正常発達に関して、胎児期から高齢期までにおけるライフステージにおける生活活動と取り組んでいる課題について、身体的発達、運動的機能の発達、認知的機能の発達、情緒・社会的機能の発達の側面から理解する。</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/24	1-①人間発達とは	福田 恵美子
2	10/1	②発達の概念の歴史の変遷	〃
3	10/8	③感覚-運動機能の発達理論	〃
4	10/15	④認知・心理・社会的機能の発達理論	〃
5	10/22	2-①胎芽・胎児期に取り組んでいる発達課題	〃
6	10/29	②乳児期に取り組んでいる発達課題	〃
7	11/5	③乳児期に取り組んでいる発達課題	〃
8	11/12	④幼児期に取り組んでいる発達課題	〃
9	11/19	⑤幼児期に取り組んでいる発達課題	〃
10	11/26	⑥幼児期に取り組んでいる発達課題	〃
11	12/3	⑦学童期に取り組んでいる発達課題	〃
12	12/10	⑧青年期に取り組んでいる発達課題	〃
13	12/17	⑨成人期に取り組んでいる発達課題	〃
14	1/7	⑩高齢期に取り組んでいる発達課題	〃
15	1/14	まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：福田恵美子編集「人間発達学 第3版」，中外医学社 参考書：十束支朗著「発達と老化の理解」医学出版社 奈良勲，鎌倉矩子監修「標準理学療法学・作業療法学 人間発達学」，医学書院
成績・評価の方法	試験 100%
その他（履修上の留意点）	予習をし、人間の発達に関して疑問点をもって、授業に臨んでください。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	人間発達学Ⅱ（発達各論と支援）		
担当教員	福田 恵美子、福谷 保、松下 雅子		
配当年次	2年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

人間発達学（心身の発達と老化）で学んだことをベースに、各々の項目ごとに詳しく理解していく。特に、障害を持った子ども達の発達の様子や、現代社会の中での様々な発達環境とその問題について理解し、発達を包括的にとらえリハビリテーションにつなげていく。

<オムニバス方式／全15回>

（福田恵美子／5回）自閉症スペクトラム障害等の精神機能に障害を持つ疾患の発達、及び家族支援、職業能力について。

（福谷保／8回）染色体異常（ダウン症）、遺伝病（筋ジストロフィー）、神経傷害・発生異常（脳性麻痺、二分脊椎）の運動発達の特徴を概観する。また、それぞれの疾患の特性を踏まえて、発達援助の現状と展望を示す。

（松下雅子／2回）母子関係及び児童虐待について 人間発達学（心身の発達と老化）で学んだことをベースに、障害を持った子ども達の発達の様子や、現代社会の中での様々な発達環境とその問題について理解し、発達を包括的にとらえていく。

学習目標（行動目標）

発達障害に関連した疾患の特徴を説明できる
 発達障害児を取り巻く環境と問題を指摘できる
 発達障害児への援助の現状と課題を説明できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		神経発達障害児（知的障害、自閉症スペクトラム、ADHD他）の発達1	福田恵美子
2		神経発達障害児（知的障害、自閉症スペクトラム、ADHD他）の発達2	福田恵美子
3		神経発達障害児（知的障害、自閉症スペクトラム、ADHD他）への家族支援1	福田恵美子
4		神経発達障害児（知的障害、自閉症スペクトラム、ADHD他）への家族支援2	福田恵美子
5		神経発達障害児（知的障害、自閉症スペクトラム、ADHD他）の職業能力	福田恵美子
6		子どもの虐待とその予防、対応	松下 雅子
7		障害児・者の家族の育ち、成長に伴う変化、死と死の受容	松下 雅子
8		染色体異常（ダウン症）疾患特性	福谷 保
9		染色体異常（ダウン症）発達援助の現状と展望	福谷 保
10		遺伝病（筋ジストロフィー）疾患特性	福谷 保
11		遺伝病（筋ジストロフィー）発達援助の現状と展望	福谷 保
12		神経傷害・発生異常（二分脊椎）疾患特性	福谷 保
13		神経傷害・発生異常（二分脊椎）発達援助の現状と展望	福谷 保
14		神経傷害・発生異常（脳性麻痺）疾患特性	福谷 保
15		神経傷害・発生異常（脳性麻痺）発達援助の現状と展望	福谷 保

テキスト・参考図書	テキスト：配布資料 参考書：
成績・評価の方法	筆記試験：100%
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	病理学		
担当教員	加藤 正裕		
配当年次	2年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
病理学では、「疾病(病気)」の原因、発生メカニズム、実像(形態・構造変化)、経過と転帰、疾病による機能障害などについて病理総論を中心とした基礎を学ぶ。			

学習目標(行動目標)
1. 基本的なテクニカルタームを習得し、臨床科目の理解に活かしていく。 2. 患者の臨床情報(診断、病歴、予後、問題点等)の把握や疾病特性の理解ができるようにする。 3. 大学院進学予定の有無を問わず、生涯学習の観点から和・欧の論文の読解・作成もできるようにする。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		病理学オリエンテーション・病因論	加藤 正裕
2		先天異常(1)	〃
3		先天異常(2)	〃
4		代謝障害(1)	〃
5		代謝障害(2)	〃
6		循環障害(1)	〃
7		循環障害(2)	〃
8		循環障害(3)	〃
9		炎症(1)	〃
10		炎症(2)	〃
11		免疫異常(1)	〃
12		免疫異常(2)	〃
13		腫瘍(1)	〃
14		腫瘍(2)	〃
15		腫瘍(3)	〃

テキスト・参考図書	テキスト：：梶原博毅、横井豊治(編)：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第3版 医学書院、2013年 参考書：秦順一、坂本穆彦(編)：標準病理学、第4版、医学書院、2012年
成績・評価の方法	期末試験90%、レポート提出10%
その他(履修上の留意点)	復習に注力すること/マイノートを作成し自ら学習を演出すること/ 質問すること！

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	臨床医学概論		
担当教員	伊藤道雄, 小島洋文, 西村博行		
配当年次	2年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>医療従事者が患者や障害者から学ぶもの(QOL, 医の倫理等)をふまえて, 実地臨床家の体験を通じた実例からの講義を行う。海外医療協力(バングラデシュの医療事情)をスライド, ビデオを通して学ぶ。また, ターミナルケアについて, スライドとビデオを中心に対話形式で講義を進めていく(伊藤)。医学, 医療の総論について講義する。また, 医療と関係の深い福祉について, 医療人としての心構え, 医の倫理についても言及する(小島)。病院での院内感染の問題, 頻発する地震に対応した医療の問題, 地域医療の発展の歴史学ぶ。また病気を人類の進化の過程からとらえ, 今後の医療従事者のあり方を考える(西村)。</p>			

学習目標(行動目標)
<p>1: 臨床医の体験を通じた講義を聴くことにより, 臨床の現状, 医療の遅れた地域の現状を理解出来るようになる。</p> <p>2: 临床上問題となっている課題について哲学の問題も含めて深く考える機会となる。</p> <p>3: 最近話題となっている地震災害医療, 地域医療, 院内感染の現状を理解出来るようになる。</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		VRE院内感染から学ぶこと	西村博行
2		医学 - 歴史①-	小島洋文
3		海外医療協力バングラデッシュの医療事情(1)	伊藤道雄
4		地震と救急医療	西村博行
5		医学 - 歴史②-	小島洋文
6		海外医療協力バングラデッシュの医療事情(2)	伊藤道雄
7		地域医療について(予防は治療に勝る)	西村博行
8		医療と福祉	小島洋文
9		ターミナルケア:ホスピスを中心に(1)	伊藤道雄
10		医の倫理	小島洋文
11		病の起源とは?(人はなぜ病気になるのか?)	西村博行
12		ターミナルケア:在宅を中心に(2)	伊藤道雄
13		障害児の療育	小島洋文
14		我々の目指す医療人とは? セルフコントロールとは?	西村博行
15		まとめ	伊藤道雄

テキスト・参考図書	<p>テキスト: 特になし</p> <p>参考書: 障害学入門: デビッド・ジョンストン, 明石書店, 2008 患者中心の医療: 山本和利, 診断と治療社, 2002 医療学入門(第3版): 高橋政祺, 医学書院, 1999 医の倫理と法: 森岡恭彦著, 南江堂 症状からみる老と病気とからだ: 高橋龍太郎, 中央法規, 2006 人工臓器イラストレイティッド: 日本人工臓器学会編集</p>
成績・評価の方法	期末筆記試験: 100%
その他(履修上の留意点)	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	内科学・老年学		
担当教員	高松 道生		
配当年次	2年次	配当学期	通年
年間授業回数	30回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

リハビリテーション対象患者の多くを占める高齢者によく見られる疾病とその特徴、治療方針の概要について、内科学の立場から理解を深める。
縦割りの臓器別系統講義とともに、自覚症状・他覚所見をキーとした疾病横断の考え方についても取り上げる。同時に、リハビリテーションの現場で問題となる観察や判断について循環器系・呼吸器系を中心に取り上げ、リハビリテーション療法士に求められる臨床的能力について考えていく予定である。

学習目標(行動目標)

リハ療法士の立場から何にどのように注意すればよいのか。チームスタッフである医師・看護師・介護福祉士・ヘルパー・ソーシャルワーカーなどのメディカルスタッフとどのように意思疎通と情報共有を図ってゆけばよいのか。患者を観察しつつ、チームスタッフと協力しながら必要な対応が出来るリハ療法士を目指す。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		内科学総論：生体の仕組みと内科学 I	高松 道生
2		内科学総論：生体の仕組みと内科学 II	//
3		循環器疾患 I 循環器系の病態生理	//
4		循環器疾患 II 循環器疾患の概要	//
5		蘇生法の概要 I 蘇生が必要な緊急事態への対応	//
6		蘇生法の概要 II 蘇生法の実際	//
7		呼吸器疾患 I 呼吸器系の病態生理	//
8		呼吸器疾患 II 呼吸器疾患の概要	//
9		消化器疾患 I 消化器系の病態生理	//
10		消化器疾患 II 消化器疾患の概要	//
11		神経疾患 I 神経系の病態生理	//
12		神経疾患 II 神経疾患の概要	//
13		内分泌疾患 I 内分泌系の病態生理	//
14		内分泌疾患 II 内分泌疾患の概要	//
15		前期講義総括	//
16		腎泌尿器疾患 I 腎泌尿器系の病態生理	//
17		腎泌尿器疾患 II 腎泌尿器疾患の概要	//
18		自己免疫疾患 I 免疫とは何か	//
19		自己免疫疾患 II 自己免疫疾患の概要	//
20		感染症 I 感染症、感染管理の基礎	//
21		感染症 II 感染症の概要	//
22		高齢者に起こりやすい徴候 I	//
23		高齢者に起こりやすい徴候 II その対応	//
24		症状・症候から迫る内科学 I	//
25		症状・症候から迫る内科学 II	//
26		症状・症候から迫る内科学 III	//
27		症状・症候から迫る内科学 IV	//
28		症例検討会「こんな時、どうすれば？」 I	//
29		症例検討会「こんな時、どうすれば？」 II	//
30		後期講義総括	//

テキスト・参考図書	テキスト：コメディカルのための専門基礎分野テキスト 内科学 5版 中外医学社 参考書：なし。プリント使用。
成績・評価の方法	試験100% 成績不良者は再試験を行う。
その他(履修上の留意点)	講義に使用したスライドは参照用にPDFファイルにしてあるので、利用する事。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	整形外科学		
担当教員	金物 壽久		
配当年次	2年	配当学期	通年
年間授業回数	30回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

日本は世界一の長寿国となったが、寝たきり老人の多いことも事実である。寝たきりにならず、人間らしく生活ができる健康寿命を延ばすためには、運動器疾患、運動器リハビリの理解が欠かせない。また生涯を通じてスポーツを実践し、健康な生活を送るためにも運動器、整形外科の知識はたいへん需要である。老人や成人だけでなく、幼児期から青年期に至るまでの発達を支援する知識を得ることも本講座の重要な目標である。本授業において幅広く運動器に関する知識を学んでほしい。

学習目標(行動目標)

- ①健常者の動作、運動を筋・骨格系の解剖生理から理解し説明ができる。
- ②各種の身体計測を行い、関節可動域を正確に測ることができる。
- ③変性疾患、炎症性疾患、感染症、腫瘍などの基本概念を理解する。
- ④上肢、下肢、脊椎の主要な疾患を理解し、またそれぞれの部位の外傷を理解すること。
- ⑤医療安全を理解すること、またスポーツを通じての地域社会とのかかわりを大切にすること。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		整形外科概論 健康寿命 運動器の10年 ロコモ症候群 医療安全と医療紛争	金物 壽久
2		整形外科基礎科学 骨の生理、構造、化学、発育、形成、再生	〃
3		関節、筋、神経の構造と生化学	〃
4		骨、関節の病態生理	〃
5		整形外科診断学 診療の基本	〃
6		整形外科的現症のとりかた	〃
7		整形外科的検査、画像	〃
8		整形外科治療学 保存療法と手術療法	〃
9		疾患総論 骨関節の感染症	〃
10		リウマチ性疾患、関節リウマチ	〃
11		リウマチ性疾患、変形性関節症、痛風	〃
12		骨壊死、骨端症、骨系統疾患、代謝性骨疾患	〃
13		骨腫瘍、軟部腫瘍	〃
14		神経疾患、筋疾患	〃
15		実習 身体計測、関節可動域計測、腱反射、知覚検査、筋力測定	〃
16		整形外科疾患各論 肩関節、肘関節	〃
17		手の外科(ハンドサージャリー)	〃
18		頭部、頸椎	〃
19		胸郭、胸腰椎	〃
20		股関節	〃
21		膝関節	〃
22		膝関節、足関節、足部	〃
23		外傷学総論 打撲捻挫、軟部損傷、骨折	〃
24		骨折、脱臼	〃
25		外傷学各論 上肢・下肢	〃
26		上肢・下肢	〃
27		脊椎・脊髄損傷	〃
28		脊髄損傷、末梢神経損傷	〃
29		スポーツ医学 スポーツ障害、トレーニング法、ドーピング、地域とのかかわり	〃
30		整形外科と法律 身体障害者、保険診療、介護保険、チーム医療	〃

テキスト・参考図書	テキスト：標準整形外科学 (医学書院) 参考書： 図解整形外科 (金芳堂)
成績・評価の方法	期末試験80% 授業態度20%
その他(履修上の留意点)	教科書に沿って進めます。講義の前に当日の範囲をざっと目を通すこと(目次を見るだけでもかまいません)。あとで講義で聞いた重要なところを中心に読み返してください。 ノートは薄いもの1冊で十分です。教科書に書き込んだり、時々渡すプリントで知識を確実にしてください。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	神経内科学		
担当教員	牧下 英夫、田幸 健司、田丸 冬彦		
配当年次	2年次	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>リハビリテーションのための神経内科学を理解できるようにする。基本的な神経徴候・症状を理解し、個々の神経疾患の病態と薬物治療などの理解をふかめ疾患特有のリハビリテーションの概念をつかむようにする。特に神経難病でのリハビリテーションの重要性を理解する。</p>			

学習目標(行動目標)
<p>1、主要神経徴候の理解ができる 2、神経学的臨床検査を理解する 3、主要神経疾患の成因と病態、症候、検査と治療を理解できる 4、神経難病対策の社会的意義を理解する</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		運動麻痺 運動ニューロン疾患	牧下 英夫
2		錐体外路症候 パーキンソン病、パーキンソニズム	田幸 健司
3		運動失調 脊髄小脳変性症	田丸 冬彦
4		筋萎縮 ミオパチー	牧下 英夫
5		痙攣、ミオクローヌス 不随意運動症	田幸 健司
6		脱髄性疾患 脊椎脊髄疾患	田丸 冬彦
7		感覚障害 末梢神経疾患	牧下 英夫
8		歩行障害、姿勢異常 中枢性感染症	田幸 健司
9		脳神経障害 構音障害、嚥下障害	牧下 英夫
10		自律神経症候 自律神経疾患	田幸 健司
11		脳血管障害	牧下 英夫
12		精神症状、高次脳機能 認知症	田丸 冬彦
13		先天異常、代謝性疾患、中毒性疾患	牧下 英夫
14		神経難病 神経疾患のリハビリテーション	田丸 冬彦
15		まとめ	牧下 英夫

テキスト・参考図書	テキスト：安藤一也、杉村公也 「リハビリテーションのための神経内科学」 医歯薬出版 参考書：田崎義昭、斎藤佳雄 「ベッドサイドの神経の診かた」 南山堂
成績・評価の方法	期末試験100%
その他(履修上の留意点)	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	脳神経外科学		
担当教員	外間 政信		
配当年次	2年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>脳及び脳神経に関わる解剖・生理を臨床の立場から学び、脳血管障害、頭部外傷、脳挫傷等の疾患についての病態、症状、診断、脳神経外科的治療を学ぶ。内容は脳および脳神経に関する解剖・生理、検査と症状、脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍その他である。</p>			

学習目標(行動目標)
脳および脳神経に関する解剖生理を理解し、脳血管障害などの疾患を学ぶこと

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		脳および脳神経に関する解剖・生理 1	外間 政信
2		" 2	"
3		" 3	"
4		検査と症状 1	"
5		" 2	"
6		" 3	"
7		脳血管障害 1	"
8		" 2	"
9		" 3	"
10		" 4	"
11		頭部外傷	"
12		脳腫瘍	"
13		その他の疾患	"
14		まとめ	"
15		まとめ	"

テキスト・参考図書	テキスト：病気が見える 脳・神経 参考書：臨床のための脳局所解剖学 脳卒中最前線
成績・評価の方法	筆記テスト100%
その他(履修上の留意点)	講義はプリントが主体

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	小児科学・小児神経科学		
担当教員	森 哲夫		
配当年次	2年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>出生前後から成長期における成長・発達と、その間にみられる主な疾患(新生児・未熟児疾患, 先天異常, 代謝異常, 免疫・アレルギー疾患, 呼吸器疾患, 循環器疾患, 消化器疾患, 感染症など)について, 特に, 脳神経系の発達とその異常との関連について学ぶ。</p>			

学習目標(行動目標)
<ul style="list-style-type: none"> ・小児の成長・発達について説明できる。小児期の各時期に見合ったリハビリテーションを立案できる。 ・小児の各疾患について病態、治療を説明できる。各疾患罹患時のリハビリテーションの可否を判断できる。 ・小児の脳神経系の発達について説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		小児の成長・発達	森 哲夫
2		小児の成長・発達、栄養・保健・小児の診かた、治療	〃
3		新生児・未熟児疾患	〃
4		先天異常・先天代謝異常	〃
5		免疫・アレルギー疾患	〃
6		免疫・アレルギー疾患	〃
7		呼吸器疾患	〃
8		循環器疾患	〃
9		消化器疾患	〃
10		感染症	〃
11		神経・筋疾患	〃
12		神経・筋疾患	〃
13		神経・筋疾患	〃
14		神経・筋疾患	〃
15		総括	〃

テキスト・参考図書	テキスト：富田 豊：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第4版、医学書院 参考書：五十嵐 隆編集：小児科学 第10版、文光堂 前川 喜平：写真で見る乳児健診の神経学的チェック法 第8版、南山堂 仁志田 博司：新生児学入門 第4版、医学書院
成績・評価の方法	期末試験70% 授業態度30%
その他(履修上の留意点)	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	精神医学 I		
担当教員	立花 健二郎		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
<p>精神医療及び精神障害者福祉の全体像を理解し、個々の疾患（統合失調症、感情障害、パニック障害、思春期にみられる障害、小児期からみられる障害、強迫性障害、認知症、てんかん、薬物依存、薬物中毒など）について特徴的な症状、治療方法、経過について学ぶ。</p>			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医療及び精神障害者福祉の全体像を学ぶ。 2. 個々の疾患について、その概念や症状、診断、治療法の基本的な知識を身に付け、説明できる。 3. 向精神薬の種類とそれらの作用について理解し、説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		精神医学総論 精神医学の歴史ほか	立花 健二郎
2		統合失調症 I	〃
3		統合失調症 II	〃
4		統合失調症 III	〃
5		感情障害 I うつ病	〃
6		感情障害 II 双極性感情障害	〃
7		神経症性障害 I 不安障害、強迫性障害	〃
8		神経症性障害 II ストレス関連障害、解離を中心とする障害、身体表現性障害など	〃
9		摂食障害など 生理的障害及び身体的要因に関連した障害	〃
10		発達障害 I 自閉症スペクトラム障害	〃
11		発達障害 II ADHD	〃
12		パーソナリティ障害	〃
13		てんかん	〃
14		認知症 代表的な認知症性疾患について	〃
15		薬物依存、薬物中毒	〃

テキスト・参考図書	テキスト：〈標準理学療法・作業療法学〉専門基礎分野，上野武治（編）：精神医学 第3版．医学書院，2010 参考書：特になし
成績・評価の方法	期末テスト100%
その他（履修上の留意点）	講義中に配布するプリントの演習問題を用いて復習することが望ましい。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	リハビリテーション医学		
担当教員	岩谷 力、小島 洋文、陶山 哲夫、佐久間 肇		
配当年次	2年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>リハビリテーション医学の全体像，医学・医療における位置づけを理解し，医療チームの一員として治療に参加する基礎を培うために以下の講義をおこなう。</p> <p>リハビリテーション医学の関心領域，治療の目的，診断，機能評価，治療手法，治療過程，効果判定，予後予測の基礎について学び，主な対象疾患（脳卒中，骨関節疾患，小児疾患，スポーツ外傷・障害，高齢者，循環器疾患，呼吸器疾患，内臓疾患）ならびに主な障に対するリハビリテーション医療，生活支援について概説する。</p> <p><オムニバス方式／全15回></p>			

学習目標(行動目標)
<p>リハビリテーション医学における診断、機能評価、治療手法、アウトカム測定・評価の原理を理解できる。主要な対象疾患、障害について、病気、機能障害、活動制限、参加制約について、説明できる。</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		概論	岩谷 力
2		診断法	岩谷 力
3		機能評価法	岩谷 力
4		治療手法	岩谷 力
5		リハビリテーション医療における治療過程	小島 洋文
6		治療効果の判定法	小島 洋文
7		こどもの疾患・障害へのリハビリテーション	小島 洋文
8		運動器疾患へのリハビリテーション 1 関節疾患 神経筋疾患	小島 洋文
9		運動器の傷病へのリハビリテーション 2 骨折、外傷	陶山 哲夫
10		脊髄損傷のリハビリテーション	陶山 哲夫
11		脳血管障害のリハビリテーション	陶山 哲夫
12		障害とスポーツ	陶山 哲夫
13		内部障害のリハビリテーション 1 心臓、肝臓、腎臓	佐久間 肇
14		内部障害のリハビリテーション 2 呼吸器、生活習慣病	佐久間 肇
15		リハビリテーションの帰結と予後予測	佐久間 肇

テキスト・参考図書	テキスト：中村隆一監修 入門リハビリテーション医学 医歯薬出版
成績・評価の方法	授業への取り組み状況20%，レポート20%，試験60%
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	臨床心理学		
担当教員	平林 一、延藤 麻子		
配当年次	3年次	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

臨床心理学は、「心理学の研究成果を基礎として、心理的に不調和にあり、周囲との係わりにも混乱が生じている方を正しく理解し、環境調整を含めて積極的に援助し、問題解決を図る方法を考案し、より好ましい状況を作り出す目的で実践していくこと(小林)」と定義される。単に机上の学問に留めるのではなく、実際のクライアントの援助に役立たせることで、はじめて臨床心理学を学んだ意義がある。本講義では一般的な臨床心理学に加えて、リハビリテーション医療に必要な基本的知識と技術を説明できる

学習目標(行動目標)

- 1, 臨床心理学の基本概念と基礎技術を説明できる
- 2, 初歩的な心理検査を実施できる
- 3, リハビリテーション医療にとって必要な基本的知識と技術を説明できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		臨床心理学について	延藤 麻子
2		臨床心理学のアセスメント①	延藤 麻子
3		臨床心理学のアセスメント②	延藤 麻子
4		臨床心理学のアプローチ①	延藤 麻子
5		臨床心理学のアプローチ②	延藤 麻子
6		臨床心理学のアプローチ③	延藤 麻子
7		臨床心理学のアプローチ④	延藤 麻子
8		まとめ	延藤 麻子
9		リハビリテーション医療における臨床心理学	平林 一
10		障害受容と障害家族へのかかわり	平林 一
11		脳卒中・脳外傷患者の心理とケア	平林 一
12		高次脳機能障害の基礎と心理的援助の方法	平林 一
13		高次脳機能障害の基礎と心理的援助の方法	平林 一
14		身体表現性障害と心身症	平林 一
15		認知症の理解とケア	平林 一

テキスト・参考図書	テキスト： 参考書：渡辺俊之ほか「リハビリテーション患者の心理とケア」 医学書院
成績・評価の方法	期末試験100%
その他(履修上の留意点)	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	医用画像解析学概論		
担当教員	西村 博行、金物 壽久、外間 政信		
配当年次	3年次	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	理学必修 作業選択	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>リハビリテーション医療での以下に示す主たる対象疾患のX-P, CT, MRI, SPECTなどの画像について、読影の基本を学び、対象患者の病変の部位と性質と症状との関連性を理解できる能力を養う。また、四肢軟部の超音波検査について原理と読影法を学ぶ。</p>			

学習目標(行動目標)
<p>リハビリテーションを実施してゆくうえで必要な、全身の代表的な疾患の臨床画像診断法を学ぶ。これによりより実践的に患者の状態を理解出来るようになる。</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		運動器の傷病: 骨折、脱臼	金物 壽久
2		運動器の傷病: 靭帯損傷、筋腱損傷、骨粗鬆症	〃
3		運動器の傷病: 骨関節の変性疾患、感染症	〃
4		運動器の傷病: リウマチ、炎症性疾患	〃
5		運動器の傷病: 脊椎、脊髄疾患	〃
6		胸部画像の読影1:正常胸部画像の読影法を各種画像について学ぶ	西村 博行
7		胸部画像の読影2:胸部の代表的な疾患の読影法を各種画像について学ぶ	〃
8		腹部画像の読影1:正常腹部画像の読影法を各種画像について学ぶ	〃
9		腹部画像の読影2:腹部消化器の代表的な疾患の画像読影法について学ぶ	〃
10		腹部画像の読影3:泌尿生殖器、後腹膜臓器の代表的疾患の画像読影法について学ぶ	〃
11		脳神経系の傷病:出血性脳血管障害の画像	外間 政信
12		脳神経系の傷病:虚血性脳血管障害の画像	〃
13		脳神経系の傷病:脳腫瘍の画像	〃
14		脳神経系の傷病:頭部外傷の画像	〃
15		脳神経系の傷病:脳変性疾患の画像	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト:「病気がみえる」 脳・神経 参考書:骨・間接X線写真の撮りかたと見かた(医学書院)、メディカルノート 画像診断 小川敏英 西村書店</p>
成績・評価の方法	試験100%。場合によりレポート提出を求める
その他(履修上の留意点)	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	臨床薬理学		
担当教員	帯刀 益夫		
配当年次	3年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	理学必修 作業選択	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

薬理学は、生体と外界の化合物(薬)との相互作用の結果生じる現象を研究する学問である。本講義では、まず、薬理作用を理解するための生物学的な基礎知識の習得に重点を置き、分子レベル、細胞レベル、個体レベルで、薬の作用のメカニズムを説明する。
また、薬の体の中で動態、有害反応を学ぶことにより、臨床講義や実習で必要とされる薬物治療の基礎を習得できることを目指す。

学習目標(行動目標)

- ・人の身体の生理学や代謝の原理的理解を基盤として、医薬等が、どのような薬理作用を示すか、その作用機構について理解できる
- ・個々の医薬品について具体例をもってその作用を理解できる。
- ・医薬品による医療事故、サプリメント、食品の安全などについて、原理的に、人の身体に外から投入された物質と身体の相互作用に基づいていることを理解できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		薬理学の定義	帯刀 益夫
2		人の身体の働きの原理的理解—生化学	〃
3		人の身体の働きの原理的理解—生理学	〃
4		人の身体の働きの原理的理解—病理学	〃
5		薬理作用の分類	〃
6		薬物の体内動態—吸収・分布	〃
7		薬物の体内動態—生体内変化、排泄	〃
8		薬物の作用機序—作用点	〃
9		薬物の作用機序—薬物受容体	〃
10		薬物の作用機序—薬理作用に及ぼす因子	〃
11		具体的な薬物の例とその作用	〃
12		サプリメント、食品添加物などの薬理的側面	〃
13		麻薬、毒物などに対する理解	〃
14		医薬品の開発—新薬の創造、前臨床試験、市販後調査など	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：適宜、プリント等を渡す。
成績・評価の方法	期末試験 60% レポート40%
その他(履修上の留意点)	細部の知識と全体像を合わせて理解すること。 判らないことがあったらいつでも質問すること。 疑問を感じたことを具体的な質問の形にまとめてみる習慣を身につけること。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	外科学概論		
担当教員	西村 博行		
配当年次	2年次	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	理学必修 作業選択	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>講義形式で行う。外科学の基本を講義する。特に内部障害のリハビリテーションに関する呼吸器、循環器、消化器、泌尿器等について、解剖生理を中心に講義する。この講義により、単に外科学の概要ばかりでなく、今後ますます増加すると見込まれる内科的疾患を合併した患者のリハビリテーションの基本的な知識を得ることができる。</p>			

学習目標(行動目標)
<p>1:外科学の発展の歴史の概略を理解できる。 2:その発展の中で特に大事な麻酔、感染症、ショック、免疫等の問題を理解できる。 3:最近重要になってきている内部障害のリハビリテーションと外科学の関係を理解できるようになる。</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		外科の歴史	西村 博行
2		麻酔	//
3		循環とショック	//
4		輸血と輸液	//
5		感染症	//
6		外傷と創傷治癒	//
7		外科と免疫	//
8		呼吸器の外科	//
9		心臓外科	//
10		血管外科	//
11		消化器外科	//
12		泌尿生殖器の外科	//
13		高齢者の外科	//
14		救急外科	//
15		まとめ	//

テキスト・参考図書	テキスト：特になし 参考書：外科の歴史
成績・評価の方法	試験70%、レポート30%
その他(履修上の留意点)	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	言語聴覚学概論		
担当教員	西条 一彦		
配当年次	3年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	理学必修 作業選択	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>人間におけるコミュニケーションの重要な手段である言語の機能を学び、言語聴覚士の業務内容と言語聴覚療法の基本的な考え方を理解することを目的とする。</p> <p>具体的には、言語聴覚療法のイメージを視聴覚教材や関連資料を通じてつかむとともに、言語聴覚障害の原因、特徴、評価・訓練、支援方法等を紹介することにより、言語聴覚障害者との接し方を身につける。</p> <p>また、リハビリテーションチームの一員である言語聴覚士との協業のあり方やチーム医療の円滑化についても考える。</p>			

学習目標(行動目標)
<p>①言語聴覚士の業務内容と言語聴覚療法の基本的な考え方を理解する。</p> <p>②主な言語聴覚障害と摂食・嚥下障害の病態・評価・治療法の概要を理解する。</p> <p>③言語聴覚士とのチームアプローチの基本的な枠組みを理解する。</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		言語聴覚士とは(言語聴覚士が登場する映画鑑賞)	西条 一彦
2		言語の起源とその特徴	〃
3		言葉を産み出すメカニズムー聞こえのしくみ	〃
4		言葉を産み出すメカニズムー構音器官の構造と特徴	〃
5		言葉を産み出すメカニズムー脳の機能	〃
6		言語聴覚障害の種類と原因	〃
7		言語聴覚障害者との接し方ー言語発達障害	〃
8		言語聴覚障害者との接し方ー聴覚障害	〃
9		言語聴覚障害者との接し方ー構音障害	〃
10		幼児の言語相談(DVD鑑賞)	〃
11		言語聴覚障害者との接し方ー吃音	〃
12		言語聴覚障害者との接し方ー失語症	〃
13		言語聴覚障害者との接し方ー失語症(DVD鑑賞)	〃
14		言語聴覚障害者との接し方ー嚥下障害	〃
15		高齢者のコミュニケーション障害	〃

テキスト・参考図書	テキスト：藤田郁代監修 「標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論」 医学書院2010年 参考書：酒井邦嘉著 「言語の脳科学」 中公新書1647 2002年
成績・評価の方法	①レポート 50% ②試験 50%
その他(履修上の留意点)	テキストに目を通して授業に臨んでください。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	障害科学 I		
担当教員	岩谷 力		
配当年次	1 年	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)

障害と障害者について、科学的に価値中立的に理解する能力を培うために、医学の歴史を学び、医学はどのような発展をしてきたか、病気・病者は医療的、社会的にどのようにとらえられてきたかを学ぶ。医学の歴史では、地中海医学、中世医学、ルネッサンス期の医学、17世紀から19世紀における科学的思考の発展過程、19世紀の近代医学の基礎の確立、20世紀の現代医学の成立、現代医学の現況を学び、今日の医学・医療の直面する課題を理解する。さらに、医学の発展過程で障害・障害者がどのようにとらえられてきたかを学ぶ。

学 習 目 標 (行 動 目 標)

病気、病人、患者、障害、障害を持つ人について、正しく伝えることができる。医学・医療の歴史を学び、医学における病気のとらえ方と一般社会における病気のとらえ方の違いについて説明できる。障害を持つ人の健康について、考え、医学的、福祉的介入の意味を説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/29	オリエンテーション 保健・医学・医療・福祉を学ぶ	岩谷 力
2	10/6	医学の歴史 1 医学の芽生え：中国、メソポタミア、インド、エジプト	岩谷 力
3	10/13	医学の歴史 2 地中海医学	岩谷 力
4	10/20	医学の歴史 3 中世の医学	岩谷 力
5	10/27	医学の歴史 4 ルネッサンスと科学革命 1	岩谷 力
6	11/10	医学の歴史 5 ルネッサンスと科学革命 2	岩谷 力
7	11/17	医学の歴史 6 近世の医学	岩谷 力
8	11/24	医学の歴史 7 近代の医学：19世紀の医学	岩谷 力
9	12/1	医学の歴史 8 現代の医学：生物学医学と臨床医学	岩谷 力
10	12/8	医学の歴史 9 今日の医学・医療の進歩と課題	岩谷 力
11	12/15	病気・病者。患者・障害者	岩谷 力
12	12/22	障害のとらえ方の歴史の変遷	岩谷 力
13	1/5	障害への医学的アプローチ	岩谷 力
14	1/12	障害への社会的アプローチ	岩谷 力
15	1/19	障害支援工学	岩谷 力

テキスト・参考図書	テキスト：入門リハビリテーション概論 第7版 中村隆一編 医歯薬出版 参考図書：川喜多愛郎 近代医学の史的基盤（上下巻） 岩波書店 M Dobson著 小林 力訳 Disease 人類を襲った30の病魔 医学書院 ディーター・ジェット著 山本俊一訳 西洋医学史ハンドブック 朝倉書店
成績・評価の方法	授業への取り組み状況30%，レポート70%
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	障害科学Ⅱ		
担当教員	岩谷 力、北村 弥生、高橋 競、樋口 幸治		
配当年次	2年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

健康と障害について国際的な視点から学ぶ。国際保健の歴史と世界的にみた健康課題、障害がどのようにとらえられているか、なぜ健康や障害に関して国際協力が必要かについて学ぶ。さらに、障害者福祉の歴史的発展過程、国連、WHO、世界銀行、ILOなどの国際機関における障害への取り組み、条約や勧告、わが国の行っている国際協力活動について学び、リハビリテーション専門職として国際的視野を育てる。
 <オムニバス方式/全15回>

学習目標(行動目標)

主要な国際機関における障害を持つ人々に対する取り組みについて説明できる。障害に関する主要な国際条約とその内容を説明できる。障害を持つ人々の社会生活を支えるために必要となる主要な社会的な課題を挙げることができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		障害者福祉の歴史的発展	岩谷 力
2		国際機関による勧告	岩谷 力
3		障害への国際的取り組み	北村弥生
4		障害と家族	北村弥生
5		障害と防災対策	北村弥生
6		情報アクセシビリティ	北村弥生
7		国際情勢	北村弥生
8		Adapted physical activity 障害を持つ人の健康問題	樋口幸治
9		Adapted physical activity 障害を持つ人のスポーツ	樋口幸治
10		国際保健 2	高橋 競
11		障害の世界的潮流	高橋 競
12		感染症と非感染性疾患	高橋 競
13		国際協力 1	高橋 競
14		国際協力 2	高橋 競
15		国際協力 3	高橋 競

テキスト・参考図書	「リハビリテーション国際協力入門」 久野研二、中西由起子著 三輪書店
成績・評価の方法	授業への取り組み状況30%、レポート70%
その他(履修上の留意点)	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	公衆衛生・疫学		
担当教員	野見山 哲生		
配当年次	3年次	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>人のライフステージに特有な健康問題や健康に影響を与える要因を明らかにする方法である疫学について学び、更にそれらの要因が及ぼす社会への影響について学ぶ。そして、それらに対応した公衆衛生学上の制度や取り組みについて学び、社会の中における理学・作業療法学の位置づけについて理解することを目的とする。</p>			

学習目標(行動目標)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生学の基本的な考え方と実践するにあたっての基本的手法を説明できる。 2. 公衆衛生学の実践である保健、福祉における計画、実践を担う行政、法規、医療機関等の役割を説明できる。 3. 公衆衛生学における実践者である理学・作業療法の役割を説明できる。 4. 公衆衛生学における理学・作業療法の基本的な手技を実施できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		衛生学・公衆衛生学とは	野見山 哲生
2		保健統計	〃
3		社会保障制度	〃
4		疫学	〃
5		国民栄養	〃
6		環境保健	〃
7		地域保健と保健行政	〃
8		親子保健	〃
9		学校保健	〃
10		産業保健	〃
11		老人保健・福祉	〃
12		精神保健	〃
13		国際保健	〃
14		感染症	〃
15		食品衛生	〃

テキスト・参考図書	テキスト：シンプル衛生公衆衛生学（南江堂） 参考書：国民衛生の動向（厚生労働統計協会）
成績・評価の方法	期末試験60%、プレテスト20%、レポート20%
その他（履修上の留意点）	事前に講義、実習の内容を確認し、テキストを読んで授業に参加して下さい。 尚、事前学習の結果は講義開始時に行うプレテストで評価し、成績・評価に組み込みます。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	看護・介護学		
担当教員	堀 房子、 道木 恭子		
配当年次	3年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>看護とは何か、看護学的なものの方や考え方の基盤になる認識とは何か、看護学的視点から人間とはどのような存在か、時間的・空間的な連続としての人間の生活とは何か、健康とは何か、病気とは何かを考え、「その人の持てる力を引き出すような生活過程を整える看護・介護」とはどうすることなのか、看護過程の展開をとおして理解を深める。その上で看護・介護するものに求められる倫理観を学ぶ。</p> <p>リハビリテーションへの社会的ニーズが高まっている中で、改めて自律を目指す人への全人的医療・ケア、予防、人間の基本的生活の保障、ノーマライゼーション、QOL、およびチームアプローチの観点から、リハビリテーション看護・介護の役割機能を理解する。</p>			

学習目標(行動目標)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践に必要な主要概念である看護・人間・健康・生活・環境について広い視野から学び、現代における看護の役割や機能を理解する。 2. 看護・介護実践に必要な人間の尊厳、ノーマライゼーション、リハビリテーション、エンパワメント、QOLについて理解する。 3. 多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的考え方や援助方法を理解する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		看護論、看護と介護の視点	堀 房子
2		人間と環境、健康と看護	〃
3		看護の役割と機能、看護活動	〃
4		院内感染の基礎・予防	〃
5		認知症患者のケア	〃
6		病気と看護	〃
7		病気と看護	〃
8		訪問看護の現状・役割・訪問看護制度と歴史	〃
9		リハビリテーション看護の基本概念	〃
10		リハビリテーション看護の役割機能と実践	〃
11		高齢者に特有な疾患・健康障害の特徴と援助	道木 恭子
12		疾患とリハビリテーション看護(脊髄損傷)	〃
13		疾患とリハビリテーション看護(パーキンソン病)	〃
14		疾患とリハビリテーション看護(骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折)	〃
15		疾患とリハビリテーション看護(COPD・肺炎) 演習(吸引)	〃

テキスト・参考図書	テキスト：特になし オリジナルプリントを配布する(堀) 参考書：随時提示します(堀)
成績・評価の方法	期末試験100%
その他(履修上の留意点)	二回目以降は前回の授業内容を復習し授業に参加してください

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	多職種連携演習		
担当教員	岩谷 力, 金物 壽久, 福田 恵美子, 高嶋 孝倫, 熊本 圭吾, 大町 かおり, 堀 房子		
配当年次	4年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習

授業科目の概要(一般目標)

本科目は、4年次前期に開講し、理学療法、作業療法の両専攻合同で行う。リハビリテーション医療における主要な対象疾患の症例を提示し、理学療法士、作業療法士のほかに、医師、看護師、社会福祉士、義肢装具士が参加した、演習および総合討論を行う。整形外科系、中枢系の模擬症例をそれぞれ1例ずつ提示し、理学療法、作業療法の評価項目の選定、および段階的に提示される評価結果に対する治療プログラムをもとに、他職種に対する関連情報の提供・情報の収集・要望提示等、グループ単位で総合討論を行うこととする。

症例の状況把握、他職種への必要な情報の提示、および他職種からの情報収集の実際を学び、相互理解を深めることで、これまでに学んだ基礎的な知識に加え、臨床実習で経験した知識と技能を統合し、多職種の連携医療チームにおける理学療法士及び作業療法士としての役割の認識を高め、問題解決能力を養う。

学習目標(行動目標)

提示された模擬症例を通し、リハビリテーション分野の専門家として、症例を理解した上で役割を分析し、自分の意見をまとめ発表できる。

総合的に意見交換を行い、実践的なプログラムを構築し、専門家としての役割と協働についての理解を深める。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション(授業のアウトライン・症例提示, 等)	大町・金物
2		医師の業務概要・症例に対してPTOTに提供可能な情報の提示	岩谷・金物
3		看護師の業務概要・症例に対してPTOTに提供可能な情報の提示	堀
4		義肢装具士の業務概要・症例に対してPTOTに提供可能な情報の提示	高嶋
5		社会福祉士の業務概要・症例に対してPTOTに提供可能な情報の提示	熊本
6		多職種に対してOT/PTとして必要と思われる提供可能な情報の提示	福田・大町
7		グループワーク-1(各専攻グループ)	大町
8		グループワーク-2(各専攻グループ)	大町
9		グループワーク-3(両専攻混合グループ)	大町
10		グループワーク-4(両専攻混合グループ)	大町
11		グループ発表-1(両専攻混合グループ)	全員
12		グループ発表-2(両専攻混合グループ)	全員
13		グループ発表-3(両専攻混合グループ)	全員
14		総合討論	全員
15		まとめ	岩谷・大町

テキスト・参考図書	テキストおよび参考図書：授業時に提示する
成績・評価の方法	授業への取り組み状況20%，グループ発表40%，レポート40%
その他(履修上の留意点)	4年次前期に集中講義として行う。 グループワークが多いため、積極的かつ協働的に授業に参加してください。 事前・事後学修は、集中講義中に提示されるグループワーク課題の延長として行うこととする。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法基礎セミナー		
担当教員	松房利憲、福田恵美子、宮脇利幸、小市健二、清水万紀子、春原るみ、栗林美智子、松下雅子		
配当年次	1年	配当学期	通年
年間授業回数	30回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習

授業科目の概要(一般目標)

導入教育である基礎セミナーでは、

- 1) リハビリテーション専門職連携の基礎(作業療法士の役割と他職種の役割を知る)
- 2) スタディスキル: 図書館の利用法、情報収集の仕方、レポートの書き方等
- 3) ソーシャルスキル: 社会人として、未来の医療従事者としての心構え
- 4) 建学の精神: 四徳の意味・意義について考え、大学生活で実践する能力を養う。

特に前期では、ポートフォリオの作成を通して、理想とする作業療法士になるために必要な具体的な行動指針を作成し、大学での生活が計画的で有意義なものとなるように支援する。

特に後期では、各教員の指導のもとで、専門分野の学習に立ち向かう動機付け及び学習の取り組み姿勢を養う。各科目に触発されたテーマを障害別、疾患別に選定するとともに、内容に応じて障害者体験、各種の調査、簡易の実験などもおこない、前期に学んだスキルを活かして発表会を行う。

学習目標(行動目標)

1. リハビリテーションチームにおける作業療法士の役割と他職種の役割を理解し説明できる。
2. 本学で学ぶためのスタディスキルを理解し、より幅広く深い知識や技術を身に付けるための態度や心構えで行動できる。
3. 作業療法士になり、働くことを可能にするための知識、技術、態度、心構えとは何かを理解し達成するために行動化することが出来る。
4. ポートフォリオをととして目標指向的な考え方や、自己や他者が作業的存在であることを理解し説明できる。
5. PBL(問題基盤型学習)の学習プロセスを応用した能動的な学習法について理解し実践できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/8	オリエンテーション	OT専任教員
2	4/15	スタディスキル: なぜ学ぶか、ノートの取り方、図書館とデータベースの使い方	〃
3	4/22	スタディスキル: レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方	〃
4	5/13	ポートフォリオとはなにか: 目標管理と作業的な振り返りとは	〃
5	5/20	グループワーク ポートフォリオ作成 準備	〃
6	5/27	グループワーク ポートフォリオ作成 材料収集	〃
7	6/3	グループワーク ポートフォリオ作成 目標設定と作成	〃
8	6/10	パーソナルポートフォリオ 発表 1グループ	〃
9	6/17	パーソナルポートフォリオ 発表 2グループ	〃
10	6/24	パーソナルポートフォリオ 発表 3グループ	〃
11	7/1	目標指向的学習とリハビリテーションチームにおける作業療法士の役割、他職種の役割	〃
12	7/8	グループワーク 作業療法士とは何か(目標設定)	〃
13	7/15	グループワーク 作業療法士になるための方法(プランニング)	〃
14	7/22	グループワーク 作業療法士になるための方法(プランニング)	〃
15	7/29	グループ発表	〃
16	9/30	能動的学習とは、PBLの学習プロセスとは	OT専任教員
17	10/7	グループワーク テーマ(課題)の発見	〃
18	10/14	グループワーク テーマ(課題)の発見 ディスカッション	〃
19	10/21	グループワーク 解決方法 ディスカッション	〃
20	10/28	グループワーク 解決方法 計画立案	〃
21	11/4	グループワーク 情報収集 役割分担	〃
22	11/11	グループワーク 情報収集 学習	〃
23	11/18	グループワーク 情報収集 学習	〃
24	11/25	グループワーク 情報収集 学習	〃
25	12/2	グループワーク 情報収集 学習	〃
26	12/9	グループワーク テーマ(課題)の解決 ディスカッション	〃
27	12/16	グループワーク テーマ(課題)の解決 ディスカッション	〃
28	1/6	グループワーク 学習の要約 パワーポイントによるまとめ	〃
29	1/13	グループワーク 学習の要約 パワーポイントによるまとめ	〃
30	1/20	グループ発表	〃

テキスト・参考図書	テキスト: 配布プリント 参考書: 鈴木敏恵: 目標管理はポートフォリオで成功する。(メヂカルフレンド社)
成績・評価の方法	ポートフォリオ、参加態度、発表態度
その他(履修上の留意点)	特になし

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	解剖学実習（骨格系）		
担当教員	山本 良彦		
配当年次	1年	配当学期	前期
年間授業回数	30回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>骨、軟骨、関節、靭帯で構成される骨格系について、骨学、関節靭帯学の順に学習を進めていく。人体の構造を立体的に捉えて整理し、骨とその各部位の名称、関節とその運動の仕組み、関節における主要な靭帯とその機能について説明できることがねらいである。</p> <p>授業は講義と実習を並行して行うが、標本模型等を利用した観察、スケッチによる実習が主体となるため、自学自習の精神を身に付けること、また、医療に携わる心構えを自覚することも期待される。</p>			

学習目標（行動目標）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨、関節に関する名称、用語を理解し、説明および図示できる。 2. 骨、関節の生体内での位置関係を理解し、説明および図示できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/10	骨学実習（上肢の骨） 1	山本 良彦
2	〃	骨学実習（上肢の骨） 2	〃
3	4/17	骨学実習（上肢の骨） 3	〃
4	〃	骨学実習（上肢の骨） 4	〃
5	4/24	骨学実習（下肢の骨） 1	〃
6	〃	骨学実習（下肢の骨） 2	〃
7	5/1	骨学実習（下肢の骨） 3	〃
8	〃	骨学実習（下肢の骨） 4	〃
9	5/8	骨学実習（脊柱の骨） 1	〃
10	〃	骨学実習（脊柱の骨） 2	〃
11	5/15	骨学実習（脊柱の骨） 3	〃
12	〃	骨学実習（脊柱の骨） 4	〃
13	5/22	骨学実習（頭蓋・胸郭の骨） 1	〃
14	〃	骨学実習（頭蓋・胸郭の骨） 2	〃
15	5/29	骨学実習（頭蓋・胸郭の骨） 3	〃
16	〃	骨学実習（頭蓋・胸郭の骨） 4	〃
17	6/5	関節学実習（上肢の連結） 1	〃
18	〃	関節学実習（上肢の連結） 2	〃
19	6/19	関節学実習（上肢の連結） 3	〃
20	〃	関節学実習（上肢の連結） 4	〃
21	6/26	関節学実習（下肢の連結） 1	〃
22	〃	関節学実習（下肢の連結） 2	〃
23	7/3	関節学実習（下肢の連結） 3	〃
24	〃	関節学実習（下肢の連結） 4	〃
25	7/10	関節学実習（脊柱の連結） 1	〃
26	〃	関節学実習（脊柱の連結） 2	〃
27	7/17	関節学実習（脊柱の連結） 3	〃
28	〃	関節学実習（頭蓋・胸郭の連結） 1	〃
29	7/24	関節学実習（頭蓋・胸郭の連結） 2	〃
30	〃	関節学実習（頭蓋・胸郭の連結） 3	〃

テキスト・参考図書	<p>◆テキスト 小川鼎三：分担解剖学1、金原出版 坂井建雄監訳：プロメテウス解剖学アトラス 野村 巖：標準理学療法・作業療法 解剖学、医学書院</p> <p>◆参考書 寺田春水ほか：骨学実習の手引き、南山堂 相磯貞和訳：ネッター解剖学アトラス第5版、南光堂</p>
成績・評価の方法	確認テスト25%、期末試験50%、口頭試問25%
その他（履修上の留意点）	<p>◆予習は必要ないが、毎回の講義の確認を十分行ってほしい。</p> <p>◆記憶するべきこともたくさんあるが、それぞれを関連させて理解していくことが重要である。</p>

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	解剖学実習（筋系）		
担当教員	宮脇 利幸		
配当年次	1年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>解剖学の中でも療法士に特に必要とされる筋学の理解を深めるために、解剖学用語、体部位の名称、骨格筋の構造・作用、骨格筋の神経支配等の知識習得を図る。上肢、下肢、頭頸部、胸腹部、背部と部位別に学ぶ。また、机上の学習においての知識を深めるとともに、人体の構造を立体的に捉えて整理する。</p>			

学習目標（行動目標）
<p>身体各部位の名称を適切な解剖学用語で説明できる。 骨格筋の構造が説明できる。 骨格筋の一般的な作用の原理が説明できる。 身体各部位の骨格筋の名称、起始、停止、作用、支配神経と髄節レベルが説明できる。 身体各部位の骨格筋の位置を交連骨格を用いて指し示すことができる。</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/6	筋学総論：骨格筋の構造・作用、骨格筋の神経支配	宮脇 利幸
2	4/13	上肢の筋：上肢帯の筋，上腕の筋，前腕の筋，手の筋	〃
3	4/20		〃
4	4/27		〃
5	5/11		〃
6	5/18		〃
7	5/25		〃
8	6/1		下肢の筋：下肢帯の筋，大腿の筋，下腿の筋，足の筋
9	6/8	〃	
10	6/15	〃	
11	6/22	〃	
12	6/29	〃	
13	7/6	背部の筋	〃
14	7/13	頭頸部，胸腹部筋	〃
15	7/27	まとめ	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト： 参考書：相磯貞和 訳：ネッター解剖学アトラス．南江堂 伊藤 隆：解剖学講義．南山堂</p>
成績・評価の方法	筆記試験50%、口頭試問50%
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	解剖学実習（神経系）		
担当教員	宮脇 利幸		
配当年次	1年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習

授業科目の概要（一般目標）

近年、ニューロサイエンスの進歩はめざましい。脳を理解することで、ヒトの行動や情動を理解することができる。ヒトの運動を理解するためにもそうしたニューロサイエンスの知見は有用である。また、患者の疾患について正しく理解し、病巣と障害像との照合ができることは治療を行う上で必要な能力である。基本的な神経の構造と働きについて理解することをねらいとし、神経組織、神経系の発生、末梢神経系（脳神経、脊髄神経、自律神経系）、中枢神経系について講義およびワークシートによる実習を行う。また、中枢神経系のうち特に大脳基底核や視床などの内部構造を立体的に捉えられるよう模型を使用して理解を深める。

学習目標（行動目標）

基本的な神経の構造と働きが説明できる。
 中枢神経系の部位別に名称と働きが説明できる。
 末梢神経系の部位別に名称と働きが説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/25	神経組織・神経系の発生、変性、再生	宮脇 利幸
2	10/2	中枢神経系の肉眼的解剖	〃
3	10/9	脳の血管と脳室	〃
4	10/16	脊髄と脊髄神経	〃
5	10/23	延髄 橋 中脳	〃
6	10/30	脳神経	〃
7	11/6	小脳	〃
8	11/13	間脳	〃
9	11/20	大脳基底核	〃
10	11/27	大脳	〃
11	12/4	伝導路のまとめ（運動と感覚）	〃
12	12/11	頸神経叢 腕神経叢	〃
13	12/18	腰神経叢 仙骨神経叢	〃
14	1/8	末梢神経の皮枝	〃
15	1/15	まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：野村 巖ほか 「解剖学」 医学書院 相磯貞和 訳 「ネッター解剖学アトラス」 南江堂 参考書：なし
成績・評価の方法	筆記試験100%
その他（履修上の留意点）	講義予定に合わせて、予習・復習を怠らないようにしてください。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	解剖学実習（体表解剖）		
担当教員	宮脇 利幸		
配当年次	2年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授業科目の概要（一般目標）			
解剖学の知識をもとに、体表からの視覚的または徒手的に人体の構造を立体的に理解し、臨床上の評価、治療に役立てることをねらいとする。授業のすすめ方は、学生同士による体表解剖実習をおこなう。			

学習目標（行動目標）
対象者に不快感を与えないような身体への触れ方ができる。 触診対象の位置を正しく指し示すことができる。 触診対象の性状に合わせた触れ方ができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		上肢の筋：上肢帯の筋，上腕の筋，前腕の筋，手の筋	宮脇利幸
2			〃
3			〃
4			〃
5			〃
6			〃
7			〃
8			〃
9			〃
10			〃
11			〃
12			〃
13		背部の筋，頭頸部，胸腹部筋	〃
14		まとめ：実技発表	〃
15		まとめ：実技発表	〃

テキスト・参考図書	テキスト：林 典雄 「機能解剖学的触診技術」 上肢、下肢・体幹 メジカルビュー 参考書：相磯貞和 訳：ネッター解剖学アトラス，南江堂 伊藤 隆：解剖学講義，南山堂
成績・評価の方法	実技発表70%、受講態度30%
その他（履修上の留意点）	触診部位が露出できるように衣服を準備すること 爪を切る、アクセサリーなどを身につけないなど，対象者を傷つけないように配慮すること

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	運動学Ⅰ（作業療法基礎運動学）		
担当教員	松房 利憲		
配当年次	1年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要（一般目標）			
<p>ここでは機能解剖学を中心に人体の正常な運動を理解できるようにする。地球上での運動は抗重力で行われることから力学の基礎について教授する。人体の構造および機能について、解剖学、生理学等に触れながら身体運動との関係を理解する。各筋の作用を関節との関係において理解し、人間の身体運動を成立させている機構の基礎を学ぶ。</p>			

学 習 目 標（行 動 目 標）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学の概略を説明できる 2. 基礎的な生体力学について説明できる 3. 筋収縮の様態を説明できる 4. 各筋の関節に作用する機能を説明できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/25	運動学概論、生体力学の基礎（1）	松房 利憲
2	10/ 2	生体力学の基礎（2）	〃
3	10/ 9	生体力学の基礎（3）	〃
4	10/16	上肢の運動（上肢帯と肩関節）	〃
5	10/23	〃（肩関節）	〃
6	10/30	〃（肘関節と前腕）	〃
7	11/ 6	〃（手関節と手）	〃
8	11/13	〃（手関節と手）	〃
9	11/20	下肢の運動（下肢帯と股関節）	〃
10	11/27	〃（膝関節）	〃
11	12/ 4	〃（足関節と足）	〃
12	12/11	〃（足関節と足）	〃
13	12/18	体幹の運動（脊柱の運動）	〃
14	1/ 8	〃（胸郭）	〃
15	1/15	〃（腹部）と顔面の運動	〃

テキスト・参考図書	テキスト：中村隆一、齊藤 宏：基礎運動学 第6版補訂、医歯薬出版、2012 参考書：嶋田智明・他監訳：筋骨格系のキネシオロジー原著第2版、医歯薬出版、2012
成績・評価の方法	期末試験60点以上を合格とする。
その他（履修上の留意点）	2回目以降、毎回小テストを行うので十分復習をすること

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	運動学実習		
担当教員	宮脇 利幸、山本 良彦、下田 浩一、阿部 裕一		
配当年次	2年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習

授業科目の概要(一般目標)

人間の運動動作について、観察・測定・分析の初歩的手段を体験し、レポートにまとめる。また運動機能障害を持つ人の問題点を運動学的に捉え、評価や治療に応用する基礎を学ぶ。実習項目には以下の課題があり、その目的・方法を理解するためのオリエンテーションや実習後のフィードバックを各課題ごとに行う。

動画による歩行分析、有酸素運動の呼吸ガス分析、トルクマシンを用いた関節モーメント測定、重心動揺計を用いた身体重心位置の測定、筋電図を用いた立ち上がり動作の分析、筋電図を用いた上肢運動の計測、坐位・立位保持の重心動揺計測、観察による各種の手の運動分析、基本動作の観察による動作分析。

学習目標(行動目標)

- ・運動学で学んだ基礎的な知識を、身体活動と結びつけて理解する。
- ・各種機器を用いた分析の手法を学び、実践する。
- ・人間の運動動作の観察力を身につけ、分析できるようになる。
- ・実験の結果をレポートにまとめる能力をつけ、発表することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		筋電図を用いた上肢運動の計測	
2		坐位・立位保持の重心動揺計測	
3		観察による各種の手の運動分析	
4		基本動作の観察による動作分析	
5		4グループに分かれ、4テーマを4回ずつ実施する。	
6		グループ編成と日程は別途配布する。	
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	テキスト：各テーマ毎に配布する。 参考書：鎌倉矩子 他編：PT・OT学生のための運動学実習，三輪書店 中村隆一，斉藤 宏：基礎運動学 第5版，医歯薬出版 中村隆一，斉藤 宏：臨床運動学 第2版，医歯薬出版 内山 靖，小林 武，間瀬教史編：計測法入門 計り方，計る意味，協同医書
成績・評価の方法	演習・課題への取り組み:30% レポート:45% 試験:25%
その他(履修上の留意点)	各教員から配布される資料を基に事前学習を行うこと。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	精神医学Ⅱ		
担当教員	田玉 逸男		
配当年次	3年次	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

精神障害を理解するために役立つ各種理論を学習する。精神医学総論、精神医学の歴史を振り返るところから始め、模擬患者が演じる診療風景をビデオで供覧し精神障害をより深く、より具体的に学習して、さらなる理解を深めることを目的とする。具体的には脳器質性・症状性精神症、物質依存、てんかん、統合失調症、気分障害などである。

学習目標（行動目標）

基本的精神疾患の特徴、経過、治療を説明できる。精神科薬物療法、司法精神医学、リエゾン・コンサルテーション精神医学について概要を説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		精神医学の歴史 精神医学の歴史を俯瞰する。	田玉逸男
2		脳器質性精神病 解説と症例とともに学習する。	〃
3		物質依存 薬物依存症、アルコール依存のビデオをみて理解する。」	〃
4		癲癇 癲癇発作ビデオをみて実際の発作を理解しその対応を学ぶ。	〃
5		不安障害、心身症 症例とともに学ぶ。	〃
6		人格障害 特に境界性人格障害の症例から学ぶ。	〃
7		統合失調症Ⅰ 統合失調症の認知について	〃
8		統合失調症Ⅱ 統合失調症の薬物療法とリハビリテーション	〃
9		感情障害Ⅰ 感情障害の認知	〃
10		感情障害Ⅱ 自殺学(いのちの電話外部講師とのコラボ企画)	〃
11		認知障害 認知障害とBPSD 画像診断から見た認知症	〃
12		児童・思春期精神障害 概説	〃
13		精神薬理学 脳病理と薬理	〃
14		法と精神医学 法から見た精神保健福祉、司法鑑定、民事鑑定	〃
15		まとめ まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：＜標準理学療法・作業療法＞上野武治（編）：精神医学、学書院 参考書：現代臨床精神医学、金原出版
成績・評価の方法	期末筆記試験：100%
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法概論		
担当教員	福田 恵美子		
配当年次	1年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

作業療法という学問について、その専門性や特性を概括的に学び、世界と日本における作業療法の歴史的経過、作業療法の適応となる医療・保健・福祉領域における位置づけ、対象となる疾患と急性期から終末期の作業療法の役割、治療・援助目的や手段などについて初歩的な内容を概観する。同時に作業療法士としてのアイデンティティの基盤を培うべく、資質としての倫理感、専門職業人としての作業療法への取り組み方、学習領域としての4年間の流れ、情動領域としての授業への取り組み方の基本も学ぶ。

学習目標(行動目標)

1. 生活している人の健康、病気、障害について推測し、行動、行為の変容を予測し、表現することができる。
2. 作業療法の起源と伝承される原理について述べるができる。
3. 作業療法の実践の仕組みについて記述することができる。
4. 作業療法実践の事例を想像し、疑問点を調べ、思考した問題解決方法を説明することができる。
5. 作業療法の記録と報告について述べるができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/9	1-①作業療法紹介のVTRから作業療法士が行っていた役割を5場面以上列挙できる。	福田 恵美子
2	4/16	②作業療法は、医療、保健、福祉の分野にどのように活用されているか話し合う。	〃
3	4/23	③人間の健康、病気、障害を説明し、私見について述べるができる。	〃
4	4/30	2-①作業療法の起源は人と作業・活動の関わりに関連している事を認識し説明する。	〃
5	5/7	②作業や活動が「療法」になるということを具体的に述べるができる。	〃
6	5/14	③作業が人間に与える効果や価値に気付き、「核」となる点を述べる。	〃
7	5/21	3-①作業療法実践の仕組みからその実践過程を把握し、述べるができる。	〃
8	5/28	②臨床の観察、評価、手段の選択の重要性について話し合うことができる。	〃
9	6/4	4-①身体障害領域(急性期～地域支援)	〃
10	6/11	②精神障害領域(急性期～地域支援)	〃
11	6/25	③発達障害領域(急性期～地域支援)	〃
12	7/2	④高齢期障害領域(急性期～地域支援)	〃
13	7/9	5-①記録と報告の意義やその違いについて述べるができる。	〃
14	7/16	②「記録、報告、文書」に対する基本的な心構えと効果判定について考える。	〃
15	7/23	まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト： 矢谷令子、福田恵美子編集「作業療法実践の仕組み改定 第2版」、協同医書 参考書： 岩崎テル子編集「標準作業療法学 作業療法学概論 第2版」、医学書院
成績・評価の方法	試験60%、レポート40%
その他(履修上の留意点)	事前に教科書を読み、私見をもって授業に臨んでください。 身体障害分野、発達障害分野、精神障害分野の施設見学を実施します。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	基礎作業療法学		
担当教員	春原 るみ		
配当年次	1年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

作業療法の概念、前提となる理論、目標などの知識を学び、作業療法とは何かを理解する。作業療法の中核である作業について、人間―作業―環境の関係および健康との関係に基づき、作業とは何か、作業に対する文化的影響、人びとはなぜ作業に従事するのか、作業はどのように遂行され、どのように組織されるのか、作業の時間的側面、等作業の主観的意味、作業の文脈、作業の成果などについて理解する。また、作業を分析し段階づけるために必要な知識を学び実際に分析する。

学習目標(行動目標)

1. 作業療法の中核をなす作業について、作業の広がり、主観的意味、文脈、作業による成長と回復について説明できる。
2. 作業と人と健康の関係を説明できる。
3. 作業分析の手法、適応や段階づけについて説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/7	作業とは何か 生活の中の作業	春原 るみ
2	4/14	作業とは何か 作業の種類と階層	〃
3	4/21	作業の主観的意味 生産的作業	〃
4	4/28	作業の主観的意味 楽しい作業	〃
5	5/12	作業の主観的意味 休息になる作業 作業バランス	〃
6	5/19	作業の文脈 空間的側面	〃
7	5/26	作業の文脈 時間的側面	〃
8	6/9	作業の文脈 社会的・文化的側面	〃
9	6/16	作業による健康と回復 作業と健康	〃
10	6/23	作業による成長と回復 作業の変遷・社会改革と作業	〃
11	6/30	作業による成長と回復 社会改革と作業	〃
12	7/7	作業分析とは	〃
13	7/14	包括的作業分析の試み	〃
14	7/21	作業療法と作業 適応と段階づけ	〃
15	7/23	作業療法と作業 手段としての作業・目的としての作業	〃

テキスト・参考図書	テキスト：吉川ひろみ：「作業」って何だろう。医歯薬出版2008 山根 寛：ひとと作業・作業活動。三輪書店 参考書：日本作業療法士協会：作業療法学全集第2巻 基礎作業学 カナダ作業療法士協会著；吉川ひろみ監訳：作業療法の視点―作業ができるということ。大学教育出版、2000
成績・評価の方法	レポート30%・期末試験70%
その他(履修上の留意点)	教科書、必要に応じて参考図書を事前に読んで予習すること。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	基礎作業学（基本・技法）		
担当教員	小市 健二、清水 万紀子、春原 るみ、栗林 美智子、松下 雅子		
配当年次	1年	配当学期	通年
年間授業回数	30回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>臨床で用いる作業種目の基本的技法を身につけ、作業手順や使用器具についての基礎的知識を得る。また、各作業の素材、作業の流れ、作業の工程の複雑さ、作業とコミュニケーションとの関係などを考察し、心身に与える影響や、治療的側面について、実際の作業活動を通して学ぶ。結果として治療活動としての作業の持つ役割を理解し、作業療法場面において応用的な活用ができるようになる。</p> <p>下記の教員が作業活動を分担して担当する。 （小市健二）木工 （清水万紀子）編み物 （春原るみ）マクラメ （栗林美智子）陶芸・籐細工 （鳥井雅子）革細工</p>			

学習目標（行動目標）
<ul style="list-style-type: none"> ・各種活動の基本的な技法を理解し、活動の指導を方法を考察する。 ・作業活動ごとに、作業の意味、身体的・精神的影響因子の特徴を理解できる。 ・作業活動が人間に与える身体的・精神的・心理的影響や効果が理解できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		前期：火曜日4限、木曜日5限、金曜日1限	
2		後期：月曜日2限、木曜日5限、金曜日5限	
3		上記時間に木工：小市5回 編み物：清水3回 マクラメ：春原4回	
4		陶芸：栗林5回 籐細工：栗林4回 革細工：松下8回 まとめ1回	
5		計30回をグループ毎に分かれて実施する。	
6		詳細な日程は後日掲示する	
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

テキスト・参考図書	テキスト：岩瀬義昭編：基礎作業学実習ガイド，協同医書出版社 参考書：日本作業療法士教会編：作業・その治療的応用 協同医書出版 その他随時紹介する
成績・評価の方法	作品の製作過程を含む演習：60% 演習の理解度の筆記試験40%
その他（履修上の留意点）	テキストおよび配付資料を参考に事前学習を行うこと。また、授業時間内に終わらなかった課題については各自の空き時間を利用し、次の講義に間に合わせる。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	基礎作業学（作業分析学）		
担当教員	佐藤 陽子、栗林 美智子、松下 雅子		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習

授業科目の概要（一般目標）

1, 2年で学んだ作業療法学の基礎知識を応用し、作業の分析能力と治療的応用能力を学ぶ。
 (佐藤陽子/6回)
 作業療法の治療手段のひとつであるレクリエーション活動は、講義➡小集団によるプログラムの検討とリーダーの模擬練習➡同級生対象の実践➡終了後のフィードバックという構成である。学生はリーダー体験を通して、集団の凝集性を高めるためのプログラム展開の工夫やリーダーシップの取り方などを体験する。この体験を通して、治療的レクリエーションの意義や重要性を理解する。
 (栗林美智子, 鳥井雅子/9回) 和紙細工・ネット手芸

学習目標（行動目標）

- ・ 治療的レクリエーションの意義と重要性を理解する。
- ・ 対象者を想定して、レクリエーションのプログラムの企画ができる。
- ・ レクリエーションの運営をスタッフの役割を理解した上で、運営できる
- ・ 作業活動の分析能力を身につけ、治療的に作業を利用できるようになる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		水曜日：4限目6回	
2		月曜日：3限目9回（栗林、松下）2グループに分けて実施	
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	テキスト：岩瀬義昭編：基礎作業学実習ガイド，協同医書出版社 参考書：新・手あみ 日本ヴォーグ社， メタリックヤーンでつくる素敵な小物 雄鶏社 リサイクル手作り収納グッズ：ブティック社
成績・評価の方法	演習：70% 演習の理解度の筆記試験30%
その他（履修上の留意点）	テキストおよび配付資料を参考に事前学習を行うこと。また、授業時間内に終わらなかった課題については各自の空き時間を利用し、次の講義に間に合わせる。レクリエーションのグループワークを事前に練習すること。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法研究法		
担当教員	熊本 圭吾		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

臨床実践とともに「研究」に取り組む事は、作業療法という専門領域を確立・発展させるためにも重要である。

本講義では作業療法における研究の現状を概観するとともに、作業療法研究法演習を見据えて、研究計画の立案および研究を進める上で必要となる基礎的知識について学ぶ。また、関連領域の研究論文を批判的に精読することを通して、科学的な態度を身につけることを目標とする。

学習目標（行動目標）

- ・研究や研究論文の意義が理解できる
- ・目的とする研究論文を探すことができる
- ・論文の基本的な読み方書き方を理解する
- ・先行研究をまとめて伝えることができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		論文の意義・研究の意義	熊本 圭吾
2		作業療法と実証的研究	〃
3		論文の読み方	〃
4		論文の読み方	〃
5		学術論文の探し方	〃
6		先行研究の理解・論文を紹介する	〃
7		先行研究の理解・論文を紹介する	〃
8		論文の作法	〃
9		先行研究の理解・系統的レビューの考え方	〃
10		レビューのための疑問・課題設定（グループワーク）	〃
11		プレゼンテーションの心得	〃
12		文献レビュー発表の準備（グループワーク）	〃
13		文献レビューの発表	〃
14		文献レビューの発表	〃
15		今後の研究に向けて	〃

テキスト・参考図書	テキスト：戸田山和久 新版 論文の教室—レポートから卒論まで、NHK出版 参考書：山田 剛史、林 創 大学生のためのリサーチリテラシー入門、ミネルヴァ書房 Stuart Porter著、武田 裕子訳 ここからはじめる研究入門 医学書院 石黒 圭 この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本、日本実業出版社 山田 孝 編 作業療法研究法、医学書院
成績・評価の方法	提出課題・発表100%
その他（履修上の留意点）	図書館利用が必要な課題が中心です。時間的な余裕を持って取り組んでください。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法研究法演習（卒業研究）		
担当教員	松房 利憲、福田 恵美子、高嶋 孝倫、熊本 圭吾、宮脇 利幸、春原 るみ		
配当年次	4年	配当学期	通年
年間授業回数	30回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>学内および臨床実習で学んだ知識からの問いや疑問から、学生自らが考えた研究テーマを基に、臨床実習を通して収集した資料や測定・実験などの研究結果を基に、作業療法に関する論文の作成を行う。その過程において、文献検索の手法、参考文献の整理をおこない、具体的な実験計画を明確にする一連の流れを学ぶ。そして論文の主要な構成である緒言・研究材料・方法・結果・考察・あるいは、図・表や参考文献などの取り扱い方法について、具体的に学び、最終的には論文集として編纂するまでを行う。</p>			

学習目標（行動目標）
<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに沿った資料の収集ができる。 ・援助を受けながら、研究の実施計画書作成することができる。 ・研究計画に基づき、調査実験を具体的に進めることができる。 ・統計的手法を用いて結果の整理を行い、考察することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		9月下旬：発表会	
2		翌年2月：論文集の発行	
3		詳細については各担当教員に確認して進めること	
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

テキスト・参考図書	テキスト：特に指定しない 参考書：特に指定しない
成績・評価の方法	課題70%、参加姿勢30%
その他（履修上の留意点）	自ずから進んで、研究を展開していく姿勢を持って行うこと。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法倫理管理		
担当教員	清水 万紀子、岩谷 力、小市 健二、栗林 美智子、鳥井 雅子		
配当年次	4年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

作業療法士は生活に障害をきたしている人々や家族に信頼される対応をしなければならない。対象者や家族との人間関係、また職場での人間関係のありかたなどを学ぶ。

<オムニバス方式/全15回>

(清水万紀子/11回) 作業療法士として働くための基本的な職場内での知識としての業務管理、人事管理等の管理業務の基本や運営について知識を深め、社会人、職業人としての職場における基礎的な能力を身につける。また2年毎に改定される診療報酬、3年毎に改定される介護報酬についても知識を深める。

(岩谷力/1回) 医療倫理

(小市健二/1回) 障害者福祉領域

(栗林美智子/1回) 精神科医療領域

(鳥井雅子/1回) 発達障害領域

学習目標(行動目標)

1. 医療倫理について理解を深めることが出来る。
2. 作業療法の分野別の診療報酬等の基礎的知識を理解する。
3. 作業療法現場に必要な倫理・管理を知り、職業人としての自覚をもつ。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		医療倫理	岩谷 力
2		臨床実習について	清水万紀子
3		個人情報保護法について	〃
4		医療報酬その他(障害者福祉領域)	小市健二
5		医療報酬その他(精神科領域)	栗林美智子
6		医療報酬その他(発達障害領域)	鳥井雅子
7		医療報酬その他(身体障害領域)	清水万紀子
8		作業療法と倫理	〃
9		作業療法部門の管理・運営	〃
10		〃	〃
11		〃	〃
12		医療職としての接遇	〃
13		ポスト・サービス社会におけるホスピタリティー	〃
14		作業療法が関わる医療保険・介護保険・自立支援	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：岩崎テル子編集：標準作業療法学 作業療法学概論第2版、医学書院 参考書：砂屋敷忠他編：医療保健専門職の倫理テキスト、医療科学社 その他随時紹介する
成績・評価の方法	レポート
その他(履修上の留意点)	授業内容を4年次の臨床実習に活かす。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法評価学総論		
担当教員	松房 利憲		
配当年次	1年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

作業療法を実施するためには、対象者の評価ができることが前提となる。評価とはなにかを中心に、領域を問わず、どの領域であっても必要とされる考え方や知識を教授する。2年次に学ぶ評価学につながるものである。対象者の持っている機能や能力、失った機能や能力を正しく評価し、把握したうえでプログラムを立てられるよう、作業療法の評価全般にわたって目的、種類、手順、注意事項などの概略について学ぶ。

学習目標(行動目標)

1. 評価とは何か説明できる
2. 何のために評価をするかを説明できる
3. 面接の意味と重要性を説明できる
4. 観察の意味と重要性を説明できる
5. 各領域に共通な機能の基礎知識を説明できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/24	作業療法と評価、評価の時期・評価項目	松房 利憲
2	10/ 1	評価の手順と手段	〃
3	10/ 8	評価の留意点、分析と解釈	〃
4	10/15	評価計画立案	〃
5	10/22	記録・報告、効果判定	〃
6	10/29	面接	〃
7	11/ 5	観察	〃
8	11/12	意識・バイタルサイン、臨床検査	〃
9	11/19	形態測定、ROM、MMT	〃
10	11/26	知覚	〃
11	12/ 3	反射	〃
12	12/10	姿勢反射、筋緊張	〃
13	12/17	協調性、脳神経	〃
14	1/ 7	上肢機能、高次脳機能	〃
15	1/14	不安、うつ、ADL、QOL	〃

テキスト・参考図書	テキスト：岩崎テル子他編集：作業療法評価学 第2版，医学書院，2011 参考書：田崎義昭，斉藤佳雄：ベッドサイドの神経の診かた，南山堂， 津山直一訳：新徒手筋力検査法，共同医書出版
成績・評価の方法	期末試験60点以上を合格とする。
その他（履修上の留意点）	範囲が広いので、地道に復習すること

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法評価学（身体障害）		
担当教員	松房 利憲、清水 万紀子		
配当年次	2年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

身体障害作業療法を実施する上で必要となる基本的評価の意義と目的を知り、測定技法や、検査器具の使用法、検査手順、検査結果の表記の仕方を学ぶ。学生同士が検者、被検者となり、実際に互いの体を動かしながら基本的評価法を身につけるための実技を実施する中で、対象者の状況を正しく把握し、客観的なデータが得られるよう、評価する際の注意点、留意点を体得することを目標とする。

学習目標（行動目標）

1. 各評価の目的を理解し、評価の留意点を知る。
2. 検査の意味を理解し、検査について説明することが出来る。
3. 検査を健常者に対して実施できる。
4. 検査から得られた結果を記録し、内容を把握することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		面接法・観察法、形態測定、意識の評価、バイタルサインの測定	清水万紀子
2		関節可動域測定—上肢	松房利憲
3		〃	〃
4		関節可動域測定—下肢、体幹	〃
5		〃	〃
6		徒手筋力検査法—肩甲帯、肩	清水万紀子
7		〃 —上肢	〃
8		〃	〃
9		〃	〃
10		〃 —下肢	〃
11		知覚検査	松房利憲
12		脳神経検査	〃
13		筋緊張検査、協調性検査	清水万紀子
14		反射検査、姿勢反射検査	〃
15		上肢機能検査	松房利憲

テキスト・参考図書	テキスト：岩崎テル子他編：標準作業療法学 作業療法評価学 第2版 医学書院 津山直一訳：新・徒手筋力検査法 第8版、協同医書出版社 田崎義昭・斎藤佳雄 著：ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版、南山堂 参考書：福田修他：ROM測定 第2版 三輪書店
成績・評価の方法	期末筆記試験80%、実技試験20%
その他（履修上の留意点）	シラバスで授業内容確認を行い、予習して授業に参加して下さい。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法評価学演習（身体障害）		
担当教員	清水 万紀子		
配当年次	2年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>身体障害作業療法評価学で学んだ基礎的評価法をふまえて、脳血管障害・リウマチ・脊髄損傷・神経筋疾患等の身体障害の疾患特徴を学ぶ。また、各疾患の障害に合致した評価法を体得するため、講義のほかに、学生同士が検者・被検者となり、実際に互いの体を動かしながら応用的な評価法を身につける為の実技を実施する。身体的な評価だけでなく、心理・社会的・環境的背景などを考慮し、包括的な視野で評価が出来るよう、分析的な視点を学ぶことを目標とする。</p>			

学習目標（行動目標）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各疾患の評価目的を理解できる。 2. 検査の意味を理解し、疾患に応じた検査を選択、実施できる。 3. 検査を被検者に対して実施できる。 4. 検査から得られた結果を記録し、内容を把握することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		脳血管障害	清水 万紀子
2		〃	〃
3		〃	〃
4		〃	〃
5		脊髄損傷	〃
6		〃	〃
7		〃	〃
8		末梢神経障害	〃
9		〃	〃
10		〃	〃
11		関節リウマチ	〃
12		〃	〃
13		その他の神経疾患, 神経・筋疾患	〃
14		〃	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：岩崎テル子他編：標準作業療法学 作業療法評価学 第2版 医学書院 津山直一訳：新・徒手筋力検査法 第8版, 協同医書出版社 田崎義昭・斎藤佳雄 著：ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版, 南山堂 参考書：聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部作業療法科：OT臨床ハンドブック 三輪書店 石川齊他：作業療法技術ガイド 第3版 文光堂 田中宏太佳：脊髄損傷のリハビリテーション 医学書院
成績・評価の方法	期末筆記試験100%（課題レポート）
その他（履修上の留意点）	シラバスで授業内容確認を行い、予習して授業に参加して下さい。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法評価学（精神障害）		
担当教員	春原 るみ、栗林 美智子		
配当年次	2年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

精神障害および心理・社会的要因により作業遂行上の問題を抱えている対象者に対して、援助のための理解に必要な評価の視点、面接・観察・検査・調査の各手法を適切かつ統合的に活用するための知識、態度、技術を学習することを目標とする。また、自分自身についての背景情報の整理といくつかの評価結果を合わせて自己分析を行い、自己の治療的応用の視点を学ぶ。講義と合わせ、精神障害作業療法評価学演習における実技実習につなげる。

学習目標（行動目標）

1. 精神障害作業療法における評価の基本的な流れと評価の視点を理解する
2. 各評価法を理解し、学生同士で適切に実施することができる
3. 2について、学生パートナーの結果と自己の結果を分析し、それを系統的に記述することができる
4. 援助者としての自己の特徴について、関心・気づきを持つことができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション・評価とは	春原・栗林
2		評価の概要	〃
3		情報収集と面接、質問紙をもちいた面接	〃
4		観察、学内実習とレポート作成について	〃
5		インタビュー面接、質問紙	〃
6		TEG, POMS, 各種質問紙	〃
7		研究発表①	〃
8		作業面接とは・作業面接の視点（箱づくり法を利用して）	〃
9		箱づくり法	〃
10		箱づくり法のまとめ方	〃
11		箱づくり法の読み方	〃
12		研究発表②	〃
13		職業適性検査、VPI職業興味検査	〃
14		研究発表③	〃
15		投影法（バウムテスト）	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト：山根 寛：精神障害と作業療法，第3版，三輪書店 富岡詔子：作業面接としての箱づくり法 参考書：香山明美他編 作業療法の面接技術，三輪書店 岩崎テル子他編：標準作業療法学 作業療法評価学 医学書院 新版-TEG手引書，解説とエコグラムパターン POMS手引書、内田クレペリン解説書 VPI職業検査手引書、労働省一般職業適性検査手引き C. コッホ：バウムテスト-樹木画による人格診断法一，日本文化科学社 高橋雅春他：樹木画テスト，北大路書房 K. ボーランダー：樹木画によるパーソナリティの理解，ナカニシヤ出版</p>
成績・評価の方法	<p>期末試験：80% 私についてのレポート：10% 演習・研究発表への参加度：10% *各評価法のケースノートについて、不備の連続や提出遅れがあった場合減点する</p>
その他（履修上の留意点）	<ul style="list-style-type: none"> ・学生パートナーを対象者として評価を体験するが、評価ごっこではないので真剣に臨むこと ・日常生活の自己管理に配慮し、パートナー（クライアント）に迷惑をかけないように努めること

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法評価学演習（精神障害）		
担当教員	春原 るみ、栗林 美智子		
配当年次	2年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習

授業科目の概要（一般目標）

学内での基礎実習であり、学生2人がペアになって検査者と被検査者の双方を体験し、検査者は被検査者の評価結果をまとめて発表する。作業療法で用いる面接・観察・検査の各基礎技法をパートナーとの二者関係で実施し、臨床家に不可欠な「参加観察」とコミュニケーションの基礎技法を意図的に利用すること、各種評価法の実施結果から得られた情報を系統的に記述し、その要約を口頭で発表することを通して、情報収集—分析—統合に必要な思考力と問題解決能力を高めることを目標とする。また、事例を通して、評価実習を見据えた評価計画をグループで立案し発表し討議することで、評価のプロセスと視点を具体的に学ぶ。

学習目標（行動目標）

1. 各種評価法を理解し、演習パートナーに対し適切に実施することができる
2. 評価の実施結果から得られた情報を系統的に記述し、その要約を口頭で責任もって発表することができる
3. 演習を通して、援助者として必要な態度をとることができるようになる
4. 事例に対して、各種評価法を利用した評価計画を立案できる
5. 自分の特徴を理解し、援助者として自分自身を活かしていくための見通しを持つことができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		研究発表④	春原・栗林
2		集団について	〃
3		評価実習（集団）	〃
4		評価プログラム立案（演習）	〃
5		評価プログラム立案（演習）	〃
6		評価プログラム立案（演習）	〃
7		評価のまとめ	〃
8		評価のまとめ	〃
9		評価結果レポート発表及びグループ討議	〃
10		評価結果レポート発表及びグループ討議	〃
11		評価結果レポート発表及びグループ討議	〃
12		評価結果レポート発表及びグループ討議	〃
13		評価結果レポート発表及びグループ討議	〃
14		評価結果レポート発表及びグループ討議	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：山根 寛：精神障害と作業療法—治る・治すから生きるへ—，第3版，三輪書店 参考書：山根寛他：ひとと集団・場—集まることの利用—，第2版，三輪書店 山根寛：ひとと作業・作業活動，三輪書店 吉田道雄：人間理解のグループダイナミクス，ナカニシヤ出版
成績・評価の方法	総合レポート（最終レポートがどれだけ改善されたかも含む）：70% グループワークへの貢献度：10% レポート発表の内容：10% レポート発表会・グループ討議への貢献度：10% *総合レポートのデータ不備，提出遅れは減点します
その他（履修上の留意点）	発表会も含め，グループワークに各人がどれだけ真剣に参加するかで，全体の学習成果に大きな差が出ることに留意すること

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法評価学（発達障害）		
担当教員	福田 恵美子、松下 雅子		
配当年次	2年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要（一般目標）			
<p>発達障害を持つ人たちとそれを取り巻く環境について知り、対象児者の理解に必要な評価の意味とその目的を理解することを目標とする。その中で、対象児者を実施する評価項目と実施方法の基礎を学び、評価計画の立案方法を習得する。後半ではグループで一つのおもちゃを作成し、遊び（おもちゃ）の持つ特徴と治療的な意味・効果について体験を通して学習し、クラス内で発表・ディスカッションを行う。</p> <p><オムニバス方式／全15回></p> <p>（福田恵美子／3回）発達障害領域の作業療法の歴史、評価の意義や目的について</p> <p>（松下雅子／12回）発達障害領域で担当することの多い主要な疾患の理解について、評価項目について、おもちゃの作成について</p>			

学習目標（行動目標）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「発達障害」とは何か概略を理解し、発達障害に相当する主要な疾患の特性を説明できる。 2. 評価の目的と留意点を理解し、必要な評価項目を列挙できる。 3. 遊びの特性を考慮したおもちゃをグループで作成し、発表できる。 4. グループで協力しながら作業を進め、ディスカッションを通して思考を深められる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		授業オリエンテーション	松下雅子
2		発達障害児者の理解	福田恵美子
3		発達障害とは	〃
4		発達障害とは	松下雅子
5		評価の流れと目的	福田恵美子
6		評価項目について（基本的能力）	松下雅子
7		評価項目について（応用的能力）	〃
8		評価項目について（社会的能力）	〃
9		評価項目について（環境資源、作業に関する個人特性）	〃
10		遊びの評価と活動分析、おもちゃ作成	〃
11		遊びの評価と活動分析、おもちゃ作成	〃
12		遊びの評価と活動分析、おもちゃ作成	〃
13		遊びの評価と活動分析、おもちゃ作成	〃
14		遊びの評価と活動分析、おもちゃ作成	〃
15		おもちゃ作り発表	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト：福田恵美子編集：標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版，医学書院</p> <p>岩崎テル子他：標準作業療法学 作業療法評価学 第2版，医学書院</p> <p>岩崎清隆：発達障害と作業療法（基礎編），三輪書店</p> <p>岩崎清隆，岸本光夫：発達障害と作業療法（実践編），三輪書店</p> <p>参考書：梶浦一郎，鈴木恒彦訳：脳性まひ児の家庭療育 第2版，医歯薬出版</p> <p>一般社団法人日本作業療法士協会：作業療法ガイドライン2012</p>
成績・評価の方法	<p>期末試験70%</p> <p>課題レポート及び発表20%</p> <p>授業及びグループワークへの参加度：10%</p>
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法評価学演習（発達障害）		
担当教員	福田 恵美子、松下 雅子		
配当年次	2年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>前期に学んだ評価項目について、演習を行うことで具体的に習得し、対象児者に合わせた評価計画から評価の実施、全体像の把握まで行えるようになることを目標とする。姿勢・運動の観察と分析、認知・精神機能面の評価などの演習をグループで取り組み、項目により発表形式で遂行状況の確認を行う。評価の実施方法と分析のポイントを習得して、作業療法的な視点から対象児者の持つ生活上の困難さを把握できるようにする。</p> <p><オムニバス方式／全15回> （福田恵美子／3回）具体的な評価手技の習得に関して、評価結果のまとめ方について （松下雅子／12回）具体的な評価手技の習得について</p>			

学習目標（行動目標）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害を持つ対象児者に対して行うことの多い評価について、内容を理解し説明できる。 2. 対象児者の状態に合わせた評価選択が行える。 3. 発達障害を持つ対象児者の全体像を把握するための評価計画を立案できる。 4. 各々の評価方法を安全に配慮して実施できる。 5. 評価結果から対象児者の全体像を把握し、説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		授業オリエンテーション	松下雅子
2		運動機能障害の評価	〃
3		運動機能障害の評価	〃
4		運動機能障害の評価	〃
5		運動機能障害の評価	〃
6		日常生活活動の評価	福田恵美子
7		認知・社会性機能の評価	松下雅子
8		認知・社会性機能の評価	〃
9		認知・社会性機能の評価	〃
10		感覚統合の評価	福田恵美子
11		評価計画の立案について	松下雅子
12		評価計画の立案について	〃
13		評価計画の立案について	〃
14		評価計画の立案について	〃
15		評価結果のまとめ方、課題の抽出について	福田恵美子

テキスト・参考図書	テキスト：福田恵美子編集：標準作業療法学 発達過程作業療法学第2版，医学書院 岩崎テル子他：標準作業療法学 作業療法評価学 第2版，医学書院 岩崎清隆：発達障害と作業療法（基礎編），三輪書店 岩崎清隆，岸本光夫：発達障害と作業療法（実践編），三輪書店 参考書：辛島千恵子：発達障害を持つ子どもと成人，家族のためのADL，三輪書店
成績・評価の方法	期末試験：70% 実技試験：10% 課題レポート10% 授業及びグループワークへの参加度：10%
その他（履修上の留意点）	実習を行う時は、動きやすい服装（ジャージ等）で出席すること

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法評価学（高齢期障害）		
担当教員	新井 健五		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要（一般目標）			
<p>日本や世界の高齢者、それを取りまく高齢社会について学ぶ。高齢者に対する作業療法を行うにあたって必要となる評価の計画・実施するための知識を習得する。高齢者の作業遂行にかかわる高齢者自身、作業、環境についての要素を評価する知識を学ぶ。作業療法プロセスのモデルについて背景となる理論を学び、作業の問題の決定に必要なCOPMの技術を習得し、プロセスモデルを演習する。</p>			

学習目標（行動目標）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢社会と高齢者を支える法制度について説明できる。 2. 高齢期・高齢者の特徴と注意すべき症候について説明できる。 3. 高齢期における作業療法評価の考え方や背景理論について理解できる。 4. 高齢期作業療法における評価プロセスを理解し、各種評価スケールを使えるようになる。 5. 評価結果について解釈でき、課題の焦点化ができるようになる。 6. ケアプラン・アセスメントについて理解し、チームアセスメントに参加できるようになる。

回	講義および実習の内容	担当
1	高齢期作業療法の理念と役割	新井健五
2	高齢社会と高齢者を支える法制度	〃
3	高齢期・高齢者の特徴①	〃
4	高齢期・高齢者の特徴②	〃
5	高齢期に注意すべき症候①	〃
6	高齢期に注意すべき症候②	〃
7	高齢期における作業療法評価の考え方・背景となる理論モデル①	〃
8	高齢期における作業療法評価の考え方・背景となる理論モデル②	〃
9	高齢期作業療法における評価プロセスと評価すべき項目・各種評価スケール①	〃
10	高齢期作業療法における評価プロセスと評価すべき項目・各種評価スケール②	〃
11	事例を通しての評価プロセスと考え方の理解①	〃
12	事例を通しての評価プロセスと考え方の理解②	〃
13	ケアアセスメント・ケアプランの考え方と方法（各種方式）	〃
14	事例を通してのケアプラン・ケアアセスメントプロセスの理解と作業療法評価との関わり	〃
15	まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：松房利憲他 「高齢期作業療法学 第2版」 医学書院 参考書：松房利憲他 「作業療法評価学 第2版」 医学書院 村田和香他 「作業治療学4 老年期 改訂第3版」 協同医書
成績・評価の方法	期末試験70%、レポート（提出物）30%
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法評価学（高次脳機能障害）		
担当教員	勝山 しおり		
配当年次	2年次	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

高次脳機能障害を有する対象者の作業遂行に関わる評価について学習する。高次脳機能の定義や、障害、それを生じさせる疾患等を学び、作業遂行を評価するために必要な情報収集や観察、検査、それらの統合と解釈について学ぶ。また、各神経心理学的検査の結果から得られた情報を分析・解釈し、どのように作業療法につなげていくかを学ぶ。神経心理学的検査を実際に演習し理解を深める。

学習目標（行動目標）

1. 高次脳機能障害の概念や障害像を説明できる。
2. 高次脳機能障害のそれぞれの評価項目を列挙できる。
3. 各検査の方法を理解し、手順を説明できる。
4. 各検査結果の表す意味を、作業遂行と関連付けて説明できる。

回	講義および実習の内容	担当
1	総論 高次脳機能障害の概要	勝山しおり
2	機能解剖と画像所見 脳の機能解剖と画像所見の見方	〃
3	失語 症状と評価方法	〃
4	失行 症状と評価方法	〃
5	失認 症状と評価方法	〃
6	半側空間無視 症状と評価方法	〃
7	記憶障害 症状と評価方法	〃
8	注意障害 症状と評価方法	〃
9	遂行機能障害 症状と評価方法	〃
10	認知症 症状と評価方法	〃
11	情報の分析と解釈 グループワーク	〃
12	情報の分析と解釈 グループワーク	〃
13	情報の分析と解釈 グループワーク	〃
14	情報の分析と解釈 グループワーク	〃
15	まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：能登真一編；高次脳機能作業療法学；医学書院 参考書：その都度紹介する
成績・評価の方法	期末試験60% レポート40%
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法評価学（日常生活活動）		
担当教員	宮脇 利幸、清水 万紀子		
配当年次	2年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

日常生活活動の意義やその評価方法について学び、評価の目的、判定、記録方法についての知識を得る。また、日常生活活動の分析を行い、心身機能・身体構造や環境との関連性について理解を深め、活動に与える影響を学ぶ。さらに、対象者の動作や活動の特性を理解するために、演習を行う。また、自助具や福祉用具の種類や適応となる疾患、導入時の注意点などについて理解を深めることができる。

学習目標（行動目標）

- ・日常生活活動の概念を理解し、説明できる
- ・日常生活活動の評価方法を習得する
- ・日常生活活動への援助方法を習得する

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		日常生活活動の概念と範囲	宮脇利幸
2		日常生活活動とICFとの関連	〃
3		ADLへの作業療法の役割	〃
4		基本的ADL：起居・移動・食事（摂食・嚥下含む）・入浴・更衣・排泄動作	〃
5		〃	〃
6		〃	〃
7		生活関連活動（I-ADL, コミュニケーションADL, 余暇活動）	〃
8		〃	〃
9		グループワーク（起居・移動動作, ADL）	宮脇・清水
10		〃	〃
11		〃	〃
12		〃	〃
13		〃	〃
14		ADL評価の実際	清水万紀子
15		〃	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト： 田川義勝、濱口豊太編；標準作業療法学 社会生活行為学. 医学書院</p> <p>参考書： 長崎重信監修；作業療法学 コールト・マスターテキスト 日常生活活動(ADL)・福祉用具学. ミジカレビュー社 伊藤利之・鎌倉矩子編；ADLとその周辺 第2版. 医学書院 伊藤利之・江藤文夫編；新版 日常生活活動(ADL)-評価と支援の実際-. 医歯薬出版 障害者福祉研究会編；ICF 国際生活機能分類. 中央法規出版</p>
成績・評価の方法	筆記試験(70%), 課題レポート(30%)
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法評価学演習（総合）		
担当教員	宮脇 利幸、小市 健二、清水 万紀子、春原 るみ、栗林 美智子、松下 雅子		
配当年次	2年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>小グループを単位（5～6人）として、評価学で学んだ知識を具体的に応用するために演習を行う。具体的には実際に模擬患者に対し、対象者とのセラピストとしての接し方を学び、疾患特性をもとに評価計画の策定方法を学ぶ。またそれに基づいて検査・測定を実際に行い、診断的思考過程を学ぶとともにICFに基づく障害の整理を行うことで全体像を作ることができるようにする。2年後期最後の評価実習までに評価全体の流れがイメージできるようにする。</p>			

学習目標（行動目標）
<ul style="list-style-type: none"> ・提示される疾患の特性を理解できる。 ・疾患特性に基づいた評価計画が作成できる。 ・学んだ評価を、対象者に適切に行うことができる。 ・行った結果をSOAPで記述できる。 ・ICFに基づき全体像を把握し、課題の焦点化ができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		月曜日1限、火曜日1限、木曜日3限	
2		以上のコマで、6グループに分かれ、2クールの演習を行う。	
3		詳細な日程は担当教員より指示がある。	
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	テキスト：特に指定しない 参考書：特に指定しない
成績・評価の方法	演習およびグループワークへの取り組み50%、レポート50%
その他（履修上の留意点）	事前学習および演習の模擬練習を事前に行うこと。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学 I (身体障害)		
担当教員	松房 利憲、清水 万紀子		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>関節可動域の拡大, 筋力と持久力, 筋緊張異常, 協調性障害などの機能的障害の原因を知り, それぞれの身体障害に対する作業療法を実施するために必要な基本的な考え方や基礎的な治療法について学ぶ。講義を中心に進めるが, 治療法を展開する上で役立つよう, 具体的な事例を提示し, 障害像と治療イメージを繋げる。またリスク管理を行いながら個々の障害に応じた治療法が展開できることを目標とする。</p> <p><オムニバス方式/全15回></p> <p>(松房利憲/7回) 身体障害作業療法の基礎, 筋力と筋持久力の維持・増強, 筋緊張異常とその治療, 協調性障害とその治療</p> <p>(清水万紀子/8回) ボディメカニクス, 関節可動域の拡大, 不随意運動とその治療, 知覚再教育, 廃用症候群</p>			

学習目標(行動目標)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 機能的身体障害を治療するための基本概念と基礎技術を説明することができる。 2. 初歩的手技を被検者に対して実施することができる。 3. 基礎的な治療法を習得し、治療方法を選択することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		身体機能作業療法学の基礎	松房利憲
2		対象者とセラピストのためのボディーメカニクス	清水万紀子
3		関節可動域の拡大	〃
4		〃	〃
5		筋力と筋持久力の維持・増強	松房利憲
6		〃	〃
7		筋緊張異常とその治療	松房利憲
8		〃	〃
9		不随意運動とその治療	清水万紀子
10		〃	〃
11		協調性障害とその治療	松房利憲
12		〃	〃
13		知覚再教育	清水万紀子
14		廃用症候群とその対応	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：岩崎テル子 編集：標準作業療法学 身体機能作業療法学 第2版 医学書院 参考書：石川 齋他 編集：図解 作業療法技術ガイド 第3版 , 聖マリアンナ医科大学病院リハ部作業療法科：OT臨床ハンドブック, 三輪書店 福井啓彦他 編集：脳卒中最前線 第4版, 医歯薬出版 医療情報科学研究所 編集：病気がみえる vol.7脳・神経, メディックメディア
成績・評価の方法	期末筆記試験90%, 小テスト10%
その他(履修上の留意点)	2回目の授業からは小テストを実施するので、前回の授業内容を復習しておくこと

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学Ⅰ 演習（身体障害）		
担当教員	松房 利憲、清水 万紀子		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>作業療法治療学Ⅰ（身体障害）を基に、治療法の実技演習を中心に進める。身体障害に対する作業療法の治療を実施するために、対象者やセラピスト自身の体の動かし方についてデモンストレーションを行う。その後、学生同士がクライアント役とセラピスト役になり、基本的治療技術の習得を図る。また、時にはグループ活動により、障害レベルに応じた治療法を考えて発表し合う中で、治療法の実践的活用についての技能・考察を深めることができる。</p> <p><オムニバス方式／全15回> （松房利憲／7回）身体障害作業療法の基礎、筋力と筋持久力の維持・増強、筋緊張異常とその治療、協調性障害とその治療 （清水万紀子／8回）ボディメカニクス、関節可動域の拡大、不随意運動とその治療、知覚再教育、廃用症候群</p>			

学習目標（行動目標）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 機能的身体障害を治療するための基本概念を理解し、基礎技術を実施することができる。 2. 初歩的手技を被検者に対して実施できる。 3. 基礎的治療法を習得し、治療方法を選択・実施できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		身体機能作業療法学の基礎	松房利憲
2		対象者とセラピストのためのボディメカニクス	清水万紀子
3		関節可動域の拡大	〃
4		〃	〃
5		筋力と筋持久力の維持・増強	松房利憲
6		〃	〃
7		筋緊張異常とその治療	松房利憲
8		〃	〃
9		不随意運動とその治療	清水万紀子
10		〃	〃
11		協調性障害とその治療	松房利憲
12		〃	〃
13		知覚再教育	清水万紀子
14		廃用症候群とその対応	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：岩崎テル子 編集：標準作業療法学 身体機能作業療法学 第2版 医学書院 参考書：石川 齋他 編集：図解 作業療法技術ガイド 第3版、 聖マリアンナ医科大学病院リハ部作業療法科：OT臨床ハンドブック、三輪書店 福井園彦他 編集：脳卒中最前線 第4版、医歯薬出版 医療情報科学研究所 編集：病気がみえるvol.7脳・神経、メディックメディア
成績・評価の方法	期末筆記試験100%
その他（履修上の留意点）	実技を行うことが多いので、運動着を着用すること

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学Ⅱ（身体障害）		
担当教員	松房 利憲、清水 万紀子		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要（一般目標）			
<p>身体障害作業療法分野における対象疾患ごとに特徴的な目標設定および治療の選択について学び、臨床に応用するための基本的理論を理解する。対象疾患による症状・障害が活動・参加に与える影響や環境がもたらす変化についても捉え、包括的な視点から作業療法治療学Ⅰ（身体障害）で学んだ知識や新たな知見から対象者の心理・社会的背景を反映した治療の組み立てを学ぶことができる。</p> <p><オムニバス方式／全15回></p> <p>（松房利憲／6回）関節リウマチ，熱傷，切断，骨・関節疾患，呼吸器疾患・吸引</p> <p>（清水万紀子／9回）脳血管障害と脳外傷，末梢神経損傷，ターミナルケア，頸髄損傷，神経変性疾患，神経・筋疾患</p>			

学 習 目 標（行 動 目 標）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体障害の主要な疾患の特性を説明できる. 2. 各疾患について評価や治療の支援内容を説明できる. 3. 各疾患に対して治療方針を説明できる.

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		脳血管障害と脳外傷	清水 万紀子
2		〃	〃
3		〃	〃
4		抹消神経損傷	〃
5		ターミナルケアと作業療法	〃
6		頸髄損傷・神経変性疾患・神経・筋疾患	〃
7		〃	〃
8		〃	〃
9		〃	〃
10		関節リウマチ	松房 利憲
11		熱傷	〃
12		切断	〃
13		骨・関節疾患	〃
14		呼吸器疾患，吸引	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト：岩崎テル子編集：標準作業療法学 身体機能作業療法学 医学書院</p> <p>参考書：石川 齋他 編集：図解 作業療法技術ガイド 第2版，文光堂</p> <p>医療情報科学研究所 編集：病気がみえるvol.7脳・神経，メディックメディア</p> <p>中田真由美：作業療法士のためのハンドセラピー入門，三輪書店</p> <p>八木範彦 西林保朗 編集：リハ実践テクニック 関節リウマチ，(株)メジカルビュー社</p> <p>石川 朗 編集：作業療法士のための呼吸ケアとリハビリテーション，(株)中山書店</p>
成績・評価の方法	期末筆記試験100%
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学Ⅱ 演習（身体障害）		
担当教員	松房 利憲、清水 万紀子		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>作業療法治療学Ⅱ（身体障害）で学んだ知識について実践的活用を演習を通して学び、治療技術を身につける。学生同士で演習を行い、手技の目的や理論を確認しながら基本的治療手技を身につける。また、演習を通して対象疾患に対するリスク管理について学び、臨床で応用できる技術を身につけることを目標とする。</p> <p><オムニバス方式／全15回> （松房利憲／6回）関節リウマチ、熱傷、切断、骨・関節疾患、呼吸器疾患・吸引 （清水万紀子／9回）脳血管障害と脳外傷、末梢神経損傷、ターミナルケア、頸髄損傷、神経変性疾患、神経・筋疾患</p>			

学習目標（行動目標）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体障害の各疾患の治療特性を説明できる。 2. 各疾患に対して基本的治療の治療技術内容を説明できる。 3. 各疾患に対して基本的治療技術を説明、実施できる。 4. 各疾患の治療技術に対してリスク管理ができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		脳血管障害と脳外傷	清水 万紀子
2		〃	〃
3		〃	〃
4		抹消神経損傷	〃
5		ターミナルケアと作業療法	〃
6		頸髄損傷・神経変性疾患・神経・筋疾患	〃
7		〃	〃
8		〃	〃
9		〃	〃
10		関節リウマチ	松房 利憲
11		熱傷	〃
12		切断	〃
13		骨・関節疾患	〃
14		呼吸器疾患, 吸引	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト：岩崎テル子編集：標準作業療法学 身体機能作業療法学 医学書院 参考書：石川 齋他 編集：図解 作業療法技術ガイド 第2版, 文光堂 医療情報科学研究所 編集：病気がみえる vol.7脳・神経, メディックメディア 中田真由美：作業療法士のためのハンドセラピー入門, 三輪書店 八木範彦 西林保朗 編集：リハ実践テクニック 関節リウマチ, ㈱メジカルビュー社 石川 朗 編集：作業療法士のための呼吸ケアとリハビリテーション, ㈱中山書店</p>
成績・評価の方法	期末筆記試験100%（課題レポート）
その他（履修上の留意点）	実技を実施する場合がありますので、運動着を用意しておくこと。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学 I (精神障害)		
担当教員	春原 るみ、栗林 美智子、小林 正義		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

精神保健医療福祉の歴史と現状を学び、精神医療の目指す方向性と精神障害リハビリテーションの基本的視点を理解する。精神障害作業療法に関連する理論・モデル、及びその基本的実践論について学び、障害・健康概念の変遷と心身の健康に貢献する作業療法の基本的役割と対象者に応じて理論やモデルを応用(折衷)していくという考え方のバリエーションを身に付ける。
 <オムニバス方式/全15回>
 (春原るみ/4回) 作業療法理論 (Fidler, Mosey), 作業行動理論 (Reilly), 人間作業モデル (Kielhofner)
 (栗林美智子/9回) 精神保健福祉の歴史と現状, 精神科作業療法関連療法・モデル, 作業療法実践の構造とプロセス, 回復状態に応じた生活支援, 統合失調症の作業療法
 (小林正義/2回) 認知行動療法

学習目標(行動目標)

1. 精神医療の歴史と現状についての知識を習得し、作業療法の意義について説明することができる
2. 精神障害作業療法に関連する理論やモデルについての知識を習得し、それを説明することができる
3. 精神障害作業療法の治療構造とその実践プロセスについて説明することができる
4. 精神疾患の回復過程と回復過程に応じた援助について説明することができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		精神医療の歴史と作業療法, 精神障害の特性	栗林美智子
2		精神保健医療福祉の動向と作業療法士の役割	〃
3		作業療法の基本的な視点と方法	〃
4		精神科作業療法の理論・関連モデル・技法 : 精神力動論, 集団力動論	〃
5		①作業療法理論 (Fidler), ②作業療法理論 (Mosey)	春原るみ
6		③作業行動理論 (Reilly), ④人間作業モデル (Kielhofner)	〃
7		⑤精神療法 ⑥集団精神療法 ⑦交流分析	栗林美智子
8		⑧治療構造論 ⑨認知行動療法 ⑩SST	〃
9		⑪心理教育 ⑫森田療法 ⑬芸術療法	〃
10		作業療法の構造と実施形態, 作業面接の技術, 作業療法実践のプロセス	〃
11		回復状態に応じた作業療法・生活支援, 統合失調症の作業療法とリハビリテーション	小林正義
12		急性期・早期作業療法の実践	〃
13		事例検討 (評価・治療計画の立案)	栗林美智子
14		事例検討 (評価・治療計画の立案)	〃
15		事例検討 (評価・治療計画の立案)	〃

テキスト・参考図書	テキスト：富岡詔子他編：作業治療学2 精神障害, 協同医書出版社 香山明美他編：生活を支援する精神障害作業療法, 医歯薬出版 伊藤順一郎監修：統合失調症—正しい理解と治療法, 講談社 参考書：香山明美他：作業療法の面接技術, 三輪書店 澤 俊二, 他・編：作業療法評価のエッセンス, 医歯薬出版 岩崎テル子監訳：作業療法実践のための6つの理論, 協同医書出版社 広沢正孝：統合失調症を理解する, 医学書院
成績・評価の方法	期末試験：80% 課題レポート及び発表：10% グループワークへの貢献度：10%
その他 (履修上の留意点)	範囲が広いので、授業後にテキストの関連ページを復習し知識を定着させること

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学Ⅰ演習（精神障害）		
担当教員	栗林 美智子、小林 正義		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>精神障害作業療法に関連する基本的な理論・モデルについて小グループでテーマ別に担当し、クラス全員に発表を行う。演習と講義を通して、各種理論やモデルについて理解し、その背景、基本仮説、評価の領域と方法、プログラムの指針、具体的な臨床での実践について説明できることを目標とし、個別的な事例に応用できる能力とその根拠を他者に説明できる能力を養う。</p> <p><オムニバス方式／全15回></p> <p>精神保健福祉の歴史と現状、精神科作業療法関連療法・モデル、作業療法実践の構造とプロセス、回復状態に応じた生活支援、統合失調症の作業療法、事例演習 （栗林美智子／13回） （小林正義／2回）急性期・早期作業療法の実践</p>			

学習目標（行動目標）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患、特に統合失調症について治療プログラムの指針と具体的な実践について説明することができる 2. 個別的な事例に精神障害作業療法に関連する理論やモデルを応用し、プログラムを立案することができる 3. プログラム立案の根拠について、説明することができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		精神医療の歴史と作業療法、精神障害の特性	栗林美智子
2		精神保健医療福祉の動向と作業療法士の役割	〃
3		作業療法の基本的な視点と方法	〃
4		精神科作業療法の理論・関連モデル・技法：精神力動論、集団力動論	〃
5		①作業療法理論（Fidler）、②作業療法理論（Mosey）	春原るみ
6		③作業行動理論（Reilly）、④人間作業モデル（Kielhofner）	〃
7		⑤精神療法 ⑥集団精神療法 ⑦交流分析	栗林美智子
8		⑧治療構造論 ⑨認知行動療法 ⑩SST	〃
9		⑪心理教育 ⑫森田療法 ⑬芸術療法	〃
10		作業療法の構造と実施形態、作業面接の技術、作業療法実践のプロセス	〃
11		回復状態に応じた作業療法・生活支援、統合失調症の作業療法とリハビリテーション	小林正義
12		急性期・早期作業療法の実践	〃
13		事例検討（評価・治療計画の立案）	栗林美智子
14		事例検討（評価・治療計画の立案）	〃
15		事例検討（評価・治療計画の立案）	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト：富岡詔子他編：作業治療学Ⅱ 精神障害、協同医書出版社 香山明美他編：生活を支援する精神障害作業療法、医歯薬出版 伊藤順一郎監修：統合失調症—正しい理解と治療法、講談社</p> <p>参考書：香山明美他：作業療法の面接技術、三輪書店 澤 俊二、他・編：作業療法評価のエッセンス、医歯薬出版 岩崎テル子監訳：作業療法実践のための6つの理論、協同医書出版社 広沢正孝：統合失調症を理解する、医学書院</p>
成績・評価の方法	<p>期末試験：80％ 課題レポート及び発表：10％ グループワークへの貢献度：10％</p>
その他（履修上の留意点）	範囲が広いので、授業後にテキストの関連ページを復習し知識を定着させること

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学Ⅱ（精神障害）		
担当教員	春原 るみ、栗林 美智子、小林 正義		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
<p>精神障害作業療法の主対象となる精神疾患の特徴について理解し、障害構造論と回復段階に応じたリハビリテーションの立場から、各種精神疾患の障害特性に応じた作業療法の基本的な治療理論について学習する。また、精神障害とそれに伴う生活障害の特性と、それらに対する援助の基本、具体的な作業療法アプローチについて学習する。</p> <p><オムニバス方式／全15回></p> <p>（春原るみ／2回）てんかん・老年期精神障害の作業療法 （栗林美智子／11回）気分障害・神経症性障害・依存性障害の作業療法、地域移行支援、地域生活支援、司法精神医療における作業療法、心理教育、SST、認知リハ、就労支援、ACT、当事者活動 （小林正義／2回）摂食障害の作業療法</p>			

学 習 目 標（行 動 目 標）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各疾患の特徴や障害の特性、作業療法実施上の留意点について説明することができる 2. 精神障害作業療法に関連する治療モデルや技法について説明することができる 3. 精神障害がある人たちに対する地域生活の具体的な支援について説明することができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		摂食障害の作業療法	栗林美智子
2		気分障害の作業療法とリハビリテーション	小林正義
3		パーソナリティ障害の作業療法	栗林美智子
4		神経症性障害の作業療法	〃
5		アルコール・依存性障害の作業療法、発達障害の作業療法	〃
6		てんかんの作業療法、老年期精神障害の作業療法	春原るみ
7		地域移行支援・多職種連携退院促進プログラム	栗林美智子
8		地域生活支援（ケアマネジメント・再発防止プログラム）	〃
9		地域生活支援（外来作業療法・精神科デイケア・就労準備支援）	〃
10		司法精神医療における作業療法、心理教育	〃
11		SSTの理論と実践、認知行動療法と作業療法、認知リハ	小林正義
12		就労支援（IPSモデル・リカバリーモデル）	栗林美智子
13		包括型地域生活支援（ACT）、当事者活動（べてるの家）	〃
14		作業療法の実践マネジメント	〃
15		事例研究	〃

テキスト・参考図書	テキスト：富岡詔子、小林正義・編：作業療法学全書改訂第3版第5巻精神障害（協同医書出版）、2010 香山明美、小林正義、鶴見隆彦・編：生活を支援する精神障害作業療法-急性期から地域実践まで（医歯薬出版） 参考書：香山明美他：作業療法の面接技術 ストーリーの共有を目指して（三輪書店） 澤 俊二、他・編：作業療法ケースブック-作業療法評価のエッセンス（医歯薬出版） 中井久夫：精神科治療の覚え書き（日本評論社）
成績・評価の方法	期末試験及び小テスト：90% 授業への参加態度・課題への取り組み状況：10%
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学Ⅱ演習（精神障害）		
担当教員	栗林 美智子、小林 正義		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習

授業科目の概要（一般目標）

臨床事例をベースとしたシナリオに基づいた小グループによる演習を通して、精神障害作業療法の主対象となる精神疾患の特徴について理解し、それに起因する生活障害の特徴と具体的な作業療法アプローチについて学習する。さらに、関連理論や作業活動を軸とする作業療法の視点をいかに治療・援助に活かすのか詳細に検討する。また、医療施設以外の作業療法、近接領域の実践を理解し、対象者が安心して暮らせる社会的システムの構築、他職種との十分なパートナーシップの必要性を理解することを目標とする。

<オムニバス方式/全15回>
 (栗林美智子/13回) 気分障害・神経症性障害・依存性障害の作業療法、地域移行支援、地域生活支援、司法精神医療における作業療法、心理教育、SST、認知リハ、就労支援、ACT、当事者活動、作業療法の実践マネジメント
 (小林正義/2回) パーソナリティ障害の作業療法

学習目標（行動目標）

1. 具体的な事例について、各疾患の特徴、障害の特性に応じて治療理論を応用し、治療プログラムを考えることができる
2. 各疾患と治療理論・モデル・技法、実際の生活支援がどのように関連しているのかを理解し、説明することができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		摂食障害の作業療法	栗林美智子
2		気分障害の作業療法とリハビリテーション	小林正義
3		パーソナリティ障害の作業療法	栗林美智子
4		神経症性障害の作業療法	〃
5		アルコール・依存性障害の作業療法、発達障害の作業療法	〃
6		てんかんの作業療法、老年期精神障害の作業療法	春原るみ
7		地域移行支援・多職種連携退院促進プログラム	栗林美智子
8		地域生活支援（ケアマネジメント・再発防止プログラム）	〃
9		地域生活支援（外来作業療法・精神科デイケア・就労準備支援）	〃
10		司法精神医療における作業療法、心理教育	〃
11		SSTの理論と実践、認知行動療法と作業療法、認知リハ	小林正義
12		就労支援（IPSモデル・リカバリーモデル）	栗林美智子
13		包括型地域生活支援（ACT）、当事者活動（べてるの家）	〃
14		作業療法の実践マネジメント	〃
15		事例研究	〃

テキスト・参考図書	テキスト：富岡詔子、小林正義・編：作業療法学全書改訂第3版第5巻精神障害（協同医書出版）、2010 香山明美、小林正義、鶴見隆彦・編：生活を支援する精神障害作業療法-急性期から地域実践まで（医歯薬出版） 参考書：香山明美他：作業療法の面接技術 ストーリーの共有を目指して（三輪書店） 澤 俊二、他・編：作業療法ケースブック-作業療法評価のエッセンス（医歯薬出版） 中井久夫：精神科治療の覚え書き（日本評論社）
成績・評価の方法	期末試験及び小テスト：90% 授業への参加態度・課題への取り組み状況：10%
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学 I (発達障害)		
担当教員	福田 恵美子、松下 雅子		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>発達障害作業療法で対象となる主たる疾患(脳性麻痺及び重症心身障害、ダウン症候群及び知的障害、筋ジストロフィー症など)について、疾患特性を学ぶとともに、それらの疾患を持つ児者の基本的なとらえ方や、治療的アプローチについて学習する。また、ライフステージに応じた目標の立て方、治療の方向性、基本となる治療理論について学習し、対象児者の生活に即した評価～治療を考えられるようになることを目標とする。</p> <p><オムニバス方式/全15回> (福田恵美子/7回) 評価～治療への進め方、基本的な治療理論、疾患別治療理論 (松下雅子/8回) 模擬症例を通じた課題の整理～治療計画、ポジショニングについて</p>			

学習目標(行動目標)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害作業療法の歴史と変遷について理解し、説明することができる。 2. 発達障害作業療法の評価～治療に至る流れを説明できる。 3. 主たる対象疾患の臨床像を理解し、作業療法の支援内容を説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		発達障害作業療法の形成と変遷	福田恵美子
2		発達障害作業療法の実践現場	//
3		症例を通じた理解	松下雅子
4		症例を通じた理解	//
5		脳性麻痺に対する作業療法	福田恵美子
6		知的障害に対する作業療法	//
7		治療計画の立案	松下雅子
8		治療計画の立案	//
9		治療計画の立案	//
10		神経筋疾患に対する作業療法	福田恵美子
11		骨関節疾患に対する作業療法	//
12		LD, ADHDに対する作業療法	//
13		その他の臨床で出会う疾患について	松下雅子
14		Positioningの基本と実践	//
15		Positioningの基本と実践	//

テキスト・参考図書	テキスト：福田恵美子編集：標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版，医学書院 岩崎清隆：発達障害と作業療法（基礎編）．三輪書店 岩崎清隆，岸本光夫：発達障害と作業療法（実践編），三輪書店 参考書：岩崎テル子他編集：標準作業療法学 作業療法評価学第2版，医学書院
成績・評価の方法	期末試験80% 課題レポート10% 授業及びグループワークへの参加度：10%
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学Ⅰ演習（発達障害）		
担当教員	福田 恵美子、松下 雅子		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>治療学Ⅰで学ぶ疾患以外で出会うことのできる多い疾患について、小グループごとに疾患特性をまとめ、それぞれの疾患に合った評価や介入方法を検討し、クラス内で発表を行う。また、模擬症例を通して、評価項目の列挙～課題の整理、ゴール設定までグループで検討することで、対象児者の生活に即した具体的な作業療法の考え方を学ぶ。治療の基本的な手技や方法についても演習を通して修得する。 <オムニバス方式／全15回> (福田恵美子／7回) 評価～治療への進め方、ゴール設定と治療計画の立案方法 (松下雅子／8回) 様々な疾患についてグループ学習、ポジショニングについて</p>			

学習目標（行動目標）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な治療理論を理解し、説明できる。 2. 対象者の予後を予測し、適切な治療目標を設定することができる。 3. 対象者に応じた治療計画を立案することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		発達障害作業療法の流れと進め方	福田恵美子
2		基本的な治療理論	〃
3		症例を通じた理解	松下雅子
4		症例を通じた理解	〃
5		脳性麻痺に対する作業療法	福田恵美子
6		知的障害に対する作業療法	〃
7		治療計画の立案	松下雅子
8		治療計画の立案	〃
9		治療計画の立案	〃
10		二分脊椎症に対する作業療法	福田恵美子
11		受賞心身障害に対する作業療法	〃
12		発達障害を持つ対象児者の家族支援	〃
13		その他の臨床で出会う疾患について	松下雅子
14		Positioningの基本と実践	〃
15		Positioningの基本と実践	〃

テキスト・参考図書	テキスト：福田恵美子編集：標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版，医学書院 岩崎清隆：発達障害と作業療法（基礎編），三輪書店 岩崎清隆，岸本光夫：発達障害と作業療法（実践編），三輪書店 参考書：岩崎テル子他編集：標準作業療法学 作業療法評価学第2版，医学書院
成績・評価の方法	期末試験50% 実技試験：20% 課題レポート及び発表20% 授業及びグループワークへの参加度：10%
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学Ⅱ（発達障害）		
担当教員	松下 雅子		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

発達障害作業療法で対象となる主たる疾患（注意欠如多動性障害、自閉症スペクトラム障害など）について、疾患特性とともにそれらの疾患を持つ児者の基本的とらえ方や治療的アプローチについて学習する。また、治療プログラム実施に関する基本的な知識、家族支援、地域支援、他職種連携について学習し、対象児者の生活や環境に合わせた評価～治療が選択・実施できるようになることを目標とする。

学習目標（行動目標）

1. 疾患特性に応じた作業療法の基本を理解し、説明できる。
2. 模擬症例を通して、作業療法の流れを理解し、適した治療・支援計画を検討できる。
3. 治療構造及び根拠を説明することができる。
4. 計画した作業療法の一部を発表できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		授業オリエンテーション	松下 雅子
2		自閉症スペクトラム障害に対する作業療法	〃
3		症例検討（脳性麻痺、重症心身障害など運動機能障害を中心に）	〃
4		症例検討（脳性麻痺、重症心身障害など運動機能障害を中心に）	〃
5		症例検討（脳性麻痺、重症心身障害など運動機能障害を中心に）	〃
6		治療発表（脳性麻痺、重症心身障害など運動機能障害を中心に）	〃
7		治療発表（脳性麻痺、重症心身障害など運動機能障害を中心に）	〃
8		治療発表のまとめ、フィードバック	〃
9		症例検討（自閉症スペクトラム障害などの認知・精神機能の障害を中心に）	〃
10		症例検討（自閉症スペクトラム障害などの認知・精神機能の障害を中心に）	〃
11		症例検討（自閉症スペクトラム障害などの認知・精神機能の障害を中心に）	〃
12		治療発表（自閉症スペクトラム障害などの認知・精神機能の障害を中心に）	〃
13		治療発表（自閉症スペクトラム障害などの認知・精神機能の障害を中心に）	〃
14		治療発表のまとめ、フィードバック	〃
15		発達障害作業療法の展開、地域連携	〃

テキスト・参考図書	テキスト：福田恵美子編集：標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版，医学書院 岩崎清隆：発達障害と作業療法（基礎編），三輪書店 岩崎清隆，岸本光夫：発達障害と作業療法（実践編），三輪書店 参考書：岩崎テル子他編集：標準作業療法学 作業療法評価学第2版，医学書院
成績・評価の方法	期末試験90% 授業及びグループワークへの参加度：10%
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学Ⅱ演習（発達障害）		
担当教員	松下 雅子		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習

授業科目の概要（一般目標）

小グループで模擬症例の評価～治療までを検討し、治療場面の発表を実施する。ここでは、症例の理解を深め、具体的かつ実践可能な治療計画の立案を目標としている。発表では教員とクラスメイトから受けたフィードバックをもとにして、評価や治療内容を修正していく過程までを体験し、自分自身の作業療法士としての介入方法についても検討していく。また、発達障害児へのSSTなど臨床で実践している方法を体験する。

学習目標（行動目標）

1. 模擬症例を通して、作業療法の流れを理解し、適した治療・支援計画を検討できる。
2. 治療構造及び根拠を説明することができる。
3. 計画した作業療法の一部を発表できる。
4. グループワークを通して、問題解決のためのディスカッションを行える。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		作業療法の実践	松下 雅子
2		自閉症スペクトラム障害に対する作業療法	〃
3		症例検討（脳性麻痺、重症心身障害など運動機能障害を中心に）	〃
4		症例検討（脳性麻痺、重症心身障害など運動機能障害を中心に）	〃
5		症例検討（脳性麻痺、重症心身障害など運動機能障害を中心に）	〃
6		治療発表（脳性麻痺、重症心身障害など運動機能障害を中心に）	〃
7		治療発表（脳性麻痺、重症心身障害など運動機能障害を中心に）	〃
8		治療発表のまとめ、フィードバック	〃
9		症例検討（自閉症スペクトラム障害などの認知・精神機能の障害を中心に）	〃
10		症例検討（自閉症スペクトラム障害などの認知・精神機能の障害を中心に）	〃
11		症例検討（自閉症スペクトラム障害などの認知・精神機能の障害を中心に）	〃
12		治療発表（自閉症スペクトラム障害などの認知・精神機能の障害を中心に）	〃
13		治療発表（自閉症スペクトラム障害などの認知・精神機能の障害を中心に）	〃
14		治療発表のまとめ、フィードバック	〃
15		発達障害に対するSST	〃

テキスト・参考図書	テキスト：福田恵美子編集：標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版，医学書院 岩崎清隆：発達障害と作業療法（基礎編），三輪書店 岩崎清隆，岸本光夫：発達障害と作業療法（実践編），三輪書店 参考書：岩崎テル子他編集：標準作業療法学 作業療法評価学第2版，医学書院
成績・評価の方法	治療発表50%（発表用レポート含む） 課題レポート20% グループワークへの参加度：20% 授業への取り組み態度10%（リアクションペーパー含む）
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学（高齢期障害）		
担当教員	宮脇 利幸		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要（一般目標）			
作業療法の対象となる高齢者および老年期障害の特徴を理解し、高齢期作業療法における評価から目標設定の流れに続き、具体的な介入方法、援助方法について習得する。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者および老年期障害を理解する ・高齢者を取り巻く医療・保健・福祉領域における社会環境を理解する ・高齢者および老年期障害者に対する作業療法の役割および援助法を理解する

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		高齢者の理解：高齢社会と高齢者像	宮脇 利幸
2		高齢者の特性：加齢と老化、生活障害	〃
3		高齢者を取り巻く社会資源：保健・医療・福祉	〃
4		老年期作業療法の役割：在宅生活と入所施設生活	〃
5		介護保険制度	〃
6		〃	〃
7		高齢者の基本的運動機能	〃
8		高齢者の知的・精神機能	〃
9		高齢者のQOL	〃
10		高齢者のADL	〃
11		高齢者のリスク管理	〃
12		高齢者に多い疾患と作業療法	〃
13		〃	〃
14		〃	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト： 松房利憲・小川恵子編集；標準作業療法専門分野 高齢期作業療法学．医学書院 参考書： 浅海奈津美・守口恭子；老年期の作業療法．三輪書店 日本作業療法協会監修，村田和香編；作業療法学全書第7巻 作業治療学4 老年期．協同医書大内尉義編；標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 老年学．医学書院 四天王寺悲田院施設リハビリテーション研究会；老人施設のリハビリテーション．三輪書店
成績・評価の方法	筆記試験
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学演習（高齢期障害）		
担当教員	宮脇 利幸		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>高齢期作業療法の評価から介入までの過程と高齢者の特徴をふまえた援助法を習得するために高齢者に多い疾患別でグループワークをおこなう。また実技等を通し障害を有する高齢者や認知症者への援助技術を習得する</p>			

学 習 目 標（行 動 目 標）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 老年期作業療法で必要とされる介入技術を身につける ・ 老年期に多い疾患を理解し、老年期における作業療法を企画・立案できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		老年期作業療法の治療的枠組み	宮脇 利幸
2		認知症の理解と援助	〃
3		認知症 コミュニケーション・テクニック	〃
4		起居・移乗介助法（ポジショニング・シーティング含む）（講義）	〃
5		（実技）	〃
6		高齢者の抑うつ要因（在宅および施設高齢者への調査研究結果）	〃
7		高齢者と集団作業療法（講義）	〃
8		（実技）	〃
9		老年期に多い疾患と作業療法 グループ発表：廃用性症候群	〃
10		老年期に多い疾患と作業療法 グループ発表：呼吸器疾患	〃
11		老年期に多い疾患と作業療法 グループ発表：運動器疾患	〃
12		老年期に多い疾患と作業療法 グループ発表：パーキンソン病・パーキンソニズム	〃
13		老年期に多い疾患と作業療法 グループ発表：認知症	〃
14		老年期に多い疾患と作業療法 グループ発表：老年期うつ	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト： 松房利憲・小川恵子編集；標準作業療法専門分野 高齢期作業療法学．医学書院 参考書： 浅海奈津美・守口恭子；老年期の作業療法．三輪書店 日本作業療法協会監修，村田和香編；作業療法学全書第7巻 作業治療学4 老年期．協同医書大内尉義編；標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 老年学．医学書院 四天王寺悲田院施設リハビリテーション研究会；老人施設のリハビリテーション．三輪書店</p>
成績・評価の方法	出席態度（30%），課題レポート（70%）
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学（高次脳機能障害）		
担当教員	松房 利憲		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

高次脳機能障害の治療は、対象者の示す現象をいかに解釈できるかにある。対象となる高次脳機能障害の概要を理解し、評価・治療の原則を理解する。面接・観察のポイントを修得し、意識・注意の障害、右半球症状、動作の高次障害、失認、記憶障害の評価・治療の実際場面がイメージできるようにする。さらに対象者及び家族までも含めた心理・社会的側面についても考察する。

学習目標（行動目標）

1. 高次脳機能の概要を説明できる
2. 高次脳機能障害の種類・概要を説明できる
3. 高次脳機能障害の解釈方法を説明できる
4. 諸高次脳機能の治療方針を説明できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		高次脳機能障害の基礎知識（高次脳機能のとらえ方）	松房 利憲
2		〃（失語、失読、失書）	〃
3		〃（失行）	〃
4		〃（失認、無視）	〃
5		〃（把握現象）	〃
6		〃（記憶）	〃
7		〃（注意障害、遂行機能障害）	〃
8		高次脳機能障害の基礎知識のまとめ	〃
9		失語症に対する作業療法	〃
10		失行、把握現象に対する作業療法	〃
11		失認、無視に対する作業療法	〃
12		失認、無視に対する作業療法	〃
13		記憶障害、注意障害に対する作業療法	〃
14		遂行機能障害、社会的行動障害に対する作業療法	〃
15		認知症に対する作業療法	〃

テキスト・参考図書	テキスト：能登真一編：高次脳機能作業療法学，医学書院，2012 講師作成の配布資料 参考書：鈴木孝治他 編：高次脳機能障害マエトリスト [®] ，リハビリテーション介入，医歯薬出版，2006 石合純夫：高次脳機能障害学，医歯薬出版，2003
成績・評価の方法	試験100%
その他（履修上の留意点）	よく復習すること

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学演習（高次脳機能障害）		
担当教員	松房 利憲		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習

授業科目の概要（一般目標）

高次脳機能について明らかになっているものは少ない。人の行動を支配する脳の働き、そして高次脳機能障害によって生活に不自由さを感じている対象者によりよい援助ができるようになるために、前期で学習した高次脳機能障害治療学及び評価学習を通して感じた不十分な部分を、テーマを挙げ教員のアドバイスを受けながらグループで調べ発表することで、共通の知識にする。

学習目標（行動目標）

1. 自分の分からない高次脳機能障害の内容を具体的に挙げるができる
2. 適切な参考書を探すことができる
3. 自分のよく理解できてなかった高次脳機能障害の内容と治療方針を説明できる
4. 臨床実習および卒業後の臨床に活かす資料をクラスで作成できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		テーマ列挙およびグループ分け	松房 利憲
2		グループ学習	〃
3		グループ学習	〃
4		グループ学習	〃
5		グループ学習	〃
6		グループ学習	〃
7		グループ学習	〃
8		グループ学習	〃
9		グループ学習	〃
10		グループ学習	〃
11		グループ学習	〃
12		グループ学習	〃
13		発表	〃
14		発表	〃
15		発表	〃

テキスト・参考図書	テキスト：なし 参考書：各自で見つける
成績・評価の方法	参加度・発表内容：20% 期末試験：80%
その他（履修上の留意点）	分からないところを、分からないままにしないで教員の指示を仰ぐこと

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	日常生活活動学		
担当教員	宮脇 利幸		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
日常生活活動の評価結果から治療の組み立てについて学び、臨床で応用できることを目標とする。評価結果の解釈や疾患の基礎知識および対象者を取り巻く環境をもとに作業療法の目標設定および治療立案の基本的理論を学び、その治療の有効性や治療手段の選択について理解を深める。			

学習目標(行動目標)
<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境と障害の関係を理解する ・環境整備による生活援助の視点を理解する ・障害別にADLを援助するための作業療法プログラムが立てられる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		障害と生活環境：ノーマライゼーション、IL運動、ADA法～パリアフリー、エバーサルデザイン、ハートビル法	宮脇 利幸
2		ADLの評価～治療	〃
3		〃	〃
4		〃	〃
5		環境整備と作業療法：福祉機器と自助具	〃
6		環境整備と作業療法： 〃	〃
7		環境整備と作業療法：住環境	〃
8		グループワーク：疾患とADL	〃
9		グループ発表・ディスカッション：片麻痺とADL	〃
10		グループ発表・ディスカッション：脊髄損傷とADL	〃
11		グループ発表・ディスカッション：パーキンソン病（パーキンソン症候群）とADL	〃
12		グループ発表・ディスカッション：関節リウマチとADL	〃
13		グループ発表・ディスカッション：筋萎縮性疾患とADL	〃
14		グループ発表・ディスカッション：在宅障害者とADL	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト： 田川義勝、濱口豊太編；標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学. 医学書院 参考書： 長崎重信監修；作業療法学 コールト・マスターテキスト 日常生活活動(ADL)・福祉用具学. ナジカレビュー社 伊藤利之・鎌倉矩子編；ADLとその周辺 第2版. 医学書院 伊藤利之・江藤文夫編；新版 日常生活活動(ADL)-評価と支援の実際-. 医歯薬出版 障害者福祉研究会編；ICF 国際生活機能分類. 中央法規出版
成績・評価の方法	筆記試験(70%), 課題レポート(30%)
その他(履修上の留意点)	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	日常生活活動学演習		
担当教員	清水 万紀子		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習

授業科目の概要(一般目標)

日常生活活動学で学んだ基本的理論と治療手技をもとに、実習を通して学習をする。様々な疾患、様々な環境背景を有する事例に対して、作業療法士が個別性を重んじながら、どのようなアプローチを用いて日常生活活動の治療的アプローチを実践したらよいか、グループで検討しながら考察を深める。また自助具の作成、家事動作指導の実際や実技を習得することが出来る。

学習目標(行動目標)

1. 障害者の家庭生活をイメージし、個々の状態に合わせた生活行為について説明できる。
2. 障害者の個別性に合わせた福祉用具・自助具の選定ができる。
3. 住環境支援についての説明と支援ができる。
4. 片手動作による家事動作の説明と支援ができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		ADLグループワーク	清水 万紀子
2		〃	〃
3		〃	〃
4		〃	〃
5		自助具作成計画・製作	〃
6		〃	〃
7		〃	〃
8		〃	〃
9		家事動作の指導	〃
10		〃	〃
11		〃	〃
12		福祉機器・家屋改修	〃
13		〃	〃
14		〃	〃
15		〃	〃

テキスト・参考図書	テキスト： 田川義勝、濱口豊太編；標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学、医学書院 参考書： 長崎重信監修；作業療法学 コールト・マスターテキスト 日常生活活動(ADL)・福祉用具学、マジカルビュー社 その他：適宜紹介
成績・評価の方法	期末筆記試験80%、レポート20%
その他(履修上の留意点)	事前に予習し、実技を伴う場合は自宅で復習すること

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法系義肢装具学		
担当教員	高嶋 孝倫		
配当年次	3年	配当学期	通年
年間授業回数	30回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要(一般目標)			
<p>義肢装具の種類について用語の徹底から基本構成、さらには使用目的に適応した機能を教授する。基本的、かつ使用頻度の高い装具について着目し、作業療法士が関与することが多い上肢装具、義手に重点を置きスプリントの製作を含める。国家試験に出題される歴史的な義肢装具についても触れる。義肢装具は体表から力を架ける／受ける事によって成り立つ事、材料の知識は作業療法士にとっても必要な事から、随所に基礎力学、材料学の解説を含めて教授する。</p>			

学習目標(行動目標)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 義肢装具の種類と支給体系を説明できる。 2. 義肢装具の基本構造と動作原理を理解し説明できる。 3. 義手の操作について体験的に学ぶ。 4. スプリントの原理と効果を理解する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		総論：義肢装具の種類と適応，処方の流れ	高嶋 孝倫
2		関係法規：義肢装具の支給体系と関係法規	〃
3		義足総論：下肢切断と義足，義足ソケットの機能，義足の構成要素	〃
4		下腿義足：ソケット，足部，下腿義足歩行，異常歩行	〃
5		大腿義足：ソケットの種類，アライメント概念，義足膝継手	〃
6		大腿義足：大腿義足歩行，ダイナミックアライメント調整と異常歩行	〃
7		義手総論：上肢切断と義手，義手ソケットの機能，アライメント概念	〃
8		筋電義手：筋電義手の原理と実際	〃
9		上腕義手：上腕能動義手の機能と調整方法	〃
10		上腕義手：上腕義手の製作方法，上腕義手操作体験	〃
11		装具総論：装具の種類と目的，用語体系	〃
12		下肢装具：下肢装具の種類と構成	〃
13		短下肢装具：短下肢装具の種類と機能，構成要素と足継手	〃
14		短下肢装具：短下肢装具の製作方法（実習）	〃
15		靴型装具：足の変形と矯正，一般靴と靴型装具，靴型装具の構成要素	〃
16		足底装具：足底圧分散の概念，靴型装具と足底装具の適応	高嶋 孝倫
17		上肢装具：上肢装具の種類と適応，神経疾患に対する上肢装具	〃
18		上肢装具：末梢神経麻痺	〃
19		上肢装具：腱損傷，軟部組織損傷，伸展ダイナミックスプリント	〃
20		上肢装具：骨関節疾患	〃
21		スプリント：スプリントの製作方法（実習）	〃
22		スプリント：スプリントの製作方法（実習）	〃
23		疾患別適応：脊髄損傷と上肢装具	〃
24		疾患別適応：リウマチと上肢装具	〃
25		体幹装具：体幹装具の種類と適応，体幹装具の基本構成	〃
26		頸椎装具：頸椎装具の種類と適応	〃
27		車いす：車いすの種類と構造	〃
28		福祉用具：自助具，杖，歩行器	〃
29		座位保持装置：座位姿勢と座位保持装置	〃
30		座位保持装置：座位姿勢と座位保持装置	〃

テキスト・参考図書	テキスト：日本整形外科学会，日本リハビリテーション医学会監修 「義肢装具のチェックポイント 第8版」 医学書院 参考書：日本義肢装具学会監修「装具学」 医歯薬出版
成績・評価の方法	中間試験・期末試験70%，レポート30%
その他（履修上の留意点）	実技的内容を含む

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	職業前評価・治療学		
担当教員	春原 るみ		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

ひとの人生において職業に就く(働く)ことの意味を理解し、作業的公正の視点から障害を持つひとの就労支援について、作業療法士の就労支援における役割と可能性について最新のトピックスを理解しながら学ぶ。障害を持つ人に対する就業支援に必要な法律、事業所等の環境についてや、就労支援に必要なパラダイム・理論、支援に必要な面接、評価、計画などの技術を学習する。また、実際に地域の就労支援施設を訪問し、障害を持つひとが働くということや就労について理解する。

学習目標(行動目標)

1. 職業(働く)ことの意味を理解し、説明できる。
2. 職業リハビリテーションに関わる知識、法律、関連施設について理解し、説明できる。
3. 就労支援における作業療法士の役割を理解し、説明できる。
4. 就労支援での作業療法遂行過程での評価過程・方法、留意点を理解し、説明できる。
5. 就労支援での作業療法遂行過程での治療過程を理解し、説明できる。
6. 地域の就労支援施設に行き実際に就労の場について理解し、説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		職業の意味と就労支援に関する理論	春原 るみ
2		障害者と職業 障害者の就労	〃
3		障害者と職業 就労支援技術	〃
4		職業関連活動における作業療法 文献抄読と討論	〃
5		職業関連活動における作業療法 作業療法士の役割	〃
6		職業関連活動における作業療法 評価過程	〃
7		職業関連活動における作業療法治療過程	〃
8		障害別就労支援 統合失調症	〃
9		障害別就労支援 うつ病	〃
10		障害別就労支援 身体障害	〃
11		障害別就労支援 高次脳機能障害	〃
12		障害別就労支援 知的障害	〃
13		職務分析とは	〃
14		地域就労施設での実習	〃
15		地域就労施設での実習	〃

テキスト・参考図書	テキスト：平賀昭信、岩瀬義昭編集：作業療法技術学4 職業関連活動。協同医書出版 参考書：ジャーナルなど必要に応じて授業の中で紹介する。
成績・評価の方法	レポート30%、期末試験70%
その他(履修上の留意点)	教科書・資料をよく読んでおくこと。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学演習（総合）		
担当教員	松房利憲、福田恵美子、宮脇利幸、小市健二、清水万紀子、春原るみ、栗林美智子、松下雅子		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	16回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習

授業科目の概要（一般目標）

各教員が疾患や領域の枠組みを超えて、それぞれの専門分野について新規情報も含めて講義・演習する。各教員2コマで実施する。

<オムニバス方式／全16回>

（松房利憲／2回）段ボールを使ったスプリント

（福田恵美子／2回）障害児者の社会参加

（宮脇利幸／2回）認知症のトピックス

（小市健二／2回）行動変容の理論と演習

（清水万紀子／2回）介護保険下での住宅改修・福祉機器選定について

（春原るみ／2回）国際的な作業療法の動向と調査

（栗林美智子／2回）精神科作業療法の関連モデルおよび治療

（松下雅子／2回）発達障害のSST

学習目標（行動目標）

・各教員が示す、それぞれの分野のトピックスを理解し、作業療法の治療に関する知識を深める。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		段ボールを使ったスプリント	松房利憲
2		〃	〃
3		障害児者の社会参加	福田恵美子
4		〃	〃
5		認知症のトピックス	宮脇利幸
6		〃	〃
7		行動変容の理論と演習	小市健二
8		〃	〃
9		介護保険下での住宅改修・福祉機器選定について	清水万紀子
10		〃	〃
11		国際的な作業療法の動向と調査	春原るみ
12		〃	〃
13		精神科作業療法の関連モデルおよび治療	栗林美智子
14		〃	〃
15		発達障害のSST	松下雅子
16		〃	〃

テキスト・参考図書	テキスト：各教員より紹介する 参考書：各教員より紹介する
成績・評価の方法	期末テスト：口頭試問100%
その他（履修上の留意点）	1年から3年までに学んだ内容を、分野毎にまとめておくこと。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	地域医療・地域リハビリテーション学		
担当教員	小市 健二		
配当年次	2年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

長野県における地域医療の源流を探り、地域に根差した医療の歴史を学ぶ。特に長野県における予防医学の発展の流れと、地域におけるリハビリテーションの具体的活動から、地域リハビリテーションの考え方を深める。地域におけるリハビリテーションにおいては、医療・保健・福祉の機能連携が重要であり、急性期から慢性期にかけての各リハビリテーションサースの現状を理解し、介護保険、障害者総合福祉法などの福祉サービスにおけるリハビリテーション、職業的・教育的リハビリテーションについても学ぶ。また、作業療法に特徴的な精神科作業療法の地域連携についても学ぶ。

学習目標(行動目標)

- ・地域医療の原点を理解し、地域リハビリテーションの歴史的背景を説明できる。
- ・地域リハビリテーションの理念が説明できる。
- ・障害別・年齢別に地域生活を支える資源の説明ができる。
- ・母子保健・成人保健・精神保健における作業療法士の役割が説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		地域医療の源流	小市 健二
2		地域リハビリテーションの歴史	〃
3		地域リハの理念	〃
4		介護保険制度概要	〃
5		介護保険制度とリハビリテーション	〃
6		介護予防事業と特定高齢者施策	〃
7		施設ケア・訪問リハビリテーション	〃
8		ケアマネジメントの基本	〃
9		老人保健施設	〃
10		高齢者保健・福祉	〃
11		自立支援法	〃
12		精神保健と地域リハビリテーション	〃
13		母子保健と地域リハビリテーション	〃
14		成人保健と地域リハビリテーション	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：資料を配付する。 参考書：伊藤利之他 編著：地域リハビリテーションマニュアル第2版，三輪書店 大田仁史 編著：地域リハビリテーション学，三輪書店 その他授業で提示する。
成績・評価の方法	期末試験：90% 授業への参加度：10%
その他（履修上の留意点）	初めての用語が出てくるので、事前事後学習を行い整理しておくこと。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	地域作業療法学概論		
担当教員	小市 健二		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

対象者が地域で生活するために、作業療法士として必要な制度の知識、アプローチ法を事例を交えながら学習する。まずは地域における社会資源を把握するため、生活している地域に出向き情報収集をするとともに、2学年で学んだ各種制度に該当するサーブスを具体的に知る。その後事例を基に、ケースマネジメントの手法をMDS-HCを例に学び、認定調査から始まりケアプランまでの作成過程を作業療法士としての視点でできることを具体的に学ぶ。

学習目標(行動目標)

- ・地域における作業療法の現状を、講義や文献から理解する。
- ・医療・保険・福祉分野での作業療法の役割を理解する。
- ・生活している地域での社会資源を把握するための手段を知る。
- ・対象者に応じて、必要な社会資源を選び、目的に応じたサービスの利用が提言できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		地域リハと作業療法	小市 健二
2		医療連携の具体例	〃
3		介護保険制度における作業療法活動総論	〃
4		アセスメント技法その1(認定調査)	〃
5		アセスメント技法その2(各種アセスメント)	〃
6		ケアプランの考え方その1(家族・生活の評価)	〃
7		ケアプランの考え方その2(その他の評価)	〃
8		各種疾患と地域リハその1	〃
9		各種疾患と地域リハその2	〃
10		事例を通して地域を探る1(グループワーク)	〃
11		事例を通して地域を探る2(グループワーク)	〃
12		事例を通して地域を探る3(グループワーク)	〃
13		事例を通して地域を探る1(発表)	〃
14		事例を通して地域を探る2(発表)	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト：特に指定しない。授業中に配布する。</p> <p>参考書：浜村明徳編著：地域リハビリテーションプラクシス、医療文化社、2004 鳥羽研二監修：高齢者総合的機能評価ガイドライン、厚生科学研究所、2003 小川恵子編集：標準作業療法学「地域作業療法学第2版」、医学書院、2012 澤村誠志編集：リハビリテーション連携論、2009、三輪書店 池上直巳他編著：MDS-HC2.0在宅ケアアセスメントマニュアル、2006、医学書院 大川弥生：介護保険サービスとリハビリテーション、2005、中央法規 介護保険下の作業療法：作業療法ジャーナル増刊号、2008</p>
成績・評価の方法	期末試験70% グループワークへの参加度とレポート30%
その他(履修上の留意点)	地域資源の把握のためには、地域に出向いて資料を収集する必要があるため

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	地域作業療法学演習		
担当教員	小市 健二		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習

授業科目の概要(一般目標)

地域で作業療法・リハビリテーションを展開していく上での他職種との協業の必要性、地域性、ニーズ抽出、プログラム展開、援助方法について、グループワークを通して考える。具体的には介護予防の事業を基に、地域における高齢者のための作業療法的プログラムを、健康教育の方法として考える。また、精神障害や発達障害を含めてプロシードプリシードモデルなどの集団的アプローチ手法を等して具体的な健康課題を設定し、その解決方法を演習する。

学習目標(行動目標)

- ・地域のニーズ抽出の手法を知り、説明することができる。
- ・目標に沿った具体的なプログラムの展開方法を立案することができる。
- ・介護予防事例を学び、実践できる。
- ・住宅改修の提言ができるようになる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		地域における健康教室・課題設定の手法 1	小市 健二
2		地域における健康教室・課題設定の手法 2	〃
3		グループ討議第1回	〃
4		グループ討議第2回	〃
5		グループ討議第3回	〃
6		発表 1	〃
7		発表 2	〃
8		介護予防事業事例 1	〃
9		介護予防事業事例 2	〃
10		介護予防事業事例 3	〃
11		住宅改修の基本的な考え方	〃
12		家の見取り図を作る	〃
13		住宅改修事例 1	〃
14		事例をあてはめ、住宅改修のプランを作る	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：特に指定しない。授業中に配布する。 参考書： 本作業療法士協会監修：作業の捉え方と評価・支援技術，医歯薬出版，2011 大淵修一他監修：介護予防完全マニュアル，東京都高齢者研究・福祉振興財団，2004 大淵修一他監修：続・介護予防完全マニュアル，2005 標準介護予防ケアマネジメント編集委員会：標準介護予防ケアマネジメント 池上直巳他編集：臨床のためのQOL評価ハンドブック，医学書院，2002
成績・評価の方法	期末試験70% グループワークへの参加度とレポート30%
その他(履修上の留意点)	事前学習が必須である。また、課題の進行に合わせて各自復習をすること。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	自立生活環境指導論		
担当教員	小市 健二		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

作業療法と関わりの深い生活環境について、居住環境から社会的環境まで幅広い生活環境論について学び、生活環境における自立支援という観点での指導方法について学習する。具体的には近年のバリアフリー施策がどのように進められているかを知り、ユニバーサルな社会の実現に向けて具体的に取り組む課題を明らかにし、人間工学やロボット工学、福祉用具の使用法、住環境整備などの具体的な知識を基に、生活環境を設定する技術を身につける。

学習目標(行動目標)

- ・ 自立生活のための環境要因・制度について説明できる。
- ・ 生活場面に応じた環境整備のための福祉用具・住環境整備の方法が理解できる。
- ・ 事例を通して具体的な環境調整の支援ができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		自立生活支援の視点(1)	小市 健二
2		自立生活支援の視点(2)	〃
3		介護保険法の改正点	〃
4		自立支援法の改正点	〃
5		環境整備各論1 移乗	〃
6		環境整備各論2 移動	〃
7		環境整備各論3 整容・更衣	〃
8		環境整備各論4 排泄	〃
9		環境整備各論5 入浴	〃
10		環境整備各論6 コンピュータ	〃
11		環境整備各論7 コミュニケーション	〃
12		環境整備各論8 スポーツ	〃
13		疾患別事例検討1	〃
14		疾患別事例検討	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：配布する。 参考書：多くの資料があるため、授業中に提示する。
成績・評価の方法	期末試験70% グループワークへの参加度とレポート30%
その他(履修上の留意点)	演習が中心となるため、疾患やADLに関してまとめておくこと。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法臨床評価実習 I		
担当教員	小市健二 作業療法学専攻専任教員		
配当年次	2年	配当学期	後期
年間授業回数	2週間	単位数	2
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授業科目の概要(一般目標)			
<p>臨床現場である実習施設の機能、各医療従事者と対象者の関わりや作業療法士の業務と範囲さらに対象者の抱える心理的・身体的・社会的な問題点を学ぶ。学内教育で学んだ知識・技術をもとに、対象者に応じて適切な情報を集め基本的検査・測定などの評価を実施し、対象者の全体像を把握する。</p>			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業療法士の具体的な業務と範囲を学び説明することができる。 ・ 指導を受けながら、対象者の状況に応じて適切な検査測定が実施できる。 ・ 学内で学んだ知識を、臨床場面の体験を等して学び、理解することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		2月第4週から3月第1週の2週間	作業療法学専攻教員
2		事前にオリエンテーションを実施する。	
3		臨床指導者会議において、指導者との面談の機会を設ける。	
4		実習終了後、反省会を実施する。	
5		担当した事例の事例報告会を実施する。	
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	評価実習にあたっては、事前のオリエンテーション資料を配付する。指定されるテキストはない。
成績・評価の方法	臨床評価実習指導者の評価：60% 学内での報告会：40%
その他（履修上の留意点）	事前のオリエンテーションの内容を十分理解し、自ずから積極的に行動すること。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法臨床評価実習Ⅱ		
担当教員	小市健二 作業療法学専攻専任教員		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数		単位数	3
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授業科目の概要(一般目標)			
<p>臨床現場である実習施設の機能，各医療従事者と対象者の関わりや作業療法士の業務と範囲さらに対象者の抱える心理的・身体的・社会的な問題点を学ぶ。臨床評価実習Ⅰをもとに，治療プログラムを作成し，一部の治療技術を実践して，その過程・方法を具体的に学び，応用能力を養う。</p>			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学内で学んだ知識をもとに、対象者に応じた検査測定などの評価が実施できる。 ・ 結果を解釈・分析・統合して対象者の全体像を把握することができる。 ・ 治療プログラムの作成を試み、治療手技を具体的に学び、応用する。 ・ 作業療法士部門の管理運営を学び、医療・社会における作業療法士の役割を理解する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		8月第4週から9月第2週の3週間	作業療法学専攻教員
2		事前にオリエンテーションを実施する。	
3		臨床指導者会議において、指導者との面談の機会を設ける。	
4		実習終了後、反省会を実施する。	
5		担当した事例の事例報告会を実施する。	
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	評価実習にあたっては、事前のオリエンテーション資料を配付する。指定されるテキストはない。
成績・評価の方法	臨床評価実習指導者の評価：60% 学内での報告会：40%
その他（履修上の留意点）	事前のオリエンテーションの内容を十分理解し、自ずから積極的に行動すること。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法臨床実習 I		
担当教員	松房利憲 作業療法学専攻専任教員		
配当年次	4年	配当学期	前期
年間授業回数		単位数	8
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習

授業科目の概要(一般目標)

臨床実習を通して、学内教育で学習した知識と技術技能を臨床における作業療法体験により統合する過程とする。対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識・技術・技能および態度を身につけ、保険・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。

1期目では、担当症例・他の対象者、作業療法・関連部門職員と良好な関係を築き、安定して維持できること。2年次3年次の評価実習体験と3年間の学内学習をふまえ、対象者の全体像を的確に把握した上で、指導を受けながら治療を行い、その効果判定ができる。

学習目標(行動目標)

- ・学内教育で学習した知識と技術技能を臨床における作業療法体験により統合することができる。
- ・作業療法士としての知識・技術・技能および態度を身につけ、実践できる。
- ・保険・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		8月第4週から9月第2週の3週間	作業療法学専攻教員
2		事前にオリエンテーションを実施する。	
3		臨床指導者会議において、指導者との面談の機会を設ける。	
4		実習終了後、反省会を実施する。	
5		担当した事例の事例報告会を実施する。	
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	評価実習にあたっては、事前のオリエンテーション資料を配付する。指定されるテキストはない。
成績・評価の方法	臨床評価実習指導者の評価：60% 学内での報告会：40%
その他(履修上の留意点)	事前のオリエンテーションの内容を十分理解し、自ずから積極的に行動すること。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法臨床実習Ⅱ		
担当教員	松房利憲 作業療法学専攻専任教員		
配当年次	4年	配当学期	前期
年間授業回数		単位数	8
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習

授業科目の概要(一般目標)

臨床実習を通して、学内教育で学習した知識と技術技能を臨床における作業療法体験により統合する過程とする。対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識・技術・技能および態度を身につけ、保険・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。
2期目では1期目の実習を踏まえ、臨床実習指導者の援助を受けながら、具体的な治療計画を立案し、治療を行いその効果判定を行う。同時に再評価に基づく治療計画の立て直しを経験する。

学習目標(行動目標)

- ・学内教育で学習した知識と技術技能を臨床における作業療法体験により統合することができる。
- ・作業療法士としての知識・技術・技能および態度を身につけ、実践できる。
- ・保険・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		8月第4週から9月第2週の3週間	作業療法学専攻教員
2		事前にオリエンテーションを実施する。	
3		臨床指導者会議において、指導者との面談の機会を設ける。	
4		実習終了後、反省会を実施する。	
5		担当した事例の事例報告会を実施する。	
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	評価実習にあたっては、事前のオリエンテーション資料を配付する。 指定されるテキストはない。
成績・評価の方法	臨床評価実習指導者の評価：60% 学内での報告会：40%
その他(履修上の留意点)	事前のオリエンテーションの内容を十分理解し、自ずから積極的に行動すること。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法臨床実習Ⅲ		
担当教員	松房利憲 作業療法学専攻専任教員		
配当年次	4年	配当学期	後期
年間授業回数		単位数	8
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習

授業科目の概要(一般目標)

臨床実習を通して、学内教育で学習した知識と技術技能を臨床における作業療法体験により統合する過程とする。対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識・技術・技能および態度を身につけ、保険・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。
3期目では、具体的な治療計画を自分でたてながら指導のもとに治療を行い、再評価、治療計画立て直しの一連のPDCAサイクルに基づく臨床耳洗ができるようになることを目標とする。

学習目標(行動目標)

- ・学内教育で学習した知識と技術技能を臨床における作業療法体験により統合することができる。
- ・作業療法士としての知識・技術・技能および態度を身につけ、実践できる。
- ・保険・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		8月第4週から9月第2週の3週間	作業療法学専攻教員
2		事前にオリエンテーションを実施する。	
3		臨床指導者会議において、指導者との面談の機会を設ける。	
4		実習終了後、反省会を実施する。	
5		担当した事例の事例報告会を実施する。	
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	評価実習にあたっては、事前のオリエンテーション資料を配付する。 指定されるテキストはない。
成績・評価の方法	臨床評価実習指導者の評価：60% 学内での報告会：40%
その他(履修上の留意点)	事前のオリエンテーションの内容を十分理解し、自ずから積極的に行動すること。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法基礎セミナー		
担当教員	福谷 保, 大町 かおり, 金井 敏男, 赤羽 勝司, 下坂 充, 阿部 裕一		
配当年次	1年	配当学期	通年
年間授業回数	30回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習

授業科目の概要(一般目標)

導入教育である基礎セミナーでは、
 1) リハビリテーション専門職連携の基礎(理学療法士の役割と他職種の役割を知る)
 2) スタディースキル: 図書館の利用法, 情報収集の仕方, レポートの書き方, 等
 3) ソーシャルスキル: 社会人として, 未来の医療従事者としての心構え
 4) 建学の精神: 社会生活を営む上で四徳(知恵, 勇気, 節制, 正義)の意味・意義について考え, 大学生活で実践する態度を養う。
 これらについて1年次の1年間を通してグループワークを行いながら演習形式で行う。
 特に後期では, 探求すべき課題を選定し, 知り得た結果をまとめて発表するグループワークの過程において, 人間関係形成・情報収集・論理的思考と問題解決・文章表現・口頭発表等の能力を総合的に身につけ, 理学療法専門分野の学習に立ち向かう動機付け及び学習の取り組み姿勢の土台を形成する。

学習目標(行動目標)

- 【前期】**
1. リハビリテーション専門職者を目指す学生として, また, 自ら学ぶ大学生として, マナーや社会的規範, コミュニケーションスキル, 課題を自ら発見し, 解決する能力を身につけて実践できる。
 2. 能動的に学ぶことの意義とともに, 面白さと楽しさを実感する。
 3. 基本的な学習技能(見る・聞く・読む・書く・要約する・考える・話し合う・発表する)を身につける。
- 【後期】**
1. 医療や理学療法関連分野について, グループでディスカッションを行いながら課題を見つけ, ひとつのテーマについて追求できる。
 2. 聴衆に対し発表方法を工夫し, 効果的にプレゼンテーションできる。
 3. 内容を把握したうえで, 他者の発表に対して真摯な態度で感想を述べられるとともに質問ができる。
 4. 受けた質問に対し, わかる範囲で返答し, 丁寧に受け答えができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/8	リハビリテーション専門職者を目指す学生の心構え	金井 敏男
2	4/15	建学の精神と学び: ここで今学ぶことの意味	金井 敏男
3	4/22	大学の学修: 自ら学ぶということ(課題を見つけ学ぶことの楽しさ)	福谷 保
4	5/13	スチューデントスキル1: 学修態度を備え, 具体的に学生生活をデザインする	福谷 ・ 大町
5	5/20	スチューデントスキル2: コミュニケーションスキルを学び身につける1	全員
6	5/27	スチューデントスキル3: コミュニケーションスキルを学び身につける2	全員
7	6/3	スタディースキル1: 学修に必要な技能について(4年間で必要となる学修技能)	福谷 ・ 大町
8	6/10	スタディースキル2: 学修に必要な技能について(学修技能の実践)	福谷 ・ 大町
9	6/17	スタディースキル3: 学修に必要な技能について(図書館の利用方法)	福谷 ・ 大町
10	6/24	スタディースキル4: 学修に必要な技能について(文献検索の仕方)	福谷 ・ 大町
11	*		全員
12	*	施設見学1, 2 *6/2, 6/12, 6/18のうちの2回	全員
13	7/8	施設見学発表会1	全員
14	7/15	施設見学発表会2	全員
15	7/22	まとめ	福谷 ・ 大町
16	9/30	オリエンテーション: グループ分け, テーマ決定, 発表の仕方, など	福谷 ・ 大町
17	10/7	グループワーク1: 基礎学習, 調査, 討論, 検討など	全員
18	10/14	グループワーク2: 基礎学習, 調査, 討論, 検討など	全員
19	10/21	グループワーク3: 基礎学習, 調査, 討論, 検討など	全員
20	10/28	グループワーク4: 基礎学習, 調査, 討論, 検討など	全員
21	11/4	グループワーク5: 基礎学習, 調査, 討論, 検討など	全員
22	11/11	グループワーク6: 基礎学習, 調査, 討論, 検討など	全員
23	11/18	グループワーク7: 基礎学習, 調査, 討論, 検討など	全員
24	11/25	グループワーク8: 基礎学習, 調査, 討論, 検討など	全員
25	12/2	グループワーク9: 基礎学習, 調査, 討論, 検討など	全員
26	12/9	グループワーク10: 基礎学習, 調査, 討論, 検討など	全員
27	12/16	学修経過のまとめ	福谷 ・ 大町
28	1/6	グループ発表1	全員
29	1/13	グループ発表2	全員
30	1/20	まとめ	福谷 ・ 大町

テキスト・参考図書	テキスト: 授業の際に配布する 参考書: 「知へのステップ 改訂版-大学生からのスタディースキルズ-」 上村和美他著, くろしお出版 「学びのティップス 大学で鍛える思考法」 近田政博著, 玉川大学出版部
成績・評価の方法	授業態度: 10%, 授業リフレクションペーパー: 20%, 発表: 30%, レポート: 40%
その他(履修上の留意点)	<p>【通年】 ・自ら授業に積極的に参加しましょう。</p> <p>【前期】 ・授業には「履修要項・シラバス」と「学生生活の手引き」を持参してください。 ・授業で得られた知識や技能を, 毎回すぐ実践することで, ・復習しながら早く学修のスキルを身につけましょう。</p> <p>【後期】 ・前期の授業で得られた知識や技能を, 後期の授業で実践し, 自主的に課題を設定し解決する醍醐味を楽しみましょう。</p>

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	解剖学実習（骨格系）		
担当教員	下田 浩一		
配当年次	1年	配当学期	前期
年間授業回数	30回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>骨、軟骨、関節、靭帯で構成される骨格系について、骨学、関節靭帯学の順に学習を進めていく。人体の構造を立体的に捉えて整理し、骨とその各部位の名称、関節とその運動の仕組み、関節における主要な靭帯とその機能について説明できることがねらいである。</p> <p>授業は講義と実習を並行して行うが、標本模型等を利用した観察、スケッチによる実習が主体となるため、自学自習の精神を身に付けること、また、医療に携わる心構えを自覚することも期待される。</p>			

学習目標（行動目標）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨の特徴を理解し、各部位の名称を説明できる。 2. 関節の構造と運動の仕組みを理解し説明できる。 3. 関節における主要な靭帯とその機能について理解し説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/7	骨学総論	下田 浩一
2	"	骨学実習 上肢の骨1	"
3	4/14	骨学実習 上肢の骨2	"
4	"	骨学実習 上肢の骨3	"
5	4/21	骨学実習 上肢の骨4	"
6	"	骨学実習 下肢の骨1	"
7	4/28	骨学実習 下肢の骨2	"
8	"	骨学実習 下肢の骨3	"
9	5/12	骨学実習 下肢の骨4	"
10	"	骨学実習 脊柱の骨1	"
11	5/19	骨学実習 脊柱の骨2	"
12	"	骨学実習 脊柱の骨3	"
13	5/26	骨学実習 脊柱の骨4	"
14	"	骨学実習 胸郭・頭蓋の骨1	"
15	6/9	骨学実習 胸郭・頭蓋の骨2	"
16	"	骨学実習 胸郭・頭蓋の骨3	"
17	6/16	骨学実習 胸郭・頭蓋の骨4	"
18	"	関節靭帯総論	"
19	6/23	関節学実習 上肢の連結1	"
20	"	関節学実習 上肢の連結2	"
21	6/30	関節学実習 上肢の連結3	"
22	"	関節学実習 上肢の連結4	"
23	7/7	関節学実習 下肢の連結1	"
24	"	関節学実習 下肢の連結2	"
25	7/14	関節学実習 下肢の連結3	"
26	"	関節学実習 下肢の連結4	"
27	7/21	脊柱・脊柱と頭蓋および胸郭の連結1	"
28	"	脊柱・脊柱と頭蓋および胸郭の連結2	"
29	7/28	頭蓋の連結1	"
30	"	頭蓋の連結2	"

テキスト・参考図書	テキスト：小川鼎三：分担解剖学1，金原出版 野村 巖：標準理学療法・作業療法 解剖学，医学書院 参考書：坂井建雄監訳：プロメテウス解剖学アトラス，医学書院 寺田春水ほか：骨学実習の手引き，南山堂
成績・評価の方法	期末試験80%，口頭試問（骨学10%，関節靭帯学10%）
その他（履修上の留意点）	スケッチ用具として、スケッチブック、鉛筆、消しゴム、定規（15cm程度）を持参してください。 予習よりも復習に力を入れましょう。知識の定着を確認するため小テストを行います。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	解剖学実習（筋系）		
担当教員	福谷 保		
配当年次	1年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習

授業科目の概要（一般目標）

解剖学の中でも療法士に特に必要とされる筋学の理解を深めるために、解剖学用語、体部位の名称、骨格筋の構造・作用、骨格筋の神経支配等の知識習得を図る。上肢、下肢、頭頸部、胸腹部、背部と部位別に学ぶ。

また、標本模型等を利用した観察、スケッチを通して立体的な構造を学習する。机上の学習においての知識を深めるとともに、人体の構造を立体的に捉えて整理することが授業のねらいである。

学習目標（行動目標）

身体各部位の名称を適切な解剖学用語で説明できる。

骨格筋の構造が説明できる。

骨格筋の一般的な作用の原理が説明できる。

身体各部位の骨格筋の名称、起始、停止、作用、支配神経と髄節レベルが説明できる。

身体各部位の骨格筋の位置を交連骨格を用いて指し示すことができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/10	解剖学用語、体部位の名称	福谷 保
2	4/17	骨格筋の構造・作用、骨格筋の神経支配、骨格筋の呼称	福谷 保
3	4/24		福谷 保
4	5/1	上肢筋（表4-2, 3A, 3B, 4A, 4B, 5A, 5B, 5C） 41筋	福谷 保
5	5/8	*標準PTOT解剖学の表番号	福谷 保
6	5/15		福谷 保
7	5/22		福谷 保
8	5/29	下肢筋（表4-6A, 6B, 7A, 7B, 7C, 8A, 8B, 8C, 9A, 9B, 9C, 9D） 53筋	福谷 保
9	6/5		福谷 保
10	6/19		福谷 保
11	6/26		福谷 保
12	7/3	頭頸部、胸腹部筋（表4-10, 11A, 11B, 11C, 11D, 11E, 12A, 12B, 12C, 13） 35筋	福谷 保
13	7/10		福谷 保
14	7/17	背部筋（表4-14A, 14B, 14C、14D） 18筋	福谷 保
15	7/24		福谷 保

テキスト・参考図書	テキスト：野村 巖ほか 「解剖学」 医学書院 相磯貞和 訳 「ネッター解剖学アトラス」 南江堂 参考書：なし
成績・評価の方法	筆記試験50%、口頭試問50%
その他（履修上の留意点）	講義予定に合わせて、予習・復習を怠らないようにしてください。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	解剖学実習（神経系）		
担当教員	福谷 保		
配当年次	1年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習

授業科目の概要（一般目標）

近年、ニューロサイエンスの進歩はめざましい。脳を理解することで、ヒトの行動や情動を理解することができる。ヒトの運動を理解するためにもそうしたニューロサイエンスの知見は有用である。また、患者の疾患について正しく理解し、病巣と障害像との照合ができることは治療を行う上で必要な能力である。基本的な神経の構造と働きについて理解することをねらいとし、神経組織、神経系の発生、末梢神経系（脳神経、脊髄神経、自律神経系）、中枢神経系について講義およびワークシートによる実習を行う。また、中枢神経系のうち特に大脳基底核や視床などの内部構造を立体的に捉えられるよう模型を使用して理解を深める。

学習目標（行動目標）

基本的な神経の構造と働きが説明できる。
 中枢神経系の部位別に名称と働きが説明できる。
 末梢神経系の部位別に名称と働きが説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/25	神経組織・神経系の発生、変性、再生	福谷 保
2	10/2	中枢神経系の肉眼的解剖	福谷 保
3	10/9	脳の血管と脳室	福谷 保
4	10/16	脊髄と脊髄神経	福谷 保
5	10/23	延髄 橋 中脳	福谷 保
6	10/30	脳神経	福谷 保
7	11/6	小脳	福谷 保
8	11/13	間脳	福谷 保
9	11/20	大脳基底核	福谷 保
10	11/27	大脳	福谷 保
11	12/4	伝導路のまとめ（運動と感覚）	福谷 保
12	12/11	頸神経叢 腕神経叢	福谷 保
13	12/18	腰神経叢 仙骨神経叢	福谷 保
14	1/8	末梢神経の皮枝	福谷 保
15	1/15	まとめ	福谷 保

テキスト・参考図書	テキスト：野村 巖ほか 「解剖学」 医学書院 相磯貞和 訳 「ネッター解剖学アトラス」 南江堂 参考書：なし
成績・評価の方法	筆記試験100%
その他（履修上の留意点）	講義予定に合わせて、予習・復習を怠らないようにしてください。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	解剖学実習（体表解剖）		
担当教員	福谷 保		
配当年次	2年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習

授業科目の概要（一般目標）

体表解剖とは解剖学的構造（骨、靭帯、筋、腱、神経、血管）を体表から視覚的または徒手的に捉えるものである。療法士が患者を治療するときの必要最低限の技術として、治療対象となる部位を適切に触れ、適切に操作できることが求められる。そうした能力を備えるためには、骨や筋を中心とした運動器系について十分な知識が要求される。実際に自分たちの体を使って骨・靭帯・筋・腱・神経・血管の視診と触診をおこない、運動器系を中心とする解剖学知識を整理し、理解することをねらいとする。

学習目標（行動目標）

対象者に不快感を与えないような身体への触れ方ができる。
 触診対象の位置を正しく指し示すことができる。
 触診対象の性状に合わせた触れ方ができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		体表の区分、デルマトームの確認、脈の触診、末梢神経の触診	福谷 保
2			福谷 保
3		体幹の骨、靭帯、筋の触診	福谷 保
4			福谷 保
5			福谷 保
6			福谷 保
7		上肢の骨、靭帯、筋の触診	福谷 保
8			福谷 保
9			福谷 保
10			福谷 保
11			福谷 保
12		下肢の骨、靭帯、筋の触診	福谷 保
13			福谷 保
14			福谷 保
15			福谷 保

テキスト・参考図書	テキスト：林 典雄 「機能解剖学的触診技術」 上肢、下肢・体幹 メジカルビュー 野村巖 「解剖学」 医学書院 参考書：なし
成績・評価の方法	筆記試験80%、受講態度20%
その他（履修上の留意点）	触診部位が露出できるような衣服を準備すること 爪を短く切り、対象者を傷つけないように配慮を怠らないこと

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	運動学 I (理学療法基礎運動学)		
担当教員	下坂 充		
配当年次	1 年	配当学期	通年
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
<p>力学, 解剖学, 生理学等の基礎理論と身体運動との関係を理解し, 人間の身体運動を成立させている機構の基礎を学ぶ。生体力学の一環として, 古典的なニュートン力学に従った剛体力学と骨・筋・腱・靭帯等の生体組織特性を説明した変形体の力学の両者を用いて身体運動を解釈し, 理解を深める。</p> <p>さらに, 身体運動のエネルギー源の代謝過程を学び, 身体運動の調整と制御に関わる中枢神経系と末梢神経系の機能に関して, 神経解剖学及び神経生理学的側面から学ぶ。また, 脊柱・体幹, 顔面・頭部, 四肢等全身の関節運動について, 機能解剖学的観点から運動を成立させている基本的機構を学ぶ。</p>			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
<p>1. 身体運動の機序を力学的概念を用いて説明できる。</p> <p>2. 身体運動を成立させている要素を解剖学および生理学的概念を用いて説明できる。</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/ 6	運動学概論, 生体力学の基礎 (1) 身体の部位名と関節運動	下坂 充
2	4/13	生体力学の基礎 (2) 運動学的分析, 運動力学的分析	〃
3	4/20	〃 (3) モーメント, 重心	〃
4	4/27	〃 (4) 運動の法則, 力学的エネルギー	〃
5	5/11	〃 (5) 運動力学, 生体組織の力学的特性	〃
6	5/18	生体の構造と機能 (細胞の構造と機能)	〃
7	5/25	〃 (細胞の構造と機能, 組織)	〃
8	6/ 1	〃 (骨・関節・腱・靭帯の構造と機能, 骨格筋の構造と機能)	〃
9	6/ 8	〃 (骨格筋の構造と機能)	〃
10	6/15	〃 (神経系の構造と機能)	〃
11	6/22	下肢帯と下肢の運動 (下肢帯と股関節)	〃
12	6/29	〃 (股関節)	〃
13	7/ 6	〃 (膝関節)	〃
14	7/13	〃 (足関節)	〃
15	7/27	まとめ	〃
16	9/25	上肢の運動 (上肢帯と肩関節)	下坂 充
17	10/ 2	〃 (上肢帯と肩関節)	〃
18	10/ 9	〃 (肘関節と前腕)	〃
19	10/16	〃 (手関節と手)	〃
20	10/23	〃 (手関節と手)	〃
21	10/30	顔面および頭部の運動	〃
22	11/ 6	体幹の運動 (脊柱)	〃
23	11/13	〃 (頸椎)	〃
24	11/20	〃 (胸椎と胸郭)	〃
25	11/27	〃 (腰椎)	〃
26	12/ 4	生体の構造と機能 (中枢神経系の構造と機能, 脊髄・脳幹・小脳)	〃
27	12/11	生体の構造と機能 (中枢神経系の構造と機能, 大脳皮質下)	〃
28	12/18	生体の構造と機能 (中枢神経系の構造と機能, 大脳皮質)	〃
29	1/ 8	生体の構造と機能 (中枢神経系の構造と機能, 伝導路, 運動の制御)	〃
30	1/15	まとめ	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト：中村隆一, 齋藤 宏 「基礎運動学 第6版補訂」 医歯薬出版 嶋田智明・他監訳 「筋骨格系のキネシオロジー原著第2版」 医歯薬出版</p> <p>参考書：随時紹介する。</p>
成績・評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末試験要件：授業回数の2/3以上の出席を要する。 ・ 成績評価：期末試験 60点以上を合格とする。
その他 (履修上の留意点)	<p>前期 月曜 2限目 (10:40~12:10) 後期 金曜 1限目 (9:00~10:30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義の予習は必須。毎回, 小テストを実施する。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	運動学実習		
担当教員	福谷 保、大町 かおり、赤羽 勝司、山本 良彦、下田 浩一、阿部 裕一		
配当年次	2年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習

授業科目の概要(一般目標)

人間の運動動作について、観察・測定・分析の初歩的手段を体験し、レポートにまとめる。また運動機能障害を持つ人の問題点を運動学的に捉え、評価や治療に応用する基礎を学ぶ。実習項目には以下の課題があり、その目的・方法を理解するためのオリエンテーションや実習後のフィードバックを各課題ごとに行う。

動画による歩行分析、有酸素運動の呼吸ガス分析、トルクマシンを用いた関節モーメント測定、重心動揺計を用いた身体重心位置の測定、筋電図を用いた立ち上がり動作の分析、筋電図を用いた上肢運動の計測、坐位・立位保持の重心動揺計測、観察による各種の手の運動分析、基本動作の観察による動作分析。

学習目標(行動目標)

測定機器の測定原理が理解できる
 測定機器の操作が正しくできる
 測定データを目的に合わせて適切に処理できる
 測定結果の改訂を論理的に行える

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション1	福谷 保 大町 かおり 赤羽 勝司 山本 良彦 下田 浩一 阿部 裕一
2		オリエンテーション2	
3		動画による歩行分析	
4		〃	
5		有酸素運動の呼吸ガス分析	
6		〃	
7		トルクマシンを用いた関節モーメント測定	
8		〃	
9		重心動揺計を用いた身体重心位置の測定	
10		〃	
11		筋電図を用いた立ち上がり動作の分析	
12		〃	
13		まとめの講義1	
14		まとめの講義2	
15		まとめの講義3	

テキスト・参考図書	テキスト：内山 靖 他：計測法入門，協同医書出版 中村隆一，齋藤 宏：基礎運動学 医歯薬出版 参考書：なし
成績・評価の方法	レポート：80%、筆記試験：20%
その他（履修上の留意点）	各課題で服装などの準備物が異なる。事前に担当教員に確認しておくこと。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法概論Ⅰ（導入論）		
担当教員	金井 敏男		
配当年次	1年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

理学療法を学ぶにあたって、理学療法・理学療法士とは何か、その概略および理学療法と理学療法士の歴史的経過・現状と取り巻く社会環境と課題を理解し、将来像を展望する。また、理学療法士を目指す学生としての自己認識を深め、今後の学習の内容とその必要性・学び方を理解し、学習に向けての動機づけを促す。

具体的には、理学療法の概念・定義・歴史、リハビリテーションと理学療法の位置づけ、理学療法の法律、理学療法の過程、理学療法の対象、理学療法の方法、理学療法士の活動分野、理学療法士の資質と適性について学ぶ。

学習目標（行動目標）

1. 理学療法の概要が理解できる。
2. 理学療法士の資質適性が理解できる。
3. 理学療法の診療過程が理解できる。
4. 理学療法の対象と手段・方法が理解できる。
5. 理学療法の領域とチーム医療の重要性が理解できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/10	理学療法の概念・定義と歴史	金井 敏男
2	4/17	理学療法とリハビリテーション	〃
3	4/24	理学療法士の資質・適性	〃
4	5/1	理学療法士の法律・制度	〃
5	5/8	理学療法の診療過程	〃
6	5/15	理学療法評価の意義と概要	〃
7	5/22	理学療法に必要な情報収集とその分析	〃
8	5/29	理学療法の対象Ⅰ（関節・筋・末梢神経）	〃
9	6/5	理学療法の対象Ⅱ（中枢神経系）	〃
10	6/19	理学療法の手段と方法Ⅰ（運動療法）	〃
11	6/26	理学療法の手段と方法Ⅱ（物理療法）	〃
12	7/3	理学療法の診療記録	〃
13	7/19	理学療法の領域と活動分野	〃
14	7/17	理学療法とチーム医療	〃
15	7/24	理学療法士の倫理	〃

テキスト・参考図書	テキスト：奈良 勲：理学療法概論 第4版 医歯薬出版 参考書：千住秀明監修：理学療法概論 第3版 九州神陵文庫
成績・評価の方法	評価の方法：期末試験100%
その他（履修上の留意点）	本科目は理学療法士を目指す者の導入編として学問体系と治療体系を理解し、理学療法を学ぶ決意を明確にするものである。さらに医療専門職としての自覚を創造する。事前学習は、テキスト、参考書の予習はもとより、病院・施設見学やボランティア活動・先輩や教員とのディスカッションなどに積極的に取り組み、日頃から理学療法の概要の認識に努める。事後学習は講義ノートを作成し、病院・施設見学やボランティア活動・先輩や教員とのディスカッションをさらに継続しつつ、理学療法体系と診療過程の理解を深め将来理学療法士として活動できるように決意と自覚を創造してほしい。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法概論Ⅱ（理学療法トピックス）		
担当教員	大町 かおり		
配当年次	4年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要（一般目標）			
<p>理学療法の学問体系と研究，理学療法教育，他職種とチームアプローチ，医療保険・介護保険・障害者総合支援法などの関連制度，組織，倫理，理学療法部門の管理運営などについて具体的に学ぶ。 また，理学療法領域の最新の展開状況を種々のトピックスを取り上げて紹介する。</p>			

学習目標（行動目標）
<p>就職を控え，今後の自分のキャリアを具体的にデザインできる。 上記に関し，必要な情報を自ら収集できる。</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション	大町 かおり
2		理学療法士とキャリアデザイン1-自己分析と適正	〃
3		理学療法士とキャリアデザイン2-先輩に聞く	〃
4		理学療法士とキャリアデザイン3-自分のキャリアをデザインする	〃
5		理学療法士とリーダーシップ論-1-組織で働く・多職種との協働	〃
6		理学療法士とリーダーシップ論-2-組織をまとめる	〃
7		理学療法士とリーダーシップ論-3-後輩の育成（実習生への対応）	〃
8		理学療法士と起業-1-起業に必要な知識	〃
9		理学療法士と起業-2-具体的な起業方法	〃
10		理学療法士と起業-3-グループワーク	〃
11		理学療法士とセルフメンテナンス-1-ストレスの対処法	〃
12		理学療法士とセルフメンテナンス-2-体調管理	〃
13		最新の情報-1-関与する医療制度の最新情報	〃
14		最新の情報-2-介護・福祉制度の最新情報	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキストおよび参考図書：授業時に提示する
成績・評価の方法	授業参加状況20%，レポート60%，発表20%
その他（履修上の留意点）	具体的に自分の将来を考えながら参加してください。 事前事後学修は，レポート課題を作成・提出することで行えるように構成しています。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法教育管理		
担当教員	金井 敏男		
配当年次	4年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

理学療法部門の管理運営、及び理学療法士としての人材像を理解することを目的とする。医療従事者として働く病院・施設等における組織と管理システムの特徴とその実際を理解する。また、臨床・教育・研究において理学療法部門を適正で効率的に運営するための課題と方法を理解する。そのうえで一般的な理学療法部門管理として、経営・人事・予算・物品・部門開設・チームワーク・危機管理などに関わる概念・倫理・制度・方法などを理解する。チームの一員としての自己の特性と課題を確認し、生涯学習の必要性を認識する。

学習目標(行動目標)

1. 一般的な管理とそのシステムについて理解できる。
2. 病院・施設の組織と管理システムが理解できる。
3. 診療報酬と施設基準の概略が理解できる。
4. 理学療法の業務とその流れが理解できる。
5. スタッフ・リーダー・指導者としての在り方を理解し、臨床実習や卒後の臨床で行動化できるようにする。
6. 教育・研究に対する動機づけとその実践に寄与できるように自己啓発できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		理学療法教育管理学総論(管理・教育の定義、基本的考え方、ホスピタリティ)	金井 敏男
2		管理の沿革、管理計画、組織の構造と種類	〃
3		病院組織と理学療法部門の組織	〃
4		理学療法診療業務管理(施設基準と診療報酬の一般的事項)	〃
5		基本診療料の特殊診療料にかかわるリハビリテーションの施設基準	〃
6		特掲診療料にかかわる施設基準(疾患別リハビリテーション)	〃
7		理学療法士の係わるその他の診療料	〃
8		理学療法直接診療に関する業務管理(治療・診療記録・実績の集積・関連部門との連携)	〃
9		施設・備品の管理	〃
10		理学療法部門の人事・労務管理(スタッフとして必要なこと)	〃
11		理学療法部門の人事・労務管理(リーダーまたは指導者として必要なこと)	〃
12		教育業務管理(部門内教育・対外的教育活動)	〃
13		研究業務管理(過程・体制・評価)	〃
14		経営管理(事業計画・収支計画)	〃
15		その他の管理(病院機能評価・医療監査・業務実績)	〃

テキスト・参考図書	テキスト：奈良 勲：理学療法概論 第5版 医歯薬出版 参考書：細田 多穂 他：理学療法士プロフェッショナルガイド 文光堂
成績・評価の方法	テーマ型のレポートによる評価100%
その他(履修上の留意点)	本科目は、一般的な教育管理と病院・施設における診療・教育・研究・経営管理について学び、理学療法士としてどうあるべきかを考え実践につなげるものである。事前学習として、日頃よりテキストや種々の自己啓発本を参考に医療技術者としての人間性を身につける努力をすること。また、臨床評価実習での経験を元に理学療法士としての資質の向上に努める。事後学習では、講義ノートを作成し内容を整理、理解し、自己分析と臨床現場における行動表現をするための指標としてほしい。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法研究法		
担当教員	熊本 圭吾		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

臨床実践とともに「研究」に取り組む事は、理学療法という専門領域を確立・発展させるためにも重要である。

本講義では理学療法における研究の現状を概観するとともに、医療科学研究法演習を見据えて、研究計画の立案および研究を進める上で必要となる基礎的知識について学ぶ。また、関連領域の研究論文を批判的に精読することを通して、科学的な態度を身につけることを目標とする。

学習目標(行動目標)

- ・研究や研究論文の意義が理解できる
- ・目的とする研究論文を探ることができる
- ・論文の基本的な読み方書き方を理解する
- ・先行研究をまとめて伝えることができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		論文の意義・研究の意義	熊本 圭吾
2		理学療法と実証的研究	〃
3		論文の読み方	〃
4		論文の読み方	〃
5		学術論文の探し方	〃
6		先行研究の理解・論文を紹介する	〃
7		先行研究の理解・論文を紹介する	〃
8		論文の作法	〃
9		先行研究の理解・系統的レビューの考え方	〃
10		レビューのための疑問・課題設定(グループワーク)	〃
11		プレゼンテーションの心得	〃
12		文献レビュー発表の準備(グループワーク)	〃
13		文献レビューの発表	〃
14		文献レビューの発表	〃
15		今後の研究に向けて	〃

テキスト・参考図書	テキスト：戸田山和久 新版 論文の教室—レポートから卒論まで、NHK出版 参考書：山田 剛史、林 創 大学生のためのリサーチリテラシー入門、ミネルヴァ書房 Stuart Porter著、武田 裕子訳 ここからはじめる研究入門 医学書院 石黒 圭 この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本、日本実業出版社 内山 靖 編 理学療法研究法、医学書院
成績・評価の方法	提出課題・発表100%
その他(履修上の留意点)	図書館利用が必要な課題が中心です。時間的な余裕を持って取り組んでください

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法研究法演習（卒業研究）		
担当教員	高嶋孝倫、福谷保、熊本圭吾、大町かおり、金井敏男、赤羽勝司、下坂充、阿部裕一		
配当年次	4年	配当学期	通年
年間授業回数	30回	単位数	2単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	演習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>本演習では理学療法研究法で学んだことをベースに、具体的なテーマを持って研究を実施する。研究目的とその対象に応じて仮説を立て、種々の調査や実験を行い、その結果を整理して得た検証の成果を考察する。これを通して、医療従事者としての広い視野を養い、様々な疑問や問題に対する問題解決能力を身につける。また、研究成果を口頭で発表し、論文にまとめる。以上を通じて、発表技術と科学的論文の作成方法を体得させる。</p>			

学習目標（行動目標）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究疑問を明確にし研究テーマを設定できる ・ 研究テーマに沿って先行研究を集めることができる ・ 研究計画を立て、計画に沿って研究を進めることができる ・ 結果を解析し論理的に考察ができる ・ 研究をまとめ、発表し、卒業論文にまとめることができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		担当教員の指導により、原則として2～3人のグループで研究を行う	
2			
3			
4		詳細については改めて連絡する	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

テキスト・参考図書	テキスト：指定しない 参考書：指定しない
成績・評価の方法	課題（口頭発表・論文）80%、参加態度20%
その他（履修上の留意点）	各担当教員の指導を十分に受けた上で、探究心を持ち、実証的に取り組むこと

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	病態運動学 I		
担当教員	大町 かおり		
配当年次	2年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

運動学や運動学実習で学んだ正常な身体運動の基礎知識と分析技術をもとに、主に支持基底面と重心、各関節の動き、各関節に作用する外力と内力による関節モーメント、筋による制御などの観点から正常動作の機序を再学習する。そのうえで、主な関節の関節可動域制限や筋力低下による動作障害の基本的な機序を学び、症例の基本動作を運動学的に分析し、問題点の抽出と治療計画に応用可能となることを目標とする。対象とする動作として、平地歩行、椅子からの立ち上がり動作、端座位・立位姿勢について分析方法を学ぶ。

学習目標(行動目標)

ヒトの日常的な運動および動作を運動学的・運動力学的に理解し、具体的に表現できる方法を知り、他者に伝えることができる。(表現方法は、口頭、同じ運動・動作の模倣、図示での表現、および文章での表現の4種)

特に、病態運動学 I では「姿勢観察」「姿勢分析」の基礎を学び実践できるようになる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		動作分析学・総論-1: 運動と動作, 体位と構え	大町 かおり
2		動作分析学・総論-2: 支持基底面と重心, 基本的な動作分析の表現方法	〃
3		姿勢観察と姿勢分析 姿勢観察-1 臥位-①	〃
4		姿勢観察と姿勢分析 姿勢観察-2 臥位-②	〃
5		姿勢観察と姿勢分析 姿勢観察-3 座位-①	〃
6		姿勢観察と姿勢分析 姿勢観察-4 座位-②	〃
7		姿勢観察と姿勢分析 姿勢観察-5 立位-①	〃
8		姿勢観察と姿勢分析 姿勢観察-6 立位-②	〃
9		姿勢観察と姿勢分析 姿勢クイズ-1 問題作成	〃
10		姿勢観察と姿勢分析 姿勢クイズ-2 解答確認	〃
11		姿勢観察と姿勢分析 姿勢分析-1 座位保持-①	〃
12		姿勢観察と姿勢分析 姿勢分析-2 座位保持-②	〃
13		動作観察と動作分析 動作観察-1 寝返り-①	〃
14		動作観察と動作分析 動作観察-2 寝返り-②	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：石井慎一郎：動作分析臨床活用講座，メジカルビュー社 および随時プリントを配布する。 参考書：中村隆一，他：基礎運動学，医歯薬出版， 中村隆一，他：臨床運動学，医歯薬出版 山岸茂則，編：臨床実践動きのとらえかた，文光堂
成績・評価の方法	レポート (30%) ・試験 (70%)
その他 (履修上の留意点)	講義→実習→演習という授業形態で毎回レポート提出があります。 予習復習を自主的に行いましょう。 また、授業には動きやすい服装 (Tシャツ・ジャージ等) で参加してください。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	病態運動学Ⅱ		
担当教員	大町 かおり		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

正常な身体運動の基礎知識と分析技術をもとに、症例の基本動作を運動学的に分析し、問題点の抽出と治療計画に応用可能となることを目標とする。病態運動学Ⅰで取り上げた動作の他に、さらに多様な動作として階段昇降、床からの立ち上がり動作、寝返り・起き上がり動作について分析方法を学ぶ。また、具体的な障害の事例として変形性膝関節症等の典型的加齢変性に伴う筋骨格系疾患を取り上げて、その分析方法を実践的に学ぶ。

学習目標(行動目標)

病態運動学Ⅱに引き続き、ヒトの日常的な運動および動作を運動学的・運動力学的に理解し、具体的に表現できる方法を知り、他者に伝えることができる(「動作観察」「動作分析」の基礎を学び実践できるようになる)。また、さまざまな疾患や外傷により生じる身体機能障害と異常運動との関連性を理解し、運動制御理論についての知識を深め、中枢神経障害や骨関節障害をもつ症例の基本動作を運動学的に分析し、問題点の抽出と治療計画に役立てられるようになる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		動作分析学・総論：病態運動学Ⅰの復習と実際に臨床実習で学んだ動作分析	大町 かおり
2		動作観察と動作分析 動作分析-1 椅子からの立ち上がり-①	〃
3		動作観察と動作分析 動作分析-2 椅子からの立ち上がり-②	〃
4		動作観察と動作分析 動作分析-3 椅子からの立ち上がり-③	〃
5		動作観察と動作分析 動作分析-4 さまざまな歩行-①	〃
6		動作観察と動作分析 動作分析-5 さまざまな歩行-②	〃
7		動作観察と動作分析 動作分析-6 さまざまな歩行-③	〃
8		症例から考える動作分析 ペーパーシェント-1 整形疾患-①	〃
9		症例から考える動作分析 ペーパーシェント-2 整形疾患-②	〃
10		症例から考える動作分析 ペーパーシェント-3 中枢疾患-①	〃
11		症例から考える動作分析 ペーパーシェント-4 中枢疾患-②	〃
12		疾患と動作分析 さまざまな疾患と動作の特徴-1	〃
13		疾患と動作分析 さまざまな疾患と動作の特徴-2	〃
14		疾患と動作分析 さまざまな疾患と動作の特徴-3	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：月城慶一，他：観察による歩行分析，医学書院。 および随時プリントを配布する 参考書：中村隆一，他：基礎運動学，医歯薬出版， 中村隆一，他：臨床運動学，医歯薬出版 山岸茂則，編：臨床実践動きのとらえかた，文光堂
成績・評価の方法	レポート(30%)・試験(70%)
その他(履修上の留意点)	講義→実習→演習という授業形態で毎回レポート提出があります。 予習復習を自主的に行いましょう。 また、授業には動きやすい服装(Tシャツ・ジャージ等)で参加してください。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法評価学Ⅰ（関節機能系検査）		
担当教員	赤羽 勝司		
配当年次	1年	配当学期	後期
年間授業回数	30回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

理学療法評価とは、理学療法という一連の過程の中で、各種情報収集、観察、面接、検査・測定などの方法を用いて得られた情報を整理・分析・考察することである。その上で、対象者の障害像を総体的に把握し、治療目標の設定や治療プログラムの立案に役立てることである。理学療法評価の目的・評価の流れなどの基礎的な知識を理解し、関節機能系検査である関節可動域の評価について理解し、測定方法の実際を習得する。

学習目標（行動目標）

理学療法評価に関する概要（目的や評価）を理解し、理学療法治療プログラムを立案するための評価の重要性を理解する。
関節可動域評価を理解し、測定技術を習得する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/28	理学療法評価総論 評価の基本概念	赤羽 勝司
2	9/24	理学療法評価総論 理学療法評価の方法	〃
3	10/1	〃 情報収集・観察・問診・検査・測定から統合と解釈	〃
4	10/5	関節可動域評価総論 (1)	〃
5	10/8	関節可動域評価総論 (2)	〃
6	10/15	関節可動域評価各論 股関節 (1)	〃
7	10/19	〃 股関節 (2)	〃
8	10/22	〃 股関節 (3)	〃
9	10/26	関節可動域評価各論 膝関節 (1)	〃
10	10/29	〃 膝関節 (2)	〃
11	11/2	関節可動域評価各論 足関節・足部 (1)	〃
12	11/5	〃 足関節・足部 (2)	〃
13	11/9	関節可動域評価各論 肩関節 (1)	〃
14	11/12	〃 肩関節 (2)	〃
15	11/16	〃 肩関節 (3)	〃
16	11/19	関節可動域評価各論 肘関節 (1)	〃
17	11/23	〃 肘関節 (2)	〃
18	11/26	関節可動域評価各論 前腕・手関節 (1)	〃
19	11/30	〃 前腕・手関節 (2)	〃
20	12/3	関節可動域評価各論 肩甲帯 (1)	〃
21	12/7	〃 肩甲帯 (2)	〃
22	12/10	関節可動域評価各論 体幹 (1)	〃
23	12/14	〃 体幹 (2)	〃
24	12/17	〃 体幹 (3)	〃
25	12/21	関節可動域評価各論 手指・足趾	〃
26	1/4	関節可動域評価の実施方法・手順	〃
27	1/7	関節可動域評価の実際 (1)	〃
28	1/14	〃 (2)	〃
29	1/18	実技まとめ (1)	〃
30	1/21	〃 (2)	〃

テキスト・参考図書	テキスト：松澤 正：理学療法評価学 第4版，金原出版 参考書：丸山仁司他編：ザ・ROM，アイベック 奈良勲編集：系統別・治療手技の展開，共同医書出版社 嶋田智明，金子 翼：関節可動障害，メディカルプレス Cynthia C.Norkin,D.Joyce White：関節可動域測定法，協同医書
成績・評価の方法	授業態度20%，実技試験40%，期末試験40%
その他（履修上の留意点）	実技を中心に授業を展開していきます。運動ができる服装で受講して下さい。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法評価学Ⅱ（筋機能系検査）		
担当教員	大町 かおり		
配当年次	1年	配当学期	後期
年間授業回数	30回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要（一般目標）			
<p>理学療法評価のなかでも基本的項目である筋力評価について学ぶ。筋力発揮のメカニズムや筋力低下の原因を理解した上で、徒手筋力検査法の方法論と技術を習得することが主な目的となる。具体的には、検査の目的・特徴・信頼性の理解、各関節運動の主動筋と共同筋の理解と代償運動の見極め、適切な検査手技の実施、判定基準と段階付けの理解ができることが目標となる。</p> <p>学習に当たっては、筋の起始・停止、支配神経、作用について把握できていることが必要である。</p>			

学 習 目 標（行 動 目 標）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 筋力評価の方法と原理を説明できる 2. 筋力評価を適切な技術と態度で実施できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1・2	9/24 9/28	オリエンテーション	大町 かおり
3・4	10/1 10/5	筋のつくりと収縮過程	〃
5・6	10/8 10/15	運動単位と筋力	〃
7・8	10/19 10/22	筋力評価の手順 MMTの歴史と原理	〃
9・10	10/26 10/29	MMTの実際（下肢－股関節）	〃
11・12	11/2 11/5	MMTの実際（下肢－股関節、膝関節）	〃
13・14	11/9 11/12	MMTの実際（下肢－足関節、足指）	〃
15・16	11/16 11/19	MMTの実際（体幹、頭頸部）	〃
17・18	11/23 11/26	MMTの実際（上肢－肩甲骨）	〃
19・20	11/30 12/3	MMTの実際（上肢－肩関節）	〃
21・22	12/7 12/10	MMTの実際（上肢－肘関節、前腕）	〃
23・24	12/14 12/17	MMTの実際（上肢－手関節、手指）	〃
25・26	12/21 1/7	MMTの実際（顔面、咀嚼筋）	〃
27・28	1/4 1/14	MMTの実際（まとめ）	〃
29・30	1/18 1/21	実技総合演習（MMTの知識・技術の統合と実際）	〃

テキスト・参考図書	テキスト：津山 直一 訳：新・徒手筋力検査法 第9版，協同医書出版社 松澤 正：理学療法評価学 第2版，金原出版 参考書：千住秀明 他：理学療法評価法，神陵文庫 島田智明：理学療法評価 そのクリニカルアプローチ，メディカルプレス
成績・評価の方法	小テスト20%，総合演習の遂行状況20%，筆記試験60%
その他（履修上の留意点）	各回の始めに、整形外科疾患の基礎知識に関する小テストを実施する。代表的な整形外科疾患について学んでおくことが望ましい。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法評価学Ⅲ（各種検査と測定）		
担当教員	川井 伸夫		
配当年次	2年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要（一般目標）			
<p>講義の概要：身体計測，知覚検査，反射検査，筋トーン検査，運動協調性検査，中枢性麻痺の検査，呼吸・循環機能検査，整形外科的検査，発達検査，動作分析など（関節可動域測定，筋力検査，高次脳機能検査，ADL評価以外）の検査・測定の目的と方法を学ぶ。また，OSCEを用いて臨床的評価能力が身につけていることを確認する。</p>			

学習目標（行動目標）
<p>各種検査測定の目的を理解することができる 各種検査測定の方法を理解し、実践することができる</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		一般的評価事項（問診，バイタルサインなど）	川井 伸夫
2		形態測定（四肢長，周径，など）	〃
3		体性感覚検査	〃
4		疼痛の評価	〃
5		反射検査	〃
6		運動協調性検査	〃
7		主な整形外科疾患検査	〃
8		筋緊張検査	〃
9		片麻痺運動機能検査	〃
10		バランス・平衡反応	〃
11		発達検査	〃
12		呼吸循環機能検査	〃
13		姿勢観察・動作分析	〃
14		実症例による検査・測定実習，統合と解釈	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト：松澤 正：理学療法評価学 第4版，金原出版株式会社 参考書：奈良 勲監修：標準理学療法学専門分野 理学療法評価学，医学書院 嶋田智明：理学療法評価 そのクリニカルアプローチ，メディカルプレス 奈良 勲，内山 靖：図解 理学療法検査測定ガイド，文光堂 米本恭三他：リハビリテーションにおける評価Ver. 2， クリニカルリハビリテーション別冊，医歯薬出版 田崎義昭，斉藤佳雄：ベッドサイドの神経の診かた，南山堂，2004</p>
成績・評価の方法	筆記試験50%、実技試験（OSCE）50%
その他（履修上の留意点）	事前事後学習について、特に復習に力を入れ、実技練習に取り組んでください。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法評価学Ⅳ（模擬症例・基礎）		
担当教員	福谷 保		
配当年次	2年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>理学療法は評価に始まり評価に終わるといわれる。理学療法の実施過程において、評価は治療目標の設定、治療方針、治療方法の選択に直結する重要な事項である。本講義では、理学療法評価の過程を模擬症例を通して実践的に理解することを目的とする。具体的には主に整形外科疾患の模擬症例を通して、疾患の症状や経過を理解した上で、評価計画の立案、評価の実施、評価結果の統合と解釈を行う。</p>			

学習目標（行動目標）
<p>模擬症例の疾患特性を踏まえて、理学療法評価を計画できる 理学療法評価の結果を論理的に解釈できる 評価結果をレポートにまとめられる</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション、理学療法評価の目的、意義、流れについて再確認	福谷 保
2		今までに学習した評価項目の確認と分類	〃
3		理学療法評価の計画はどう立てるか？	〃
4		理学療法評価の結果をどうまとめるか？	〃
5		評価レポートの書き方	〃
6		模擬症例実習1 模擬症例の提示と評価計画の立案	〃
7		評価の実施	〃
8		評価結果のまとめ（1）	〃
9		評価結果のまとめ（2）	〃
10		評価レポート作成	〃
11		模擬症例実習2 模擬症例の提示と評価計画の立案	〃
12		評価の実施	〃
13		評価結果のまとめ（1）	〃
14		評価結果のまとめ（2）	〃
15		評価レポート作成	〃

テキスト・参考図書	テキスト：鶴見 隆正、辻下 守弘編：臨床実習とケーススタディ 医学書院 参考書：
成績・評価の方法	レポート：50%、筆記試験：50%
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法評価学Ⅴ（高次脳機能検査）		
担当教員	松房 利憲		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

講義と実習を通じて、理学療法における高次脳機能障害の評価と神経学的検査方法の意義と実際について学習する。神経学的検査法では、脳神経の診かた、意識障害、記憶障害、注意障害、認知機能を扱う。高次脳機能障害として失認、失行、失語、遂行機能障害を扱う。脳神経検査ではⅠ～ⅩⅡそれぞれの神経の解剖学的基本事項の確認、検査の目的と意義、検査方法を理解し、実際にその検査を実施できるようにする。また、検査結果の判定、解釈について理解する。高次脳機能障害の評価については、病巣との関連から特徴的な症状や病態を理解し、日常の場面で起こりうる問題となる行動について捉える。代表的な評価法を紹介し、手順や結果の判定について学ぶ。

学習目標（行動目標）

1. 神経学的検査法の基礎を説明でき、病歴が取れる。
2. 意識レベルを診ることができる。
3. 脳神経検査を行える。
4. 記憶障害、注意障害、認知機能を説明でき、評価が行える。
5. 失認、失行、失語、遂行機能を説明でき、評価が行える。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		高次脳機能障害とは	松房 利憲
2		神経学的検査法の基礎・病歴の取り方	〃
3		意識レベルの診かた	〃
4		脳神経の診かた	〃
5		〃	〃
6		〃	〃
7		〃	〃
8		記憶障害の診かた	〃
9		注意障害の診かた	〃
10		遂行機能障害の診かた	〃
11		失行の診かた	〃
12		失語の診かた	〃
13		失認の診かた	〃
14		半側空間無視の診かた	〃
15		認知症の診かた	〃

テキスト・参考図書	テキスト：石合純夫：高次脳機能障害学，医歯薬出版 参考書：松澤 正：理学療法評価学，金原出版 岡庭 豊：病気が見える vol. 7 脳・神経，メディックメディア
成績・評価の方法	参加度および課題レポート20% 期末試験80%
その他（履修上の留意点）	生理学，解剖学の脳神経を復習しておくこと

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法評価学VI（症例の評価演習）		
担当教員	大町 かおり		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習

授業科目の概要（一般目標）

この講座においては、学生が相互に模擬症例となり評価のシミュレーションを行い、ICIDHおよびICFの考えに基づき理学療法評価全体の流れを学んでいく。その中で運動機能評価を中心に、得られた情報を統合・解釈し、問題点を抽出し、目標を設定し、理学療法プログラムを立案し、考察するという具体的な理学療法評価の組み立てを理解する。また、複数の実症例をグループで評価する過程で、これまでに培った知識・技術を実践する。提出されたレジュメに対して可能な限り個別にフィードバックを行い、理学療法評価の理解を深める。

学習目標（行動目標）

臨床実習に必要な知識・技術・態度や学修した専門的な知識を発展、統合させて多角的に理解できる準備をする。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション	大町 かおり
2		理学療法評価演習 1	〃
3		理学療法評価演習 2	〃
4		理学療法評価演習 3	〃
5		理学療法評価演習 4	〃
6		理学療法評価演習 5	〃
7		実症例評価演習準備	〃
8		実症例評価演習 1	〃
9		実症例評価演習準備	〃
10		実症例評価演習 2	〃
11		実症例評価演習準備	〃
12		実症例評価演習 3	〃
13		実症例評価演習準備	〃
14		実症例評価演習 4	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：随時資料を配布する。 参考書： 松澤 正：理学療法評価学 第4版，金原出版株式会社 内山 靖編：標準理学療法学専門分野 理学療法評価学 第2版，医学書院 細田多穂：理学療法ハンドブック ケーススタディ，協同医書出版 など
成績・評価の方法	OSCE (Objective Structured Clinical Examination；客観的臨床能力試験) 50%および知識確認試験50%。
その他（履修上の留意点）	授業時に配布される資料について、特に復習に力を入れて学修してください。授業は毎回白衣で参加してください。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	運動療法学 I (運動療法の概要)		
担当教員	大町 かおり		
配当年次	2年	配当学期	通年
年間授業回数	30回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

運動療法は、理学療法の中において大きな柱として位置づけられており、解剖学、運動学、生理学などの専門基礎知識を背景に、理学療法士が得意とする分野である。この授業においては、基本的な運動療法を適切に行うための知識と技術を習得することを目的とする。総論として、運動療法の定義、歴史、対象、理論、種類、機器について学び、各論として、基本的な各種運動療法(関節可動域運動、筋力増強運動、持久力増強運動、協調性運動、その他の領域の運動療法)の理論と技術を学ぶ。

学習目標(行動目標)

理学療法を実践するために必要な基礎的知識・技術を修得するために

1. 運動療法の基本的概念を理解し説明できる。
2. 運動療法の基本的技術を理解し説明できる。
3. 各種運動療法の禁忌について説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション、運動療法概論	大町 かおり
2		組織の病態生理と修復-1	//
3		組織の病態生理と修復-2	//
4		関節の構造と機能、関節可動域制限の病態	//
5		運動の種類、筋の収縮様式	//
6		関節可動域運動-1	//
7		関節可動域運動-2	//
8		ストレッチング-1	//
9		ストレッチング-2	//
10		ストレッチング-3	//
11		関節モビライゼーション-1	//
12		関節モビライゼーション-2	//
13		関節モビライゼーション-3	//
14		器具による関節可動域運動	//
15		まとめ	//
16		筋力増強の基礎理論-1	大町 かおり
17		筋力増強の基礎理論-2	//
18		筋力増強運動-1	//
19		筋力増強運動-2	//
20		徒手による筋力増強運動-1	//
21		徒手による筋力増強運動-2	//
22		徒手による筋力増強運動-3	//
23		Closed kinetic chainにおける筋力増強運動	//
24		腰部安定化機構における筋力増強運動	//
25		肩関節安定化機構における筋力増強運動	//
26		持久力増強運動-1	//
27		持久力増強運動-2	//
28		協調性運動障害の運動療法	//
29		神経生理学的アプローチ	//
30		まとめ	//

テキスト・参考図書	テキスト：柳澤 健：運動療法学 改訂第2版，金原出版 参考書：「理学療法士のための運動療法」，金原出版 他
成績・評価の方法	期末試験60%，レポート15%，小テスト15%，ポートフォリオ10%
その他(履修上の留意点)	この授業は各疾患の運動療法の基礎となる授業です。 予習よりも復習に力を入れて学修しましょう。 また、実技を伴う授業であるため動きやすい服装で参加してください。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	運動療法学Ⅱ（関節モビライゼーション）		
担当教員	阿部 裕一		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要（一般目標）			
<p>各種治療手技の内、徒手療法として関節モビライゼーションの基本概念と基礎技術を習得する。骨運動学と関節運動学の知識を深め、関節モビライゼーションの原理を理解する。また、運動療法を実施していくための関節モビライゼーションの基本的な手技を習得する。</p>			

学習目標（行動目標）
<p>徒手療法の基本的な手技を理解することができる。 基本的な手技を実践することができる。</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		徒手療法 総論	阿部 裕一
2		骨運動学と関節運動学	〃
3		関節モビライゼーションの実際 肩の関節 1	〃
4		〃 〃 2	〃
5		〃 肘・前腕の関節	〃
6		〃 手・手指の関節	〃
7		〃 上肢復習 1	〃
8		〃 上肢復習 2	〃
9		〃 股関節 1	〃
10		〃 股関節 2	〃
11		〃 膝関節	〃
12		〃 足関節 1	〃
13		〃 足関節 2	〃
14		〃 下肢復習	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト：柳澤 健：運動療法学 改訂第2版，金原出版 適宜資料を配布する。</p>
成績・評価の方法	<p>試験70%、授業態度30%</p>
その他（履修上の留意点）	<p>積極的に実技に参加してください。 事前事後学習に取り組み、教科書および配布資料をよく読んでください。</p>

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	運動療法学Ⅲ（PNFの理論と技術）		
担当教員	今井 基次		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要（一般目標）			
PNFの基本概念と基礎技術を理解し、機能評価に役立て、さらに治療プログラムの立案に応用できることを目標とする。実技演習を通して、疾患別の応用が適切に実施できるようになることを身につける。			

学習目標（行動目標）
1. PNFの概念・定義を説明できる。 2. PNF促通要素の根拠を説明できる。 3. PNFで用いられる基本手技を健常者に対して実施できる。 4. PNFで用いられる特殊テクニックを健常者に対して実施できる。 5. 評価と治療プログラムを立案できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		PNF理論 定義・原理・生理学的根拠・促通・ビデオによる臨床応用	今井 基次
2		PNF運動パターン 上肢・下肢・下部体幹・頸部運動パターンなどの講義と実習	〃
3		促通の要素 用手接触・指示と意思疎通・筋伸張の講義と実習	〃
4		促通の要素 牽引・圧縮・最大抵抗・正常なタイミングの講義と実習	〃
5		促通の要素 強化（強調のタイミング・組み合わせパターン）・視覚刺激の講義	〃
6		特殊テクニック リズムック イニエーション・リブリーション・反復収縮・の講義と実習	〃
7		特殊テクニック スロー リバーサル・リズムックスダイレイゼーションの講義と実習	〃
8		特殊テクニック ホールド リラックス・コントラクト リラックスの講義と実習	〃
9		PNFに関する研究 反応時間・H波・脳波などの研究	〃
10		臨床応用 臨床応用における注意点の講義と実習	〃
11		治療訓練の進め方 リスク管理・呼吸訓練	〃
12		治療訓練の進め方 人間の発達の側面における重心の位置と支持基底面の広さの関係	〃
13		治療訓練の進め方 脳卒中片麻痺への応用	〃
14		治療訓練の進め方 脊髄損傷四肢麻痺への応用	〃
15		まとめ 根拠のある神経筋促通法	〃

テキスト・参考図書	テキスト：理学療法ハンドブック 改訂第4版 第2巻治療アプローチ 第38章PNFアプローチ 協同医書出版 参考書：PNFマニュアル 改訂第3版 南江堂
成績・評価の方法	期末試験100%
その他（履修上の留意点）	毎回、実習を行うので運動しやすい服装。スニーカー。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	運動療法学Ⅳ（各種治療技術）		
担当教員	川井 伸夫		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要（一般目標）			
<p>古典的運動療法，神経発達学的アプローチ，認知運動療法等の各種治療手技を用いて臨床と治療を行っている理学療法士から実技を学ぶ。また，それぞれの治療手技における共通点と相違点を理解する。</p>			

学 習 目 標（行 動 目 標）
<p>1. 運動療法における各種治療手技を理解し、それぞれの共通点と相違点を説明できる。 2. 代表的な治療法については適切に実施できる。</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		各種治療手技概説	川井 伸夫
2		古典的運動療法 1	〃
3		古典的運動療法 2	〃
4		ボイタ法 1	〃
5		ボイタ法 2	〃
6		ボバース・コンセプト 1	〃
7		ボバース・コンセプト 2	〃
8		認知運動療法 1	〃
9		認知運動療法 2	〃
10		感覚統合療法 1	〃
11		感覚統合療法 2	〃
12		動作を用いた運動療法 1	〃
13		動作を用いた運動療法 2	〃
14		最近のメディアで取り上げられた運動療法 1	〃
15		最近のメディアで取り上げられた運動療法 2	〃

テキスト・参考図書	テキスト：特に用いない 参考書：細田多穂：理学療法ハンドブック改訂第4版、共同医書出版
成績・評価の方法	ショートレポート50%、実技演習への参加態度50%
その他（履修上の留意点）	演習が中心になるので、ユニフォームまたは運動しやすい服装で参加すること。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	物理療法学 I (表在温熱・力学的治療)		
担当教員	下坂 充		
配当年次	2年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

最初に物理療法学の概論として、各治療手段の物理学的特性を学ぶ。さらに、物理療法の対象となる疾患・障害の概要と物理療法が生体に与える生理学的影響の概要を学ぶ。その上で、物理療法の適応・禁忌および注意事項の基礎を確認する。

各論として、表在温熱・寒冷療法、牽引・圧迫療法の理論と実際について学ぶ。各治療機器を用いた体験実習として、治療者と被験者の両者を経験し、治療時の生体反応を簡便な計測機器を用いて確認を行った後、得られたデータに基づき、その意義づけの検討を口頭発表と討論を通して行い、臨床に应用可能な判断能力を身につける。

学習目標(行動目標)

1. 表在温熱・寒冷療法、牽引・圧迫療法の特徴を踏まえ、適応・禁忌を考慮した上で、治療目的に応じて基本的な治療手技を行える。
2. 表在温熱・寒冷療法、牽引・圧迫療法の実施に伴う種々の人体への影響を評価して、適切で基本的な対応を行える。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション, 物理療法概論	下坂 充
2		物理的エネルギー 総論	〃
3		物理的エネルギー 総論, 波の基礎, 生体の電気現象と通電	〃
4		物理療法の対象となる病態 総論	〃
5		表在性温熱・寒冷療法 総論	〃
6		ホットパック, パラフィン 各論	〃
7		寒冷療法 各論	〃
8		牽引療法 総論	〃
9		圧迫療法, 物理療法機器実習のオリエンテーション	〃
10		物理療法機器実習 (ホットパック, パラフィン, 寒冷療法, 頸椎・腰椎牽引)	〃
11		〃 (〃)	〃
12		〃 (〃)	〃
13		〃 (〃)	〃
14		機器実習のフィードバック	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：渡部一郎訳：EBM物理療法 原著第3版, 医歯薬出版, 2010 参考書：網本 和編：標準理学療法 物理療法学 第3版, 医学書院, 2008 細田多穂監修：物理療法学テキスト, 南江堂, 2008 松澤 正監修：物理療法学, 金原出版, 2008 沖田 実編：-理学療法学テキストIX-物理療法第2版, 神陵文庫, 2009
成績・評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験要件：授業回数の2/3以上の出席を要する。 ・成績評価：期末試験 60点以上を合格とする。
その他(履修上の留意点)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書以外に当日配付資料あり。配付資料も学習に活用する。 ・実習時は指定された服装等を準備して参加する。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	物理療法学Ⅱ（光線・水治・超音波療法）		
担当教員	下坂 充		
配当年次	2年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

物理療法手段の各論として、水が身体に与える生理学のおよび力学的影響に関して学ぶ。さらに光線領域を中心とした電磁波の基本的性質と超音波の物理学的特性を学ぶ。その上で、水治療法、光線療法、超音波療法の具体的治療手段の実際について学ぶ。各治療機器を用いた体験実習として、治療者と被験者の両者を経験し、治療時の生体反応を簡便な計測機器を用いて確認を行った後、得られたデータに基づき、その意義づけの検討を口頭発表と討論を通して行い、臨床に应用可能な判断能力を身につける。

学習目標（行動目標）

1. 水治療法、光線療法、超音波療法の特徴を踏まえ、適応・禁忌を考慮した上で、治療目的に応じて基本的な治療手技を行える。
2. 水治療法、光線療法、超音波療法の実施に伴う種々の人体への影響を評価して、適切で基本的な対応を行える。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		水治療法 総論	下坂 充
2		水治療法 各論	〃
3		水治療法実習 オリエンテーション	〃
4		水治療法実習（渦流浴、気泡浴、全身浴、プール浴）	〃
5		〃（ 〃 ）	〃
6		水治療法実習のフィードバック	〃
7		超音波療法 総論と各論	〃
8		光線療法 総論と各論	〃
9		物理療法機器実習（超音波療法、光線療法）のオリエンテーション	〃
10		物理療法機器実習（超音波療法、光線療法）	〃
11		〃（ 〃 ）	〃
12		〃（ 〃 ）	〃
13		〃（ 〃 ）	〃
14		物理療法機器実習のフィードバック	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：渡部一郎訳：EBM物理療法 原著第3版，医歯薬出版，2010 参考書：網本 和編：標準理学療法 物理療法学 第3版，医学書院，2008 細田多穂監修：物理療法学テキスト，南江堂，2008 松澤 正監修：物理療法学，金原出版，2008 沖田 実編：-理学療法学テキストⅨ-物理療法第2版，神陵文庫，2009
成績・評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末試験要件：授業回数の2/3以上の出席を要する。 ・ 成績評価：期末試験 60点以上を合格とする。
その他（履修上の留意点）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書以外に当日配付資料あり。配付資料も学習に活用する。 ・ 実習時は指定された服装等を準備して参加する。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	物理療法学Ⅲ（電気療法・ジアテルミー）		
担当教員	下坂 充		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

物理療法手段の各論として、電気療法、ジアテルミーの理論と実際を学ぶ。電気現象と電磁波が有する物理的特性の基礎を学び、それが身体に与える生理学的影響を学ぶ。その上で、電気療法、電磁波療法の具体的治療手段の実際について学ぶ。各治療機器を用いた体験実習として、治療者と被験者の両者を経験し、治療時の生体反応を簡便な計測機器を用いて確認を行った後、得られたデータに基づき、その意義づけの検討を口頭発表と討論を通して行い、臨床に応用可能な判断能力を身につける。

さらに、物理療法における臨床判断分析の基礎および根拠に基づいた理学療法実践の基礎的概念を学ぶ。

学習目標（行動目標）

1. 電気療法、ジアテルミーの特徴を踏まえ、適応・禁忌を考慮した上で、治療目的に応じて基本的な治療手技を行える。
2. 電気療法、ジアテルミーの実施に伴う種々の人体への影響を評価して、適切で基本的な対応を行える。
3. 物理療法における臨床判断および根拠に基づいた理学療法実践の基礎について説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		物理療法の選択と根拠	下坂 充
2		電磁的エネルギー 総論	〃
3		電気療法、ジアテルミー 総論	〃
4		電気診断 総論	〃
5		電気診断、筋電図バイオフィードバック 総論	〃
6		電気診断、筋電図バイオフィードバック 各論とデモンストレーション	〃
7		電気療法 各論（TES, FES）	〃
8		電気療法 各論（TENS, 直流通電）	〃
9		電気療法 各論（干渉波, その他）	〃
10		ジアテルミー各論と実習オリエンテーション	〃
11		物理療法機器実習（電気療法, ジアテルミー）	〃
12		〃（ 〃 ）	〃
13		〃（ 〃 ）	〃
14		〃（ 〃 ）	〃
15		機器実習のフィードバック	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト：渡部一郎訳：EBM物理療法 原著第3版，医歯薬出版，2010</p> <p>参考書：網本 和編：標準理学療法 物理療法学 第3版，医学書院，2008</p> <p>細田多穂監修：物理療法学テキスト，南江堂，2008</p> <p>松澤 正監修：物理療法学，金原出版，2008</p> <p>沖田 実編：-理学療法学テキストⅨ-物理療法第2版，神陵文庫，2009</p>
成績・評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末試験要件：授業回数の2/3以上の出席を要する。 ・ 成績評価：期末試験 60点以上を合格とする。
その他（履修上の留意点）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書以外に当日配付資料あり。配付資料も学習に活用する。 ・ 実習時は指定された服装等を準備して参加する。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	物理療法学Ⅳ（マッサージ）		
担当教員	赤羽 勝司		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

マッサージに関する基礎的な技術と実践的な知識を習得し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を養う。具体的には、マッサージの意義・生体作用、マッサージの基本手技、身体各部のマッサージ施術法、運動器疾患に対するマッサージ施術法、スポーツマッサージの基礎と応用について、実習を通してそれぞれの技術を習得する。

学習目標（行動目標）

人体の筋組織を触診し、筋や筋間を触知できる技術を習得する。さらに触診術を高めた上で、マッサージの基本手技、およびスポーツマッサージの手技を習得する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		マッサージの意義、生体作用・マッサージの基本手技	赤羽 勝司
2		身体各部の触診・マッサージ・スポーツマッサージ 頸部(1)	〃
3		〃	〃
4		〃	〃
5		〃	〃
6		〃	〃
7		〃	〃
8		〃	〃
9		〃	〃
10		〃	〃
11		〃	〃
12		〃	〃
13		〃	〃
14		〃	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：プリント 参考書：大谷素明／クリニカルマッサージひと目でわかる筋解剖学と触診・治療の基本テクニック 増田雄一／山本利春著：スポーツマッサージ，新星出版社 荒川規矩男／川合忠一編集：運動療法の実際，南江堂 市川宣恭編集：スポーツ傷害のためのスポーツ外傷・障害，南江堂 黒田善雄編集：実践スポーツクリニックスポーツのためのセルフケア，文光堂
成績・評価の方法	授業態度30%，期末試験70%
その他（履修上の留意点）	1・2年生で修得した「解剖学実習（筋系，体表解剖）」の技術を基本に，さらに触診術を高めていきます。必ず復習し整理しておきましょう。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法系義肢装具学		
担当教員	高嶋 孝倫		
配当年次	3年	配当学期	通年
年間授業回数	30回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

義肢装具の種類について用語の徹底から基本構成, さらには使用目的に適応した機能を教授する。基本的, かつ使用頻度の高い装具について着目し, 理学療法士が関与することが多い下肢装具, 義足に重点を置く。国家試験に出題される歴史的な義肢装具についても触れる。義肢装具は体表から力を架ける/受ける事によって成り立たつ事, 材料の知識は理学療法士にとっても必要な事から, 随所に基礎力学, 材料学の解説を含めて教授する。

学習目標(行動目標)

1. 義肢装具の種類と支給体系を説明できる。
2. 義肢装具の基本構造と動作原理を理解し説明できる。
3. 義足歩行について体験的に学ぶ。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		総論：義肢装具の種類と適応, 処方の流れ	高嶋 孝倫
2		関係法規：義肢装具の支給体系と関係法規	〃
3		義足総論：下肢切断と義足, 義足ソケットの機能, 義足の構成要素	〃
4		下腿義足：ソケット, 足部, 下腿義足歩行, 異常歩行	〃
5		大腿義足：ソケットの種類, アライメント概念, 義足膝継手	〃
6		大腿義足：大腿義足歩行, ダイナミックアライメント調整と異常歩行	〃
7		義手総論：上肢切断と義手, 義手ソケットの機能, アライメント概念	〃
8		能動義手：上腕及び前腕能動義手の調整方法, 筋電義手	〃
9		装具総論：装具の種類と目的, 用語体系	〃
10		下肢装具：下肢装具の種類と構成	〃
11		短下肢装具：短下肢装具の種類と機能, 構成要素と足継手	〃
12		短下肢装具：短下肢装具の製作方法(実習)	〃
13		短下肢装具：短下肢装具の製作方法(実習)	〃
14		短下肢装具：短下肢装具の剛性について	〃
15		短下肢装具：麻痺歩行と短下肢装具	〃
16		長下肢装具：長下肢装具の種類と構成, 膝継手, 適応	高嶋 孝倫
17		長下肢装具：対麻痺装具, ベルテス病装具	〃
18		膝装具：膝装具の種類と構成, 膝継手の変遷	〃
19		股装具：股装具の種類と構成, 先天股脱装具	〃
20		靴型装具：足の変形と矯正, 一般靴と靴型装具, 靴型装具の構成要素	〃
21		足底装具：足底圧分散の概念, 靴型装具と足底装具の適応	〃
22		疾患別適応：脳性麻痺と下肢装具	〃
23		疾患別適応：二分脊椎と下肢装具	〃
24		上肢装具：上肢装具の種類と適応, 神経疾患に対する上肢装具	〃
25		上肢装具：骨・関節疾患に対する上肢装具	〃
26		体幹装具：体幹装具の種類と適応, 体幹装具の基本構成	〃
27		頸椎装具：頸椎装具の種類と適応	〃
28		車いす：車いすの種類と構造	〃
29		福祉用具：自助具, 杖, 歩行器	〃
30		座位保持装置：座位姿勢と座位保持装置	〃

テキスト・参考図書	テキスト：日本整形外科学会, 日本リハビリテーション医学会監修 「義肢装具のチェックポイント 第8版」 医学書院 参考書：日本義肢装具学会監修「装具学」医歯薬出版
成績・評価の方法	中間試験・期末試験 70%, レポート 30%
その他(履修上の留意点)	実技的内容を含む

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	日常生活活動学 I (ADLの概念と評価)		
担当教員	福谷 保		
配当年次	2年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

ADLの概念について学び、理学療法士の視点からADLを評価する意義を理解する。BIやFIMなどの代表的なADL評価表の具体的手法を学び、評価表の持つ機能について考える。基本動作における正常について各動作の構成している運動を分析し、動作の特徴について理解を深める。基本動作を介助する方法を学び、実習を通じて習得する。また、ADLを支援するための様々な器具の構造や基本的な使用法を学び、指導が実践できるようになることを目的とする。

学習目標(行動目標)

ADLの概念を説明できる
 基本動作を運動学的に分析できる
 基本的な動作介助ができる
 ADL評価表の目的と意義が説明できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		ADLの概念と範囲	福谷 保
2		ADLと運動学	〃
3		寝返り動作の特徴	〃
4		起き上がり動作の特徴	〃
5		起居動作の介助と指導	〃
6		立ち上がり動作の特徴	〃
7		立ち上がり動作の介助と指導	〃
8		移乗動作の特徴	〃
9		移乗動作の介助と指導	〃
10		リフティング	〃
11		車いすの種類と基本構造	〃
12		歩行補助器具の種類と基本構造	〃
13		ADLの定量的評価	〃
14		ADL評価の実際	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：橋元隆ほか：日常生活動作（ADL）第2版，神稜文庫 木村哲彦ほか：新イラストによる安全な動作介助のてびき 第2版，医歯薬出版 参考書：柳澤 健：運動療法学 改訂第2版，金原出版 大川嗣雄：車いす，医学書院 細田多穂：日常生活活動学テキスト，南江堂
成績・評価の方法	授業態度：20%、筆記試験：80%
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	日常生活活動学Ⅱ（疾患障害別ADL）		
担当教員	川井 伸夫		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

日常生活活動学Ⅰでの学習をもとに、理学療法の対象となる主な疾患ごとに機能障害とADLの関連を整理し、ADL訓練や指導の実際について学習する。グループで一つの疾患を担当し、文献などを調べ、レジメにまとめて発表する。疾患の病理、病態、特徴から医学的治療を概説し、症状から障害構造を大まかに整理し、ADL動作の指導方法についてまとめる。運動学習の理論について学び、効果的なADL動作の獲得を促すためのプログラム計画を考える。モデルケースについてADL訓練計画を立てる。

学習目標（行動目標）

1. 疾患別の障害像と日常生活活動の特徴を理解し、基本的運動療法および補助誘導法を習得する。
2. 障害に合わせた生活環境を理解し、自助具、福祉用具の適応と使用方法を学習する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		脳血管障害；障害の特徴と日常生活動作指導	川井 伸夫
2		脳血管障害；寝返り，起き上がり，ベッドからの立ち上がり動作	〃
3		脳血管障害；ベッド車いす間の移乗動作	〃
4		脳血管障害；床からの立ち上がり動作，階段昇降と応用歩行	〃
5		脳血管障害；更衣，トイレ動作	〃
6		脊髄損傷；障害の特徴と日常生活動作指導	〃
7		脊髄損傷；ベッド上の寝返り，起き上がり，移動動作	〃
8		脊髄損傷；車いす上の除圧・移動動作，ベッド車いす間の移乗動作	〃
9		脳性まひ，RA；障害の特徴と日常生活動作指導	〃
10		股関節術後，下肢切断；障害の特徴と日常生活動作指導	〃
11		神経筋疾患・難病；障害の特徴と日常生活動作指導	〃
12		事例検討	〃
13		事例検討	〃
14		グループ発表	〃
15		グループ発表	〃

テキスト・参考図書	テキスト：未定 参考書：鶴見隆正 他編；日常生活活動学・生活環境学(第4版) 医学書院 細田多穂 監；日常生活活動学テキスト 南江堂 千住秀明 監；日常生活活動学(ADL)第2版 神陵文庫 伊藤利之 他編；新版日常生活活動学(ADL) 医歯薬出版
成績・評価の方法	期末試験80% レポート課題20%
その他（履修上の留意点）	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法治療学 I (脳血管障害)		
担当教員	金井 敏男		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習

授業科目の概要 (一般目標)

講義では、脳血管障害についてその概要、診断、臨床症状、評価法等の知識を再確認する。実技演習では基本動作に関わる評価と治療についてデモンストレーションし、それを踏まえて学生がペアとなって動作の誘導方法を学ぶ。また、脳血管障害の病期、経過と状況の変化に応じ、基本的理学療法治療とその応用性についても実技を通して理解する。患者の障害像を大まかに分類し、それぞれのケースでの操作、誘導する時のポイントを学ぶ。

学習目標 (行動目標)

1. 脳血管障害の概要が理解できる。
2. 脳血管障害の病態生理と機能・活動が理解できる。
3. 脳血管障害の運動療法の考え方が理解できる。
4. 脳血管障害の具体的運動療法を健常者で経験する。
5. 脳血管障害の健常者同士で行った運動療法の原理と感触を理解し患者との相違が創造できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		脳血管障害の概要 (定義・原因・分類)	金井 敏男
2		脳血管障害の画像診断	〃
3		脳血管障害の臨床症状の特徴	〃
4		脳血管障害の評価概要	〃
5		脳血管障害の理学療法治療の考え方	〃
6		脳血管障害の治療体系の概要	〃
7		脳血管障害の機能と基本動作の評価と治療の概要	〃
8		背臥位での頭部・上肢・下肢・体幹・骨盤の単独運動による治療操作	〃
9		背臥位からの寝返り・起き上がりと座位保持治療操作	〃
10		側臥位と腹臥位での頭部・上肢・下肢・体幹・骨盤の単独運動による治療操作	〃
11		長座位・横座位・四つ這いでの頭部・上肢・下肢・体幹・骨盤の単独運動による治療操作および姿勢動作変換	〃
12		膝立ち位・片膝立ち位での姿勢動作変換	〃
13		床面・端座位からの立ち上がりおよび立位にいたる姿勢動作変換とステップを用いた歩行前治療	〃
14		歩行治療とその操作法	〃
15		片麻痺患者の運動療法として単独操作から姿勢動作変換と歩行治療にいたる流れと総括	〃

テキスト・参考図書	テキスト：藤田 勉他監修：脳卒中最新線 第4版 医歯薬出版 参考図書：高木康行他著：脳卒中ビジュアルテキスト第2版 医学書院 中村隆一監修：脳卒中のリハビリテーション 新訂第2版 永井書店 福井園彦編：脳卒中その他の片麻痺 第2版 医歯薬出版 丸山仁司編：神経障害系理学療法学 医歯薬出版
成績・評価の方法	期末試験90%、実習への積極性10%
その他 (履修上の留意点)	本科目は中枢神経障害に対する運動療法の基本形ともいえるものである。したがって事前学習では神経生理学や運動生理学・運動力学とともに種々の中枢疾患の特徴や病態生理を整理し、その機能や活動を再確認しておくこと。 事後学習は、講義ノートを作成して内容を整理し、中枢障害に対する運動療法の考え方と治療原理を確認する。また臨床実習や卒後の臨床にあたり、自身の考えと根拠を反映した技術が駆使できるように備える。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法治療学Ⅱ（運動器障害）		
担当教員	赤羽 勝司		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>運動器疾患（整形外科系）の機能障害及び脊髄損傷や関節リウマチに関する理学療法評価と治療技術の基本を理解する。その中で、各疾患を想定した理学療法評価のポイントを重点的に理解し、標準的な治療の概念について理解を深める。</p>			

学習目標（行動目標）
<p>運動器疾患及び脊髄損傷や関節リウマチに関するの機能障害を整理し、理学療法を実施する上での評価内容と方法を習得する。評価内容から機能障害を臨床推論し、治療技術の基本を理解する。</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		整形外科疾患の理学療法概論	赤羽 勝司
2		肩関節周囲疾患に対する理学療法(1)	〃
3		肩関節周囲疾患に対する理学療法(2)	〃
4		上肢疾患に対する理学療法	〃
5		股関節疾患に対する理学療法(1)	〃
6		股関節疾患に対する理学療法(2)	〃
7		膝関節疾患に対する理学療法(1)	〃
8		膝関節疾患に対する理学療法(2)	〃
9		足関節・足部疾患に対する理学療法	〃
10		頸椎・頸部疾患の理学療法	〃
11		脊髄損傷に対する理学療法治療(1)	〃
12		脊髄損傷に対する理学療法治療(2)	〃
13		関節リウマチに対する理学療法(1)	〃
14		関節リウマチに対する理学療法(2)	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト：奈良 勲監修：標準理学療法学 骨関節理学療法学，医学書院 参考書：山寄 勉ほか：整形外科理学療法の理論と技術，メディカルビュー社 富士 武史監修：整形外科疾患の理学療法 改訂第2版，金原出版株式会社 林 典雄他ほか：整形外科運動療法ナビゲーション 上肢，下肢・体幹， メディカルビュー社 柳澤 健ほか：PT臨床実習ルートマップ，メディカルビュー社</p>
成績・評価の方法	授業態度10%，小テスト10%，期末試験80%
その他（履修上の留意点）	臨床推論には、「運動学」・「解剖学」の基礎的知識が役立ちます。必ず復習し整理しておきましょう。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法治療学Ⅲ（神経系障害）		
担当教員	下坂 充		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習

授業科目の概要（一般目標）

脊髄損傷および、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症等の代表的な神経・筋難病について、その臨床症状、病態、医学的ケア、理学療法評価、治療方針、理学療法の実践および社会的支援体制等の知識を座学により学ぶ。多様な神経症状や身体障害と精神・心理面の障害を配慮した上で、日常生活自立度の維持を図る方策を具体的に学ぶ。さらに、神経疾患に対する基本的理学療法手段に関して、治療実技を模擬的に経験し、その成果を実技デモンストレーションと口頭説明を用いて発表し合うことにより実践的問題解決能力を高める。

学習目標（行動目標）

1. 代表的な神経・筋疾患の臨床症状、病態、医学的ケア、評価、治療方針、理学療法の基本事項について説明できる。
2. 被験者に対する実技デモンストレーションと口頭説明を実践的観点に基づき行うことができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		神経難病の概要 1（定義、分類、症状、治療法、理学療法士の役割、社会資源）	下坂 充
2		神経難病の概要 2（ " " ）	"
3		神経難病の概要 3（ " " ）	"
4		パーキンソン病と類似疾患 1（症状、病態、評価、治療方針、理学療法）	"
5		パーキンソン病と類似疾患 2（ " " ）	"
6		脊髄小脳変性症と類似疾患（症状、病態、評価、理学療法）	"
7		多発性硬化症、多発性神経炎（症状、病態、評価、理学療法）	"
8		筋萎縮性側索硬化症（症状、病態、評価、理学療法）	"
9		重症筋無力症、筋強直性ジストロフィー（症状、病態、評価、理学療法）	"
10		脊髄損傷（症状、病態、評価、理学療法）	"
11		リハビリテーション栄養学、実習オリエンテーション	"
12		評価・治療実習 1	"
13		評価・治療実習 2	"
14		評価・治療実習 3	"
15		評価・治療実習のフィードバック	"

テキスト・参考図書	テキスト：嶋田智明、他編：神経難病. 知識と技術の統合に向けて. 文光堂, 2009 医療情報科学研究所編：病気が見えるvol.7脳・神経. メディックメディア, 2011 参考書：細田多穂、他編：理学療法ハンドブック改訂第4版. 第1～4巻. 共同医書出版, 2010 細田多穂監修：中枢神経障害理学療法学テキスト. 南江堂, 2008
成績・評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末試験要件：授業回数の2/3以上の出席を要する。 ・ 成績評価：期末試験 60点以上を合格とする。
その他（履修上の留意点）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書以外に当日配付資料あり。配付資料も学習に活用する。 ・ 実習時は指定された服装等を準備して参加する。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法治療学Ⅳ（内部障害）		
担当教員	川井 伸夫		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授業科目の概要（一般目標）			
<p>内部障害は、生体機能のうち呼吸、循環、消化、排泄などに関わり、生命維持に不可欠な機能であり、肝機能障害や糖尿病などの代謝機能障害なども含め、特に循環機能障害、呼吸機能障害については実技を交えて学ぶ。</p>			

学習目標（行動目標）
<p>1. 内部障害の特徴を理解し、説明できる。 2. 胸部理学療法に関しては、呼吸介助手技を適切に実施できる。</p>

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		内部障害概説	川井 伸夫
2		運動療法における内部障害に対してのコンディショニング効果	〃
3		胸部理学療法 1（評価、聴診）	〃
4		胸部理学療法 2（呼吸器リハビリテーション）	〃
5		胸部理学療法 3（術後肺理学療法）	〃
6		胸部理学療法 4（小児呼吸リハビリテーション）	〃
7		胸部理学療法 5（呼吸介助手技、体位排痰法）	〃
8		循環器障害に対する理学療法 1	〃
9		循環器障害に対する理学療法 2	〃
10		循環器障害に対する理学療法 3	〃
11		代謝障害に対する理学療法 1	〃
12		代謝障害に対する理学療法 2	〃
13		代謝障害に対する理学療法 3	〃
14		腎機能障害、肝機能障害に対する理学療法	〃
15		小腸・直腸・膀胱機能障害に対する理学療法	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト：佐藤徳太郎：内部障害のリハビリテーション増補版、医歯薬出版 参考書：石川朗ほか：理学療法テキスト内部障害理学療法学、呼吸、中山書店</p>
成績・評価の方法	<p>期末筆記試験50%、呼吸介助手技実技試験50%</p>
その他（履修上の留意点）	<p>必要な時期に聴診器を購入する。</p>

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法治療学Ⅴ（発達障害）		
担当教員	山本 良彦		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
<p>肢体不自由児の理学療法治療を中心に、具体的な事例を挙げながら説明していく。発達障害の始まりである新生児期における超早期理学療法の評価と治療方法、NICU（新生児集中治療室）退院後に必要なフォローアップについて学ぶ。地域における発達障害児に対する理学療法士の関わりを紹介する。</p>			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児疾患における理学療法士の役割を理解し、説明できる。 2. 各種小児疾患に対する理学療法治療を理解し、説明できる。 3. 障害児に対する支援の方法を理解し、説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		発達障害総論、発達の診断、評価	山本 良彦
2		ベルテス病に対する理学療法治療	〃
3		二分脊椎症に対する理学療法治療	〃
4		先天性股関節脱臼に対する理学療法治療	〃
5		脳波異常（WEST症候群など）に対する理学療法治療	〃
6		脊髄小脳変性症に対する理学療法治療	〃
7		低出生体重児、ハイリスク児に対する理学療法治療	〃
8		ダウン症候群に対する理学療法治療	〃
9		脳性麻痺児に対する理学療法治療	〃
10		重症心身障害児に対する理学療法治療	〃
11		進行性筋ジストロフィー症に対する理学療法治療	〃
12		小児高次脳機能障害に対する理学療法治療	〃
13		知的障害児の運動障害に対する理学療法治療	〃
14		希な小児疾患に対する理学療法治療	〃
15		障害児スポーツに対するサポート活動	〃

テキスト・参考図書	<p>◆テキスト 陣内一保：子どものリハビリテーション医学、第2版、医学書院</p> <p>◆参考書 龜山富太郎：脳性麻痺ハンドブック、医歯薬出版 千住秀明：子どもの理学療法、神陵文庫 松尾 隆：脳性麻痺と機能訓練、改訂第2版、南光堂 山本良彦：ダウン症リハビリテーションガイド 木原秀樹：240動画でわかる赤ちゃんの発達地図、メディカ出版 伊藤俊之：発達障害児のリハビリテーション、永井書店</p>
成績・評価の方法	期末試験：100%
その他（履修上の留意点）	本講座はそれぞれの小児疾患に対して、臨床場面で実際に行われている理学療法治療を中心に解説する。講義前に疾患像などを確認しておくことは必要だが、毎回の講義をしっかりと復習することに重点を置いてほしい。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	スポーツ理学療法学		
担当教員	赤羽 勝司		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

競技スポーツから健康維持を含めた生涯スポーツ場面で生じやすい傷害に対して理学療法士として適切に既応するための知識・技術について学習する。スポーツ障害の病態と発生機序を理解し、スポーツ選手の体調を管理し、外傷・障害を予防するための理学療法について理解する。競技復帰する過程のアスレチックリハビリテーションを実践するために必要な知識と技術を習得する。また、障害者スポーツについても理解していく。

学習目標(行動目標)

理学療法治療学Ⅱ(運動器障害)で習得した評価内容から、理学療法治療の基本を理解し、治療技術を習得する。各疾患に対する治療法から、スポーツ選手が競技復帰するまでのコンディショニングに至るまでの治療要因を理解する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		スポーツ理学療法概論(1)	赤羽 勝司
2		スポーツ理学療法概論(2)	〃
3		肩関節スポーツ障害(投球障害)(1)	〃
4		肩関節スポーツ障害(投球障害)(2)	〃
5		膝関節スポーツ障害(ACL損傷)(1)	〃
6		膝関節スポーツ障害(ACL損傷)(2)	〃
7		患部外トレーニング(コアトレーニング)(1)	〃
8		患部外トレーニング(コアトレーニング)(2)	〃
9		ストレッチング(1)	〃
10		ストレッチング(2)	〃
11		テーピング(1)	〃
12		テーピング(2)	〃
13		アスレチックリハビリテーション	〃
14		事例検討(1)	〃
15		事例検討(2)	〃

テキスト・参考図書	テキスト：福井 勉 ほか：スポーツ傷害の理学療法 第2版，三輪書店 参考書：浦辺 幸夫：PTマニュアル スポーツ理学療法，医歯薬出版 黒川 幸雄 ほか：スポーツ傷害の理学療法 第2版，三輪書店 山口 光國 ほか：結果の出せる整形外科理学療法，メジカルビュー社
成績・評価の方法	授業態度10%，小テスト10%，期末試験80%
その他(履修上の留意点)	実技を中心に授業を展開していきます。運動ができる服装で受講して下さい。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	地域理学療法学 I (概論)		
担当教員	金井 敏男		
配当年次	2年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

地域リハビリテーションとは、生活拠点に立脚し、保健・医療・福祉・生活・介護に関わる理念と技術が統合されたものである。ここでは、理学療法を中心としつつも、幅広く地域リハビリテーションに関わる理念、医療モデル・生活モデルの流れと関連性、生活評価、各種サービス供給能力とその連携などに関する理解を深め、地域活動における理学療法士の在り方を提言する。

学習目標(行動目標)

1. 障害者や高齢者と社会とのかかわりが理解できる。
2. 地域リハビリテーションに関わる法・制度の概略が理解できる。
3. 理学療法士としての関わり方が考察できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		地域リハビリテーションと社会的リハビリテーションの概要	金井 敏男
2		地域リハビリテーションの歴史的背景とその必要性	〃
3		人間と社会の関係構造	〃
4		障害構造と老年者の特徴	〃
5		維持的リハビリテーションの概要	〃
6		地域リハビリテーションの意義・活動指針	〃
7		地域リハビリテーションに関わる法・制度 1	〃
8		地域リハビリテーションに関わる法・制度 2	〃
9		地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割	〃
10		地域リハビリテーションにおける他職種および一般住民の役割	〃
11		地域リハビリテーション活動の具体的展開	〃
12		地域リハビリテーション活動の連携とネットワーク	〃
13		地域リハビリテーション活動における社会的努力	〃
14		地域リハビリテーションと介護保険	〃
15		障害発生から主体的生活への流れ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：太田仁史 他編：地域リハビリテーション論 第4版 三輪書店 参考書：澤村誠志 監修：社会リハビリテーション論 三輪書店 澤村誠志：地域リハビリテーション私論 三輪書店 伊藤日出男 著：PTマニュアル地域理学療法 医歯薬出版 澤村誠志 編：リハビリテーション白書2 三輪書店 牧田光代：標準理学療法学 地域理学療法学 医学書院 平井俊策 他：老年者のリハビリテーション ワールドプランニング
成績・評価の方法	期末試験 100%
その他(履修上の留意点)	本教科は障害者や高齢者が主体的に生活するための社会的考え方や支援について学ぶものである。 したがって事前学習では、教科書や参考図書、関係文献に目を通しておくことはもちろん、普段から障害者や高齢者を取り巻く社会情勢や問題についてマスコミ情報に目を向け考察する習慣をつけること。 事後学習は、講義ノートを作成し内容を整理し、理学療法士としての考え方や役割が考察することに心がけること。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	地域理学療法学Ⅱ（維持期の理学療法）		
担当教員	金井 敏男		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授業科目の概要（一般目標）			
<p>リハビリテーション医療も施設・病院から在宅へと、地域を基盤として展開が図られ、維持期リハビリテーションと統合し、疾患・障害から、生活を基盤とした新たなリハビリテーションの展開が強く求められている。この授業では、保健・医療・福祉の動向を踏まえて、地域における理学療法の方法論（通所、入所、訪問、介護予防など）を学び、地域リハビリテーションの考え方、システム、チームアプローチの重要性、理学療法士の役割について理解を深める。</p>			

学習目標（行動目標）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 維持期とはどんなものかが理解できる。 2. 生活機能を維持するために必要な考え方が理解できる。 3. 生活機能を維持するための理学療法が提示できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		基本的な理学療法の流れ	金井 敏男
2		病期に応じた理学療法の特徴	〃
3		維持期リハビリテーションの概念	〃
4		維持期リハビリテーションの目的・課題とそのとらえ方	〃
5		維持期リハビリテーションの基本的展開	〃
6		維持期リハビリテーションの具体的内容	〃
7		身体機能と構造に係わる維持期の理学療法	〃
8		活動および生活能力に係わる維持期の理学療法	〃
9		体力および予備能力に係わる維持期の理学療法	〃
10		二次的続発症に係わる維持期の理学療法	〃
11		老化と加齢に対する理学療法	〃
12		障害受容と自己管理に係わる維持期の理学療法	〃
13		生活環境整備に係わる維持期の理学療法	〃
14		維持期における家族指導（介助法・精神ケア）	〃
15		参加およびQOLに係わる維持期の理学療法	〃

テキスト・参考図書	<p>テキスト：指定なし</p> <p>参考書：太田仁史 他編：地域リハビリテーション論 第4版 三輪書店 澤村誠志 監修：社会リハビリテーション論 三輪書店 澤村誠志：地域リハビリテーション私論 三輪書店 伊藤日出男 著：PTマニュアル地域理学療法 医歯薬出版 澤村誠志 編：リハビリテーション白書2 三輪書店 牧田光代：標準理学療法学 地域理学療法学 医学書院 平井俊策 他：老年者のリハビリテーション ワールドプランニング</p>
成績・評価の方法	期末試験50%、課題レポート50%
その他（履修上の留意点）	<p>本科目は、障害者や高齢者が主体的に生活するために必要な生活機能の維持向上を図るために理学療法士としての具体的な係わりを考えるものである。</p> <p>事前学習では、これまでに学んできた知識や演習、臨床実習での経験を応用することはもちろん、参考書、文献、教員等とのディスカッションを参考にし自分なりの係わり方を考え、それを討論に反映できるようにすること。</p> <p>事後学習では、講義および討論の内容・結果などをまとめ、それらを臨床実習や卒後に生かせるようにする。</p>

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	地域理学療法学Ⅲ（施設・在宅の理学療法）		
担当教員	金井 敏男		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要（一般目標）

前半は、地域リハビリテーションを展開する上で重要な知識となる健康状態やリスクの把握・対応方法について、チームアプローチと理学療法の観点から学ぶ（嚥下障害、虚弱、褥瘡、転倒、低栄養、排尿障害、認知機能低下、口腔機能低下、足部のトラブルなど）。

後半は、通所、入所、介護予防、健康増進における集団を対象とした体操・レクリエーションについて、その意義、目的、期待できる効果などについて学ぶ。また、演習を通じて方法論を学び、具体的なプログラムを立案する力を身につける。

学習目標（行動目標）

1. 地域における保健・医療・福祉の活動指針が理解できる。
2. 施設の種類とその事業内容が理解できる。
3. 施設・在宅での理学療法士の役割が提示できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		地域リハビリテーションの概要	金井 敏男
2		地域リハビリテーションの展開	〃
3		理学療法士が関わる分野	〃
4		地域リハビリテーションのサービス内容	〃
5		施設の種類と事業内容の特徴	〃
6		在宅での事業内容の特徴	〃
7		施設での理学療法士の役割	〃
8		集団活動とレクリエーションの内容およびその意義	〃
9		在宅での理学療法士の役割	〃
10		在宅での生活環境整備と福祉機器導入のポイント	〃
11		地域包括支援事業への理学療法士の関わり	〃
12		地域リハビリテーションの効果	〃
13		介護予防と理学療法士の関わり	〃
14		地域支えあい事業への理学療法士の関わり	〃
15		当事者の主体性再構築に向けての具体的方法と理学療法士の関わり	〃

テキスト・参考図書	テキスト：指定なし 参考書：太田仁史 他編：地域リハビリテーション論 第4版 三輪書店 澤村誠志 監修：社会リハビリテーション論 三輪書店 澤村誠志：地域リハビリテーション私論 三輪書店 伊藤日出男 著：PTマニュアル地域理学療法 医歯薬出版 澤村誠志 編：リハビリテーション白書2 三輪書店 牧田光代：標準理学療法学 地域理学療法学 医学書院 平井俊策 他：高齢者のリハビリテーション ワールドプランニング 寺山久美子：レクリエーション 第2版 三輪書店 三好春樹 他：遊びリハビリテーション（障害老人の遊び・ゲームの処方集）医学書院
成績・評価の方法	期末試験50%、課題レポート50%
その他（履修上の留意点）	本科目は、生活を基盤とした施設・在宅でのリハビリテーションの在り方と理学療法士の具体的な関わりを考えるものである。 事前学習では、地域理学療法学Ⅰ・Ⅱで学んだことを応用し、参考書や文献を参考に臨床実習・施設見学・ボランティア活動等の経験を生かし、各種施設や在宅での関わり方を考え、それを討論に反映できるようにすること。 事後学習では、講義および討論の内容・結果などをまとめ、それらを臨床実習や卒後に生かせるようにする。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	生活環境学		
担当教員	川井 伸夫		
配当年次	3年	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授業科目の概要(一般目標)

身体障害を有しても快適な生活を営むことができる生活環境の構築を目的として、生活者である人間に影響を及ぼす外界の諸条件を学ぶ。さらに、具体的な支援方法として、福祉機器や住宅改修の基礎について学ぶ。その上で、事例紹介を通して具体的な解決方法の実践的な要点を学ぶ。福祉機器の体験実習、家屋環境の計測実習、および模擬症例の生活像に応じた生活環境整備計画立案をグループワークにより経験し、種々の要因を考慮した上での総合的環境整備の実践的なアプローチ方法を学ぶ。

学習目標(行動目標)

1. 各障害特性に応じた生活のありかたに配慮した生活環境整備の原則を理解する。
2. 生活環境整備に必要な社会資源や法制度を理解する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		1. 生活環境の概要と基礎(生活環境とは、理学療法との関連性、人体の寸法)	川井 伸夫
2		2. 制度的環境と住まい(日本の社会保障と障害者施策、住環境の基本原則)	〃
3		3. ユニバーサルデザインと福祉用具	〃
4		4. 在宅ケアとハウスアダプテーション	〃
5		5. 生活環境の日常安全性(住宅内の事故と発生要因)	〃
6		6. 施設ケアと療養環境	〃
7		7. 道路・公共交通機関・公共施設のユニバーサルデザイン	〃
8		8. 疾患別住環境整備(高齢者)	〃
9		9. 疾患別住環境整備(脊髄損傷者)	〃
10		10. 疾患別住環境整備(関節リウマチ・骨関節障害)	〃
11		11. 疾患別住環境整備(片麻痺者)	〃
12		12. 疾患別住環境整備(パーキンソン者)	〃
13		13. 疾患別住環境整備(神経筋疾患)	〃
14		14. 疾患別住環境整備(その他の障害)	〃
15		15. まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：未定 参考書：木村哲彦 編 生活環境論第6版 医歯薬出版 鶴見隆正 編 日常生活活動学・生活環境学第4版 医学書院 徳田良英 監 生活環境論入門第2版 DTP出版
成績・評価の方法	期末試験100%
その他(履修上の留意点)	

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法臨床評価実習 I		
担当教員	阿部 裕一		
配当年次	2年	配当学期	後期
年間授業回数		単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習

授業科目の概要(一般目標)

初めて経験する臨床現場である実習施設の機能、各医療従事者と対象者の関わりや理学療法士の業務と範囲、さらに対象者の抱える心理的・身体的・社会的な種々の問題点について具体的に学ぶ。また、学内で学んだ知識・技術を基に、対象者に応じて適切な情報を集め、基本的検査および測定などの評価を実施し、対象者の状態を把握する。第3学年への準備、臨床評価実習Ⅱ、臨床実習の前段階として、学内で学んだことを臨床で体験的に学習し、理解を深める。

学習目標(行動目標)

学内で学んだ知識や技術をもとに、必要な情報を集めることができる。
 基本的な検査および測定などの評価を実施することができる。
 各医療従事者と適切に関わることができる
 理学療法士の業務と範囲について学ぶことができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		①情報収集。 学内で学んだ知識や技術を元に、必要な情報収集を行う。	
2			
3		②評価を実施 基本的な検査および測定などの評価を実施する	
4			
5		③各医療従事者との関わり 各医療従事者と適切に関わる	
6			
7		④理学療法士の業務と範囲について 理学療法士の業務と範囲について学ぶ	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	テキスト：臨床実習の手引き
成績・評価の方法	実習遂行状況20%、実習後プレゼンテーション50%、レポートおよびレジュメ30%
その他(履修上の留意点)	実習開始前に実習の手引きを配布し、オリエンテーションをおこなう。 実習生の心得等を熟読し、実習を受けていただく施設の情報をもとに、患者評価に必要な基礎知識を事前学習することが望ましい。また、体験患者の情報をもとに学んだ知識や技術を事後学習として取り組むことが望ましい。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法臨床評価実習Ⅱ		
担当教員	阿部 裕一		
配当年次	3年	配当学期	前期
年間授業回数		単位数	3単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習

授業科目の概要(一般目標)

学内教育で学んだ知識・技術を基に、対象者に応じて適切な情報を集め、検査および測定などの評価を実施し、解釈・分析・統合して対象者の全体像を把握し、治療プログラムを作成し、一部の治療技術を実践して、その過程・方法を具体的に学び、その中で応用能力を養う。また、臨床実習の前段階として学内教育で学んだことを臨床で体験的に学習し、理解を深める。さらに、実習施設における理学療法士の役割や理学療法部門の管理・運営を学び、医療・社会における理学療法士の役割について理解し、理学療法士として取るべき行動、態度を養う。

学習目標(行動目標)

学内で学んだ知識や技術をもとに、必要な情報を集めることができる。
 基本的な検査および測定などの評価を実施することができる。
 収集した情報から治療プログラムを作成し、一部の治療技術を実践することができる
 各医療従事者と適切に関わることができる
 理学療法士の業務と範囲について学ぶことができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		①情報収集。 学内で学んだ知識や技術を元に、必要な情報収集を行う	
2			
3		②評価を実施 基本的な検査および測定などの評価を実施する	
4			
5		③治療プログラムを作成し一部の治療技術を実践 収集した情報を解析・分析・統合して、対象者の全体像を把握し、治療プログラムを作成し、一部の治療技術を実践する	
6			
7			
8		④各医療従事者との関わり 各医療従事者と適切に関わる	
9			
10		⑤理学療法士の業務と範囲について 理学療法士の業務と範囲について学ぶ	
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	テキスト：臨床実習の手引き
成績・評価の方法	実習遂行状況20%、実習後プレゼンテーション50%、レポートおよびレジュメ30%
その他（履修上の留意点）	実習開始前に実習の手引きを配布し、オリエンテーションをおこなう。 実習生の心得等を熟読し、実習を受けていただく施設の情報をもとに、患者評価に必要な基礎知識を事前学習することが望ましい。また、体験患者の情報をもとに学んだ知識や技術を事後学習として取り組むことが望ましい。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法臨床実習 I		
担当教員	大町かおり		
配当年次	4年	配当学期	前期
年間授業回数		単位数	8単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習

授業科目の概要(一般目標)

実習指導者による指導，助言の下に，評価・治療計画・治療という一貫した治療行為，そのために必要な記録・報告を経験する。また，実習施設における理学療法士の役割や理学療法部門の管理運営を学び，医療・社会における理学療法士の役割について理解し，理学療法士としての行動，態度を実践的に学ぶ。

学習目標(行動目標)

高い倫理観のもと，専門的な知識を基盤とする，根拠に基づく基本的な理学療法を適切に実践できる。具体的には，以下の4点を実践する。

- ①理学療法評価（初期および最終）を実施する
- ②担当患者（利用者）のリスクを評価し，適切なリスク管理を行う
- ③適切な評価過程に基づいた理学療法プログラムを立案し，実施する
- ④理学療法実施中におけるプログラムを適切に変更する

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		①理学療法評価の実施 理学療法評価（初期および最終）を実施する。	
2			
3		②リスク管理 担当患者（利用者）のリスクを評価し，適切なリスク管理を行う。 さらに，実習指導者の助言を仰ぎながら治療・指導実習中のリスク管理を行う。	
4			
5		③理学療法プログラムの立案と実施 適切な評価過程に基づいた理学療法プログラムを立案し，実施する。	
6			
7		④理学療法実施後の評価・報告 評価や理学療法の結果について必要事項を記載し，また報告する。	
8			
9		⑤理学療法実施中におけるプログラムの変更等 患者（利用者）の状態を適宜評価し，実習指導者の助言を仰ぎながら，必要に応じてより適切なプログラムへの変更を行う。	
10			
11			
12		⑥チーム体制の経験・情報交換等 チームアプローチの必要性を理解し，他部門との情報交換を行う。	
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	テキスト：臨床実習の手引き
成績・評価の方法	実習遂行状況20%，実習後プレゼンテーション50%，レポートおよびレジュメ30%
その他（履修上の留意点）	臨床実習の手引きにある実習の目的，実習生の心得等を熟読し ・実習を受けていただく施設の情報をもとに，患者評価に必要な基礎知識を事前学修をしてください。 ・体験患者の情報をもとに，根拠に基づいた統合と解釈ができるよう事後学修をしてください。

リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法臨床実習Ⅱ		
担当教員	大町かおり		
配当年次	4年	配当学期	後期
年間授業回数		単位数	8単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習

授業科目の概要(一般目標)

臨床実習Ⅰの経験を活用し、次の段階として、基本的理学療法を限られた範囲において独立して行うことを体験する。また、医療専門職として責任ある態度、行動を取ることを可能とするレベルの知識習得と資質を養う。理学療法士の立場を認識した上で、関連職種と協調し、患者の生活の質の向上に配慮した対応を総合的に学ぶ。

学習目標(行動目標)

高い倫理観のもと、専門的な知識を基盤とする、根拠に基づく基本的な理学療法を適切に実践できる。具体的には、以下の4点を実践する。

- ①理学療法評価(初期および最終)を実施する
- ②担当患者(利用者)のリスクを評価し、適切なリスク管理を行う
- ③適切な評価過程に基づいた理学療法プログラムを立案し、実施する
- ④理学療法実施中におけるプログラムを適切に変更する

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		①理学療法評価の実施 理学療法評価(初期および最終)を実施する。	
2			
3		②リスク管理 担当患者(利用者)のリスクを評価し、適切なリスク管理を行う。 さらに、実習指導者の助言を仰ぎながら治療・指導実習中のリスク管理を行う。	
4			
5			
6		③理学療法プログラムの立案と実施 適切な評価過程に基づいた理学療法プログラムを立案し、実施する。	
7			
8			
9		④理学療法実施後の評価・報告 評価や理学療法の結果について必要事項を記載し、また報告する。	
10			
11		⑤理学療法実施中におけるプログラムの変更等 患者(利用者)の状態を適宜評価し、実習指導者の助言を仰ぎながら、必要に応じてより適切なプログラムへの変更を行う。	
12			
13			
14		⑥チーム体制の経験・情報交換等 チームアプローチの必要性を理解し、他部門との情報交換を行う。	
15			

テキスト・参考図書	テキスト：臨床実習の手引き
成績・評価の方法	実習遂行状況20%、実習後プレゼンテーション50%、レポートおよびレジュメ30%
その他(履修上の留意点)	臨床実習の手引きにある実習の目的、実習生の心得等を熟読し ・実習を受けていただく施設の情報をもとに、患者評価に必要な基礎知識を事前学修をしてください。 ・体験患者の情報をもとに、根拠に基づいた統合と解釈ができるよう事後学修をしてください。